23-245

野口保興著

世界地理提要

明治
40 11 4
内交

東京
目黒書店
成美堂書店
合梓

世界地理提要

例言

一　本書は世界地理の大要を特論的に記述せしものなり、分ちてアジア洲、オセアニア洲、ヨーロッパ洲、アフリカ洲、アメリカ洲、兩極地域の六篇と爲せり。

一　自然、住民、政治、生業の區分を明にし、此等各部の調和統合に意を留めて地理學の本旨に添はんことを務めたり。

一　土地氣候の特情、天産の殊況を說きて生業發達の基を了らしめ、住民の殊性、政治の特態を明にして國勢の盛否を知らしめんと試みたり。

一　我が國と關係深き土地の記載を密にし特に列强の

現勢を詳にせり。

一 實測の結果に基づき、統計表を參照し、以て事實の精確を得んことを期せり。

一 印行文字に細大の二種を用ひて記事の主客輕重を明示せり。

一 挿畫は徒に多きを貪らず、標準たるべきものを擧げて研究上の方針に付き其の一斑を指示せり。

一 地圖は使用上の利便に鑑み別冊と爲して世界地圖總覽を著作せんとす。

明治四十年八月十五日

著者識

世界地理提要目次

緒言……頁一

◉總論……七

あじあ洲

名稱……七　位置……七
境域……八　廣袤……八
面積……九　海岸……九
地質……一五　山岳……一三
河流……一九　沼湖……二六
地勢……二八　氣候……三一
天産……三四　人口……三六
人種……三七　宗教……四一
分國……四二

◉清國……四六

位置……四六　境域……四六
海岸……四七　山岳……四八
河流……五一　沼湖……五五
地勢……五六　氣候……五七
天産……五八　沿革……五九

世界地理提要　目次

人口……六〇　種族……六二
言語……六五　宗教……六五
教育……六七　風俗……六八
政體……六九　行政區劃……七二
兵備……七五　財政……七八
生業……七九　交通……八七
處誌……九〇
滿洲(一一五)　蒙古(一二二)　新疆(一二三)
チベット(一二五)　租借地(一二六)
◎香港……一二八
◎瑞港……一二九
◉印度支那……一三〇
位置……一三〇　境域……一三〇
海岸……一三一　山岳……一三一
河湖……一三二　地勢……一三四
氣候……一三五　天産……一三六
種族……一三六　分國……一三七
◉フランス領印度支那……一三八
トンキン(一四三)　アンナム(一四五)　コシンシーヌ(一四五)
ラオス(一四六)　カンボヂア(一四七)
◉シヤム國……一四七

◉イギリス領……一五四
バルマ(一五四)　アンダマン、ニコバル(一五六)　海峡殖民地(一五六)
◉マライ群島……一五九
境域……一五九　區劃……一五九
火山……一六〇　氣候……一六一
住民……一六一　沿革……一六一
分國……一六二
◉フィリピン……一六二
◉インシヤリンド……一六七
其一　オランダ領　外領(一七一)
内領(一六九)
其二　イギリス領……一六八
其三　ポルトガル領……一七五
◉印度……一七六
◉印度半島……一七七
位置……一七七　境域……一七七
海岸……一七八　山岳……一七八
河流……一八〇　地勢……一八一

世界地理提要　目次

氣候……一八三　天産……一八四
住民……一八五　分國……一八八
其一　獨立國
ネパール（一八九）
其二　イギリス領……一九〇
ブータン（一八九）
政治……一九〇　生業……一九四
處誌……一九六
其三　ポルトガル領……二〇三
其四　フランス領……二〇三
⊙セイラン島……二〇四
◉イラン高原……二〇八
境域……二〇八　海岸……二〇八
山岳……二〇九　河流……二〇九
地勢……二一〇　氣候……二一〇
天産……二一一　住民……二一一
分國……二一一
◎バルチスタン……二一一
◎アフガニスタン……二一二
◎ペルシア……二一三
◉アラビア……二一六
境域……二一九　海岸……二一九
地勢……二二〇　氣候……二二〇
天産……二二一　住民……二二一
分國……二二二
◎獨立部
オマーン（二二二）　シアムマル（二二三）
◎屬領部……ワハビ（二二三）
トルコ領（二二三）　イギリス領（二二三）
◉アジア　トルコ……二二四
境域……二二四　海岸……二二四
山岳……二二五　河湖……二二五
地勢……二二七　氣候……二二七
天産……二二八　住民……二二八
政治……二二九　生業……二三〇
小アジア（二三〇）　アルメニア、クルヂスタン（二三一）
シリア（二三二）　アラビア（二三二）　メソポタミア（二三二）
◎サモス……二三三
◎キプロス……二三三
◉アジアロシア……二三四
◎コーカシア……二三四
◎中央アジア……二三四
⊙シベリア……二三九

位置……二四七　境域……二四七
海岸……二四七　山岳……二四九
河湖……二五〇　地勢……二五三
氣候……二五三　天産……二五五
住民……二五七　政治……二五八
生業……二六〇
トボルスク(二六三)　トムスク(二六三)　イエニセイスク(二六四)
イルクツク(二六四)　ヤクーツク(二六四)　外バイカル(二六五)
アムル(二六五)　沿海(二六六)　サハリン(二六七)

たせあにあ洲

境域……二七七　區分……二七八

大陸部

◉オーストラリア　タスマニア……二七九
境域……二七九　發見……二八〇
探檢……二八〇　海岸……二八二
山岳……二八三　河湖……二八四
地勢……二八五　氣候……二八五
天産……二八六　沿革……二八七
住民……二八七　政治……二八八

生業……二九〇
◎クヰンスランド
◎新南エールス……二九一
◎ビクトリア……二九三
◎南オーストラリア……二九六
◎西オーストラリア……二九七
◎タスマニア……二九九
……三〇〇

島嶼部

位置……三〇三　地質……三〇三
氣候……三〇四　天産……三〇五
住民……三〇五　所領……三〇六

第一　沿岸島嶼

◉パプア(新ギニア)……三〇八
オランダ領(三一二)　イギリス領(三一二)　ドイツ領(三一三)
◉メラネシア……三〇八
ビスマルク群島……三一四　サロモン諸島……三一四
サンタクルス諸島……三一六　新ヘブライヅ諸島……三一六
新カレドニア……三一六　ピチー諸島……三一八
◉新ゼーランド(ニゥージーランド)……三一九

第二　大洋島嶼……三二六
◉ミクロネシア……三二七
マガリアエンス諸島……三二七
カロリナ諸島……三二八
ジルベルト諸島……三二九
◉ポリネシア……三二九
ハワイ群島……三三〇
サモア諸島……三三五
クック諸島……三三六
ツブアイ諸島……三三九
マルキーズ諸島……三四〇
サライゴメス嶼……三四〇
マリアナ諸島……三二七
マーシアル諸島……三二九
中央諸島……三三五
トンガ諸島……三三七
ソシエテ諸島……三三〇
ツアモツ諸島……三四〇
ラパヌイ島……三四〇

よーろっぱ洲

●總論……三四一
名稱……三四一
境域……三四三
地勢……三四六
水誌……三五一
位置……三四一
海岸……三四四
山脈……三四七
氣候……三五
天産……三五九
分國……三六三
住民……三六〇
◎ロシア……三六六
位置……三六六
地積……三六七
地勢……三六九
沼湖……三七二
植物帶……三七四
沿革……三七六
種族……三七八
教育……三八〇
行政區劃……三八一
財政……三八二
處誌……三八三
バルト海諸州(三八九)
南ロシア(三九二)
ポルスカ(三九五)
大ロシア(三九〇)
東ロシア(三九四)
小ロシア(三九二)
西ロシア(三九四)
境域……三六六
海岸……三六七
河流……三六九
氣候……三七二
天産……三七四
人口……三七六
宗教……三七八
政治……三八〇
兵備……三八一
生業……三八二
◉スカンヂナビア……三九七
◎スエリゲ(スエーデン)……三九九
◎ノルゲ(ノルエー)……四〇二
世界地理提要　目次……四〇四

◎デンマルク……三〇六

◎ドイツ……四一〇

境域……四一〇　海岸……四一一
地勢……四一一　山岳……四一三
河湖……四一三　氣候……四一五
沿革……四一五　住民……四一六
政治……四一八　兵備……四二〇
生業……四二二　處誌……四二八
プロイセン(四二八)　ハンブルグ(四三五)　ザクセン(四三六)
バイエルン(四三七)　ヴュルテンベルヒ(四三八)　バーデン(四三八)
エルザス　ロートリンゲン(四四〇)
殖民地……四四一

●エステルライヒ＝ウンガルン……四四二

境域……四四二　地勢……四四三
山岳……四四四　河湖……四四五
氣候……四四五　沿革……四四六
住民……四四七　政治……四五〇
生業……四五三　處誌……四五六
エステルライヒ(四五六)　ウンガルン(四五九)
◎ボスニエン　ヘルツェゴヴィナ……四六〇
◎リーヒテンスタイン……四六一

●シュワイツ……四六一

境域……四六一　土地……四六二
氣候……四六四　住民……四六四
政治……四六五　生業……四六六
處誌……四六八

◎オランダ……四六九

境域……四六九　海岸……四六九
地勢……四七〇　氣候……四七〇
住民……四七〇　政治……四七一
生業……四七一　處誌……四七三
殖民地……四七四
◎ルクセンブルグ……四七五

●ベルジック……四七六

境域……四七六　地勢……四七六
河流……四七七　氣候……四七七
住民……四七七　政治……四七八
生業……四八〇　處誌……四八二

●フランス……四八四

境域……四八四　海岸……四八四
地勢……四八五　山岳……四八五

河湖……四八六　氣候……四八八
沿革……四八八　住民……四八九
政治……四九〇　生業……四九二
處誌……四九六　殖民地……五〇二
◎モナコ……五〇四

◉イギリス……五〇五
境域……五〇五　氣候……五〇五
沿革……五〇六　住民……五〇七
政治……五〇九　生業……五一一
大ブリタニア……五一九
イングランド（五二五）　スコットランド（五三一）
アイルランド……五三二　マン島……五三四
海峡諸島……五三五　殖民地……五三五

◉イベリア半島……五三八
◎エスパニア……五四〇
◎アンドラ……五四六
◎ジブラルタル……五四六
◎ポルトガル……五四六

◉イタリア……五四八
境域……五四八　海岸……五四九

地勢……五四九　河湖……五五〇
氣候……五五一　沿革……五五一
住民……五五二　政治……五五三
生業……五五四　處誌……五五六
殖民地……五五九

◎サンマリノ……五六〇
◎マルタ……五六〇

◉バルカン半島……五六一
境域……五六一　海岸……五六一
地勢……五六二　河湖……五六二
氣候……五六三　住民……五六三
分國……五六四

◎モンテネグロ……五六四
◎スルビヤ（セルビア）……五六五
◎トルコ……五六七
◎ブルガリア……五七〇
◎クレテ……五七二
◎ギリシア……五七三
◎ロマーニア……五七六

あふりか洲……五八〇
◉總論……五八〇

名稱……五八〇　位置……五八〇
境域……五八一　海岸……五八一
地勢……五八三　山岳……五八四
河湖……五八五　氣候……五九一
天產……五九一　住民……五九四
探檢……五九七　分國……五九九

◉北東地方……六〇三
◎エジプト……六〇三
◎トリポリア(トリポリ)……六〇九
●ベルベリア……六一〇
◎チウニジア……六一三
◎アルジエリア……六一五
◎マグレブ……六一七
◎エスパニア……六一九
●サハラ……六二〇
●スーダン……六二三
◎東方スーダン……六二五
◎中央スーダン……六二六
◎沿海スーダン……六二八

西岸地……六二八　南岸地(ギニア)……六三一
◉アビシニア　ソマーリ……六三三
◎アビシニア……六三三
エシオピア國……六三五　エリトレア……六三六
◎ソマーリ……六三七
フランス領……六三七
イタリア領……六三八　イギリス領……六三八
◉東アフリカ……六三八
◎イギリス領……六四〇
東アフリカ……六四〇　ウガンダ……六四〇
ザンジバル……六四一
◎ドイツ領……六四一
●コンゴー……六四一
◎コンゴー獨立國……六四二
◎エスパニア領……六四五
◎フランス領……六四五
●西岸地方……六四五
◎ポルトガル領……六四六
◎ドイツ領……六四六
◎イギリス領……六四七

◉中央地方……六四七
◎ペチツアナランド……六四七
◎ローデシア……六四八
◎中央アフリカ……六四八
●東岸地方……六四九
◉南端地方……六五〇
◉トランスバール……六五一
◎オレンジリバー……六五四
◎バストランド……六五五
◎ナタル……六五五
◎ケープ……六五七
●島嶼……六六二
◎印度洋島嶼……六六二
◎大西洋島嶼……六六七

あめりか洲

◉總論……
名稱……六七二
境域……六七四
位置……六七三
海岸……六七六
山岳……六七九
湖沼……六八六
氣候……六九一
發見……六九三
分國……六九六
河流……六八二
地勢……六八九
天産……六九三
住民……六九五

北あめりか

◎グリーンランド……六九九
◉イギリス領……七〇一
◉カナダ……七〇一
境域……七〇一
山岳……七〇二
河湖……七〇三
地勢……七〇四
氣候……七〇四
沿革……七〇五
住民……七〇六
政治……七〇七
生業……七〇八
處誌……七一一
◎ニウーファウンドランド……七一四
◎ベルムダ……七一五
◎フランス領……七一六
◉アメリカ合衆國……
境域……七一六
海岸……七一七

山岳……七一八　地勢……七二二
河湖……七二二　氣候……七二四
沿革……七二五　住民……七二六
政治……七二八　生業……七三三
處誌……七三九
東部(七四〇)　南部(七四五)
北部(七四八)　西部(七四九)　中部(七四五)
殖民地(七五一)

◉メキシコ……七五二
境域……七五二　海岸……七五二
地勢……七五三　氣候……七五四
沿革……七五五　住民……七五六
政治……七五六　生業……七五七
處誌……七五八

◉中央アメリカ……七五九
◎イギリス領……七六二
◎グアテマラ……七六二
◎サルバドル……七六四
◎ホンヂュラス……七六五
◎ニカラグア……七六七
◎コスタリカ……七六九
◎パナマ……七七〇

◉アンチル諸島……七七三
◎キウバ……七七五
◎ハイチ……七七八
◎アメリカ領……七八〇
◎イギリス領……七八〇
◎フランス領……七八二
◎オランダ領……七八三
◎ダンマルク領……七八三

南あめりか

◎ゲイヤナ……七八四
◎ベネズエラ……七八五
◎コロンビア……七八八
◎エクアドル……七九一
◉ペルー……七九四
◎ボリビア……七九八
◉チレー……八〇一
◉ブラジル……八〇六
境域……八〇六　海岸……八〇六

地勢……八〇七　氣候……八〇八
天産……八〇八　住民……八〇九
沿革……八一〇　政治……八一一
生業……八一二　處誌……八一三

◉プラタ諸國……八一四
◎パラグアイ……八一六
◎ウルグアイ……八一七

◉アルヘンチナ……八一九
境域……八一九　海岸……八一九
山岳……八二〇　地勢……八二〇
河湖……八二一　氣候……八二二
住民……八二二　政治……八二三
生業……八二三　處誌……八二四
◎フォークランド……八二五

兩極地域

●北極地方……八二七
●南極地方……八三八

世界地理提要挿畫目次

あじあ洲

第一圖　シアンナム人……三八—三九
第二圖　揚子江中流（湖北省）針葉樹林と山岳（雲南省）……五四—五五
第三圖　ヤツリグンバ……一二四—一二五
第四圖　トンキン地方に於ける山岳メコン河の增水、樹林の浸水……一三二—一三三
第五圖　モンゴルアルタイ　パーナルの村落……一四六—一四七
第六圖　土蕃管理官マンダロープ……一七六—一七七
第七圖　カトマンヅの寺院……一八八—一八九
第八圖　二峰駱駝……二二〇—二二一
第九圖　地衣ツンドラと馴鹿サクサウル……二五二—二五三

たせあにあ洲

第十圖　ブリウーマウンテンス……二八二—二八三
第十一圖　チンバツトカモノハシ……二八六—二八七

第十二圖　羊齒林（イツカリ林）……二九二—二九三
第十三圖　羽毬者（綿羊の牧場）……三〇〇—三〇一
第十四圖　バコンノギ（コヤシ）……三〇四—三〇五
第十五圖　山民コヤリ（カナクの住屋）……三一一—三一二
第十六圖　クフウテフ……三二二—三二三
第十七圖　サモア島の婦女（フイヂーの貴族）……三三六—三三七

よーろっぱ洲

第十八圖　エライチウルヤンクフラウ……三五〇—三五一
第十九圖　セライエとポスポロスの南端……三九八—三九九
第二十圖　アルハルラ（優勝館）（井エリクツカ鹽坑）……四四四—四四五
第二十一圖　クリーンケルケ（ボルケーテル）……四六八—四六九
第二十二圖　大軍凱旋門（ロンドン橋）……五〇四—五〇五
第二十三圖　エスエリアル（ベニツエ）……五四八—五四九

あふりか洲

第二十四圖　カメレオン（センザンカウ）……五九〇—五九一
第二十五圖　バナナ（ナツメヤシ）……六一九—六二〇
第二十六圖　サバンヌ（カラハリ）……六二六—六二七
第二十七圖　サイ（キツネサル（レミウル））……六三八—六三九
第二十八圖　アフギバセオ（バオバブ）……六四八—六四九
第二十九圖　象龜（タコノキ）……六六六—六六七

あめりか洲

第三十圖　コンドル（ジアグアル）……六九二—六九三
第三十一圖　シロケマ（セイウチ）（アザラシ）……七一二—七一三
第三十二圖　ニセコイ（ウガンテア）（ロークの高屋）……七三八—七三九
第三十三圖　カリフォルニア……七八六—七八七
第三十四圖　カナチンガ……八〇六—八〇七
第三十五圖　コヒバ樹（アルバカ）……八一二—八一三
第三十六圖　ロザリオ（アラウカノス）……八二四—八二五

兩極地域

第三十七圖　インサンドシス（エレブス火山）……八三四—八三五

附記　挿畫に關して特に參考せし書籍中の主要なるもの次の如し。

Album Géographique—Marcel Dubois et Camille Guy,

Géographie Universelle—Elisée Reclus,

Round the World

The World of To-Day—A.R.Hope Moncrieff,

Bilder-Atlas.

世界地理提要

野口保興著

緒言

宇宙開闢の理論は茲に之を省略するも六合の廣大無邊なるは之を一言せざるべからず、仰ぎて天空を見れば點々として螢火の如き恒星あり又白雲狀を呈する霞星あり、恒星中の最も近きものたる太陽の如きも尚ほ一億五千萬粁の遠きにありて霞星は無數の星辰の群簇より成れりと云ふ。

恒星

霞星

太陽の光熱を受け其の周りに旋轉する天體あり、五百有餘を測觀し得て太陽系の遊星と名づく、中に就き著しきものは木星、土星、天王星、海王星、火星、地球、金星、水星にして我が地球は第六位を占むるに拘らず、其の大さは僅に太陽の百二十八萬分の一たるに過ぎず。

遊星

遊星比較表	太陽	太陰	水星	土星	天王星	海王星	金星	火星
直徑（地球の直徑を單位とす）	一〇八、五八	〇、二七三	一、〇六一	九、二九九	四、二三四	三、七九八	〇、九九九	〇、五二八
體積（地球の體積を單位とす）	一二八三七一〇四	〇、〇二一〇	一二七九、四一三	七一八、八八三	六九、二三七	五四、九五五	〇、九七五	〇、一四七

夫斯の如く地球は宇宙の廣大に比すれば塵埃も雷ならざる細微の一小世界たるも、吾人より觀れば空間に浮遊する一大塊たるを失はずして、其の形狀は學者の所謂「ジェオイド」(Geoid)なるも、橢圓體と爲すを妨げざるのみならず扁平率は$\frac{1}{292+1}$、クラルク(Clarke)に據れば$\frac{1}{293,5+1,1}$、ベッセル(Bessel)に從へば$\frac{1}{299,15}$即ち約三百分の一なれば地球の形體は球狀を呈すと云ふも不可あるを見ず、而して直徑は約一萬二千七百五十粁（地球と等積の球体の中徑は六三七一〇〇三なり）ありて周圍は凡そ四萬粁に達し、體積は一億八百三十三萬立方粁と概算せられ比重は五、五〇五にして重量は五萬六千九百兆噸ありと云ふ。

計算者	ファイユ	ベッセル

橢圓的子午周	半大軸	半小軸	赤道周	面積	體積
四〇〇〇、八〇三二米	六三七、八三九三米	六三五、六五四九米	四〇〇七、六六二五米	五、一〇〇八、二〇〇〇方粁	一、〇八三二、六〇〇〇、〇〇〇〇立方粁
四〇〇〇、三四二三米	六三七、七三九七米	六三五、六〇七九米	四〇〇七、〇三六八米	五、〇九九五、〇七一四方粁	一、〇八二八、四一三一、五四〇〇立方粁

地球の表面は凡そ五億一千萬方粁ありと雖、其の七割二分足らず即ち三億六千六百萬方粁は凹窪にして鹹水の浸す所と成りて海洋を爲し、殘の二割八分餘即ち一億四千四百萬方粁は水面より露出して陸地を爲せり、此の海洋と

面積（單位百萬方粁）	全部	陸部	水部	北緯	南緯
八〇—九〇	三、九	(?)	(?)		〇—一〇
七〇—八〇	一一、六	〇、五	三、四		一〇—二〇
六〇—七〇	一八、九	三、三	八、三		二〇—三〇
		一三、五	五、四		

面積	全部	陸部	水部
	四四、一	一〇、四	三三、七
	四二、八	九、四	三三、三
	四〇、二	九、三	三〇、九

五〇—六〇	二五・六	一四・六	一一・〇	三〇—四〇	三六・四	四・二		三二・二
四〇—五〇	三一・五	一六・五	一五・〇	四〇—五〇	三一・五	一・〇		三〇・五
三〇—四〇	三六・四	一五・六	二〇・八	五〇—六〇	二五・六	〇・二		二五・四
二〇—三〇	四〇・二	一五・一	二五・一	六〇—七〇	一八・九	一・〇	(?)	一七・九
一〇—二〇	四二・八	一一・二	三一・五	七〇—八〇	一一・七	八・〇	(?)	七・五
〇—一〇	四四・一	一〇・〇	三四・〇	八〇—九〇	三・九			
北半球	二五五・〇	一〇〇・四	一五四・六	南半球	二五五・〇	四三・五		二二一・四

陸地との分布は一樣ならずして或は水界に偏する處あり或は陸地の多き部分あり以て水半球（水陸部二三六・九百萬方粁）陸半球（一三〇五の別あるを致せり而して海陸は互に交錯して海の陸間に挾まるるあり陸の海中に突出するありて海に五大洋陸に五大洲の區分あるを見る。

五大洋。

五大洋とは太平洋大西洋印度洋北極洋南極洋を云ふ太平洋(Pacific Ocean, Océan Pacifique, Stiller Meer, Mar Pacifico)は最大にして實に洋中の洋たるものなり殆ど地球の半面を蔽はんとす大西洋(Atlantic Ocean, Océan Atlantique, Atlantisches Meer)は狹長にして陸と陸とに挾まれ印度洋(Indian Ocean, Océan Indien, Indisches Ocean)に至りては三方に陸地を控へ其の廣袤も亦前の二洋に如かず而して北極洋即北氷洋(Arctic Ocean, Océan Glacial Arctique, Nördliches Eismeer)南極洋即南氷洋(Antarctic Ocean, Océan Glacial Antarctique, Südliches Eismeer)は南極或は北極と稱する部分を圍繞せる氷海なり

洋名	深（米突）最大	深（米突）平均	面積（方粁）
北太平洋	九六三三	四一〇〇	一七五四四五〇〇〇
南太平洋	九四二七		
北大西洋	八三四〇	三七四〇	八九九五八〇〇〇
南大西洋	七三七〇	三七八〇	
印度洋	六四五九	三六五〇	七四〇四〇〇〇〇
北極洋	四八四五	八一八	一四〇〇〇〇〇
南極洋	三六一二	一五〇〇	一一三八七〇〇〇
合計	一	三九〇〇	三六五八三〇〇〇〇

五大洲。

五大洲とは亞細亞(Asia, Asie, Asien)亞米利加(Oceania, Océanie)歐羅巴(Euro-

pe, Europa)、アフリカ(Africa, Afrique, Afrika)、アメリカ(America, Amérique, Amerika)を云ふなり而して廣袤の大なるはアジアを以て第一とし之に次ぐはアメリカ、アフリカ、ヨーロッパにして、オセアニアの如きは最も小なるものなり、又アジア、ヨーロッパ、アフリカは舊大陸と稱しアメリカを新大陸と呼びアジアヨーロッパを合はせてユーラシア(Eurasia)と唱ふ。

洲	面積(方粁)	面積百分中	半島	島嶼	海拔(米突) 最高	平均(大陸)
アジア洲	四四三〇、九八〇〇	一七、九	六、四	八八四〇	九五〇	
アメリカ洲	四二一〇、六〇〇〇	五、〇	一〇、〇	七〇四〇	六八〇	
アフリカ洲	二九八二、〇一一〇〇	?	二、一	六〇〇〇	六五〇	
ヨーロッパ洲	九九一、三四〇〇	二七、〇	七、八	四八一〇	三〇〇	
オセアニア洲	八九五、八〇〇〇	?	一五、〇	四二一〇	二六〇	
南極地	九〇一、三〇〇〇	?	?	?	?	?
合計	一、四四一二、〇四〇〇	?	?	?	—	七〇〇

あじあ洲

◉總論

名稱 アジア(亞細亞)なる名稱は往昔コーカシア地方、アゾフ海の東部に居住せしアシエ(Asie)(Asee)に作る人より起れるものなるべしと云ふ。

位置 アジア洲は舊大陸の北部より東部に亘れる陸地にして全部殆と北半球の内にあり、茲に其の四極點の位置を示せば左の如し。

極南	ロッチ島の南端	南緯凡そ	一一度〇〇分
極北	チェリウスキン岬	北緯凡そ	七七 五〇
極西	ストラチオ島の西端	東經凡そ	二四 五五
極東	デヂネフ岬	西經凡そ	一七一 五〇

然れども マライ群島の南東部(南方マライ)を除けば極南はバリ島の南端南緯八度五十二分と成り、該群島の全部を除けばマライ半島のブル岬はア

ジア洲とアジア大陸との極南の地を兼ねて北緯凡そ一度十七分に當る、

境域　本洲は北に北極洋を控え、北東は淺きベーリング海峽に依りてアメリカ洲と隔り、東は太平洋に面し、南東はアラフラ海、チモル海等を以てオセアニア洲と境するが、南方マライの諸島を除けばセレベス海、マカッサル海峽、ジャバ海を挾みて該洲のマライシアに對すること成り、マライ群島全部を省けば南支那海、マラッカ海峽は兩洲の限界と成るなり、南は印度洋に瀕し、西はカラ河、ウラル山脈、ウラル河、カスピ海、マニチ沼河（カフカズ山脈を以て兩洲の境とすることあり）黑海、ボスポロス海峽、マルマラ海、ダルダネル海峽等に依りてヨーロッパと境し、スエズ地峽に依りて僅にアフリカ洲に連なれり。

此の如く本洲の境界は概して天然の地形に基づくに似たれども、亦人爲的に出づるもの少なしとせず、例令ばヨーロッパとの境はオブ河、トボル河、等を以てすべきにウラル山脈を以てするが如し。

廣袤　本大陸は不正四邊形の狀態を呈し、五大陸中にて廣袤最大にして、南北は凡そ七十七度、東西は凡そ百六十二度に亘れるが、南北は八千粁を有し、東西は一萬粁以上に達す。

面積　本洲の南東部に於ける大群島の全部若しくは一部を本洲に附屬せしむると否とに依りて地積は四千四百五十五萬方粁と成り又は四千三百九十八萬方粁と成り或は尙ほ減じて四千二百五十萬方粁と成る、而して第三の地積と雖ども、アメリカ洲の地積より大なるのみならず殆ども、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニアの三大洲を合はせたるものに等しく、第一の面積は我が地球全陸地の三分の一强、地球全面積の十一分の一强に當れり。

海岸　本洲は三大洋に面す、北岸は甚だ簡單にして海灣の凹入、陸地の突出等は至りて少なく、港灣の存するあるも多くは河口、河灣たるに過ぎず、又地角は無きにしもあらざれども、其の盡頭の尖銳なるもの少なし、東部に於ては北方のベーリング海峽より南方のシアム灣に至るまでの內海は半島或は島嶼の爲めに多少區劃せらるるも相互に連絡せり、而して此等の海の中に就きて黃海の朝鮮灣に於けるが如く、渤海の直隸、遼東、萊州の三灣に於けるが如く、南支那海のトンキン灣、シアム灣に於けるが如く、大陸に接近せる地に於

て更に港灣を形成するあり、南部に於ける海岸は顯著なる半島又は海灣を形成し、其の東方の海灣は開濶廣大なれども其の西方に於けるものは狹長にして殆ど閉塞せるが如き形狀を呈す、西部の海岸は最彎曲に富める處なるが狹小なる半島多くして海灣は深く陸地に侵入せり。

此の如くにして本洲海岸線の延長を約六萬粁とすれば海岸線一粁に付き地積七百四十二方粁と成り、其の發達の度は僅にアフリカに優れるのみ、又海洋と大陸の中心との相距ることアジアの如く甚しき處は他に類例なし而して島嶼の配置は東方に偏して大陸の緣邊に近く位し面積は全洲の十六分の一に當れるが、全洲の五分の一に當れる半島の顯著なるものは概ね太平洋及び印度洋にありて南向に突出す而して半島と大陸とを連絡する部分は大抵幅廣きが故に地峽の著しきものは少なし。

- 北極洋
  - カラ海
  - オブ灣
  - イェニセイ灣
  - タイムイル灣
  - ノルデンシェルド海
- 太平洋
  - 海灣
    - ベーリング海
    - オホータ海
    - サハリン灣
    - 樺太灣
    - 日本海
    - 黃海
    - 渤海
    - 東支那海
    - 南支那海
    - トンキン灣
    - シャム灣
    - スール海
    - セレベス海
    - ジャバ海
    - バンダ海
    - アラフラ海
    - チモル海
  - 海峽
    - ベーリング
    - 間宮
    - 朝鮮
    - 直隸
    - 臺灣
    - マカッサル
    - マラッカ
    - パルク
    - オルムス
    - バブエルマンデブ
    - ダルダネル
    - ボスポロス
  - 島嶼
    - 北部
      - 新シベリア群島
      - ウランゲル島
      - 千島列島
      - 日本群島（樺太島、十州島、本州島、九州島、四國島等）
      - 琉球列島
      - 臺灣島
    - 東部
      - 海南島
      - フィリッピン群島
      - ルソン島
      - ミンダナオ
      - ボルネオ島
      - セレベス島
      - モルッカ島
      - 大ソンダ列島（スマトラ島、ジャバ島）
      - 小ソンダ列島（チモル島）

半島　南部　アンダマン列島　ニコバル列島　セイラン島
西部　キプロス島　ロドス島　サモス島　キオス島　レスボス島

半島　北部　ヤルマル　タイムイル
東部　チウクチ　カムチャツカ　朝鮮　遼東　山東　雷州
南部　印度支那　マラッカ　印度　グジェラット
西部　アラビア　シナイ　小アジア

地角　北部　チェリウスキン　スピエトイノス
東部　デヂネフ　ロパトカ
南部　カンボヂア　ロマニア　ブル　ネグライス
西部　コモリン　ラスエルハット
ラスメンヘリ　ババ

地峽　クラ　スエズ

地質　本洲の地質に就きては詳細に之を知ること能はずと雖、既に探究せられたる地に就きて其の面積を比較すれば、第四紀の地最多く、太古界、始原界之に次ぎ、第三紀の地は最少なきに似たり。

第四紀層　第四紀層はアルタイ山系、アラタウ山脈、アラル海、ウラル山脈にて界せらるる地方を以て第一とし、ゴビ沙漠、タクラマカン沙漠の周邊、黃河の下流地方、印度半島の北部及び東海岸、ヤルマル、タイムイル、南半島地方、レナ河の中流地方、メソポタミア、スマトラ島の南東部等に發達す、第三紀層は印度支那半島の北西部、ヒマラヤ山系、天山山系等の地に存在し、中古界はアラビア半島の北部、オブ河の下流地方、漢土等にあり、太古界はスタノボイ山脈とイエニセイ河との間に大露出をなしヒマラヤの西部、パミル高原、天山、アルタイの二山系、黃河流域より印度支那半島に亘れる地方等にも之を見ることを得、始原界及び舊噴出岩の地はデカン半島に最發達せるが又其の他の諸地方にも散布せられて以てアジアの骨格を爲せり、新噴出岩はデカン半島の北西部に於て廣大なる面積を占む。

第三紀層
中古界
太古界
始原界

山誌　本州の山岳は全世界中最顯著にして、南北の趨勢を呈するものもあれども、其の多數は略東西の方向に走り、世界の屋棟と稱せらるるパミル

主要山脈

高原を中心とす、此の處より起りて北東に趣くものは天山山系、アルタイ山脈、サヤン山脈、スタノボイ山脈、と成り、東に走るものはカラコルム山脈、崑崙山系、支那山系と成り、南東に於てはヒマラヤ山系と成り、西方に於ては一はヒンヅークシ、エルブールズ、カフカズ、タウルス等の山脈と成り、別脈はシリア山脈、アラビアの諸山と成れり、而してアルタイ山脈より出づる一支脈はキルギスの丘陵と成りて遙にウラル山脈に達し、又印度支那半島にアラカンヨマ、ペグーヨマ、シャンヨマ、アンナム山脈等の數脈あり、印度半島にはビンディア山脈、東西のガッツ山脈あり。

火山脈

東部の沿岸島嶼には南北に之を貫ける火山質の山脈あり、南は大ソンダ列島のジャバ島よりフィリッピン群島を經て我が臺灣島に入り、日本群島を過ぎてカムチャツカ半島に趣けるが、此の火山脈は太平洋の周邊を圍繞する火山線の一部なりと云ふ。

山岳表

今茲に一表を作りて本洲山脈の概略を知らしめんとす、但し峠、越と特記したるものの外、山系、山彙、山脈、高原の名稱の下に細書せる地名は山岳の名稱にして括弧内の數字は海拔を表示する米突數なり。

- 中部パミル高原（ムスタハアタ（七八六〇）、カウフマン（七四一〇））
- 北東部
  - 天山山系（ヘンテンリ（七三四〇）、デスメゲンウラ（六〇〇〇）、ポケドウラ（四〇〇〇））
  - アルタイ山系
    - アルタイ山脈（ツアサクドポケド（四三〇〇）、ビエルハ（三三五〇））
    - サヤン山脈（ムンクサルダク（三四九〇））
  - ヤブロノイ山脈
  - スタノボイ山脈（マカチンガ（二六八三））
- 崑崙山系
  - 西崑崙
    - キリア山脈（アクメッド越（三一七〇）、ヤンヒ越（四八八〇））
    - 崑崙山脈（ナイグヘン峠（五九六一）、サンヒダメン峠（六七八〇））
      - ツグスダバンタヘ山脈
      - アルチンタヘ山脈
      - アッカタヘ山脈
  - 中崑崙
    - 北脈
      - 南山山脈
      - ブルハンブッダ山脈（トライ峠（四七六六））
    - 中脈
      - 積雪山脈
      - マルコポロ山脈
      - 西傾山脈

- 東部
  - 支那山系
    - 苗嶺山脈
    - カラコルム山脈（ダプサン（八六一九）、ガシェリブルム（八〇三五）
    - 東崑崙
      - 南脈
        - バヤンハラ（巴顏喀喇）山脈
        - ダンラ（當拉）山脈
      - 北脈　大行山脈
      - 南脈　岷山山脈
        - 秦嶺山脈　伏牛山脈
        - 嶍山山脈　大巴山脈
      - 北脈
        - 南嶺山脈　大瘦嶺山脈　仙霞嶺山脈
- 南東部
  - ヒマラヤ山系
    - 南脈
      - ヒンヅークシ山脈（ヒラチミル（七七五〇）、ハツク越（三五四八）
      - エベレスト（八八四〇）、チブチビア（八〇二〇）
      - ヤツサ（八一三二）、モルシアゲ（八〇八三）、ダワラギリ（八一七六）
    - 北脈
      - ナンガパルバット（八一一六）、メンクン（七一三四）
      - パンデルプンチ（八四〇六）、イプンガミン（七七三三）
      - ガルラマンダタ（七六九〇）
      - カンチンジンガ（八五八二）、シースル（八四七二）
- 西部
  - エルブールズ山脈（デマヤンド（五四六五）、ダフトイソレイマン（四四〇〇）
  - カフカズ山脈（カスベク（五〇四四）、ヂフタガ（五一五九）、エルブルーズ（五六四七）
  - アルメニア山彙（アララット（五一五七）、アラゲス（四〇九五）、サバラーン（四八一三）
  - タウルス山脈（ゲククー（三〇〇〇）
  - シリア山脈（ヘルモン（二八六〇）
  - アラビア諸山（ジエブルアフダル（三〇一八）

天山山系

天山山系は東經六十七度より同九十五度に亘る大山系にして幅は西部に廣く、東部に狹く、長さ二千五百粁、面積一百萬方粁以上の地域を占め、五條の並行山脈より成れるが、主として東西の方向を取れり、此の山脈は清國及びロシア國に跨りて、ロシアトルキスタンの高峯たるセメノフ（四六八五）と云ひ、全脈中の最高峯ハンテンリ（七四二四〇）は兩國の境に從ひ、氷河は少なからずして、蓋火山はイシククル地方に於てめらる。

アルタイ山脈

アルタイ（阿爾泰）山脈は一に金山と云ふ、東西八度四十分に亘り長さ六百六十八粁、幅四百四十五粁、面積約十四萬方粁にして清國及びロシアの界内に亘れるが、平均高度は一千二百十九米突乃至一千三百七十二米突にして最高峯ビエルハ（小白山）と雖、三千四百米突に及ばず、本山脈は北西より南東に走れる數脈より形成せられ、ルバガタイなる一支脈はウラル山脈に向ひて伸び行けり、而してサヤン（塞楊）山脈、

崑崙山系

カラコルム山脈

とアルタイ山脈とを合稱してアルタイ＝サヤン山系又は單にアルタイ山系と呼ぶことあり。

崑崙山系は世界屈指の一大山系なり、東西四十二度、四千粁に亘り、顯著なる隆起帶を爲し古代の現出に係れり、分ちて三部とす、其の西崑崙はパミル高原の東方に起りて數多の並行山脈を爲し、北西西より南東東に走り、平均海拔を超過すること九百米突以下なるべし、主脈崑崙は東なるが、最高峯と雖も此の平均を超過すること九百米突内外向してアッカタハと成り、北東に走りてツゲスダバンタハ、アルチンタハと成る、其の中崑崙は東經八十九度より同百四度に亘り、北西西より南東東に起きて大河の水源地なり、平均海拔四千米突以上は西部に讓れども亦高峯に乏しからずして、殊に深谷幽谿に富めり、南北の幅は十五度に達し分かれて三派と成り、ツアイダムの如き高臺地を抱けり、北にアルハンブッダ、西傾南山の諸脈あり、中にマルコポロ、積雪等の山脈あり、南にパヤンハラ（巴顏喀喇）、ダンラ（當拉）の數脈あり、其の東崑崙は東經百四度に起りて同十八度以上に達するが、漢土にありて南北の二脈に分かれ、北脈は大行山脈、其の他の山脈を抱きて黃河の北に起き、南脈は岷山山脈より分岐して北派の泰嶺伏牛、等の山脈を爲し、南派の關山山脈、大巴山脈、等を爲す、海拔は漸く低下して三十米突を超過すること稀なるが、其の趨向も複雜と成りて方位は概括し難し。

カラコルム（喀喇崑崙）山脈は一にムスタハ（氷山）山脈と稱す、長さ八百粁内外、幅百五十粁あり、此の山脈の中には山岳の副王ダブサン（八六一九）を有するが、ラキポチ（七

ヒマラヤ山系

七九一）の如きはギルギット谷地を抜くこと六千米突に及べり、又ムスタハ峠（五七八一）、カラコルム峠（五六五四）、カラタハ越（五四〇〇）あり、海拔の平均、氷河の面積、等に於てはヒマラヤ山系に優れるものあり、而して本山脈の雪線は北面に五千九百二十米突、南面に五千六百七十米突なり。

ヒマラヤ（喜馬拉耶）山系は高山秀嶺に富めること世界第一なり、東西二十五度（東經七十度より同九十五度に達せり）二千二百五十粁に亘り、南北の二脈より成る、其の北脈は一千六百粁の長さを以て印度とチベットとの分水嶺を爲せるが、西方ナンガパルバッド峯に起り、カシミアの中部を貫き、ヌンガン峯を頂き、ドラズ峠に於ては三千三百四十三米突に下りスピチの峽谷を形成し、ニチ越を與へ、ガンガの水源に當りて本脈の最高處たるパンデルプンチ及びイプンガミン、ガルラマンダタの如き高峯を現はし、マリアンラ山脈（四七二五）を分派してサトレヂとザンボとの流域を劃し、東方に起くに從て稍〻低下するも尚ほ五千米突以上に達することあり、其の南脈は西、中、東の三部に分たるるが、四千米突内外の海拔を以てインドス河の東に起り、カシミアの南西境を爲したる後、世界の最高峯たるエベレスト（Everest）（八八四〇）を始めとし、カンチンジンガ（八五八二）、ダウラギリ（八一七六）、シースル（八四七二）、等八千米突以上の高峯を現はせり、而して東方は未だ探檢を經ざる處多し、本山系の雪線は北面に五千六百米突南面に四千九百米突なるが、氷河には廣大なるものあり。

河流

本洲の河流に關する分水線は著に顯明を缺くのみならず、又自然

源泉地

に反するものあり、即ち江河の多くは山間、山麓を洗ひて低地を求むるの順路に依らずして山脈を縦横に切断して進行流下せり、蓋し此等の河流は源を内部の臺地に發するを以て、其外緣に當る山脈を横断するに非ざれば、外海に注入する能はざるが故ならん。

本洲は其の境域内に降下する雨水の配流に對して二大中心を呈供せり、其の一はヒマラヤ山系及びチベット高原にして黄河、揚子江、メコン河、サルヰン河、イラワヂ河、ブラマプトラ河、ガンガ河、インドス河等の水源地なり、其の二はアルタイ＝サヤン山系地方にして黑龍江、レナ河、イェニセイ河、オブ河等の巨流を發す、此の外、パミル高原、アルメニア山彙も各一小中心と稱し得べし、而して本洲の河流の中には水を大洋若しくは其の他の外海に注入せざるもの少なからずして或は沼湖に入るあり或は砂礫の中に流失するあり、

姉妹流

本洲の河流に就きて特に奇とすべきは二水脈が一對に流下して所謂姉妹流を爲すにあり、即ち水源は相接近するの地に發し中流に至りて多少離隔すれども、下流は再び相近づくか若しくは相合して海に注げり、例令はオブとイェニセイ、黄河と揚子江、ガンガとブラマプトラ、インドスとサトレヂ、シルとアムヂグリスとエウフラトの如し。

別世界

本洲はアフリカ洲の如く一大土塊を爲さざるが故に高地と低地との配置も一樣ならずして爲めにシベリア、支那、印度、イラン等數個の別世界を形成せり、從ひて江河も速に山地、高地を流下し、廣漠たる平野に出でて之を貫流し數千粁の地を潤したる後、海に入るもの少なからず、されば亞細亞の巨流は概して中流以下に於て通舟の便を與へ、オブ、イェニセイの二流を除けば自餘の江河は概ね其の河口に於て三角洲を形成せり、而して三角洲の中には或は海中に突出するあり或は海底を塡充するに止まるあり、左に本洲の主要なる河流を列擧せん。

河流表

本流	源	河口	河長	支流
北極洋斜面				
ウルング＝イルチシ＝オブ	アルタイ山系（南部）	オブ灣	五六八五	イシム トボル
セレンガ＝アンガラ＝イェニセイ	アルタイ山系（北東部）	イェニセイ灣	四七五〇	中ツングスカ 下ツングスカ

レナ	バイカル山脈	ノルデンシェルド海	四五〇〇	アルダン井リウイ
太平洋斜面				
黒龍江	ケンテイ山脈	サハリン灣	四四八〇	松花江 烏蘇里江
黄河	バヤンハラ山脈(北面)	直隷灣	四一九五	汾水 渭水
揚子江	バヤンハラ山脈(南面)	東支那海	五一〇〇	岷江 漢江
西江＝珠江(廣東河)	雲南地方	廣東灣	一六〇〇	北江 東江
メコン	ダンラ山脈(東端)	南支那海	四八〇〇	セムン セコン
印度洋斜面				
サル井ン		マルタバン灣	三五七〇	ナムパン ナムポン
イラワヂ	ニアリポルスム地方	マルタバン灣	一九〇〇	チンド井シ シウエリ
ヤルザンボ＝ブラマプトラ	ダンラ山脈	ベンガル灣	二五三三	ブラマクンダ スパンシリ
ガンガ	チベット高原(南縁)	ベンガル海	二七〇八	ジアムナ ゴケラ
ゴダベリ	ヒマラヤ山系(北面)	ベンガル海	一四五五	
インドス	ヒマラヤ山系(南面)	アラビア海	三一九〇	カブール パンジアブ
	西ガッツ山脈			
	ヒマラヤ山脈(北面)			

エウフラト＝シヤトエルアラブ	アルメニア山彙	ペルシア灣	二六〇〇	チグリス
地中海斜面				
キジルイルマク	アルメニア山彙	黒海	八五〇	
内窪地				
クラ	アルメニア山彙	カスピ海	一三二七	アラス
ウラル	ウラル山脈	カスピ海	二三七九	
アム	パミル高原	アラル海	二五〇〇	
シル	天山山系	アラル海	一六五〇	
閉塞地				
テケス＝イリ	天山山系	バルハシ湖	一五〇〇	クンヘス カシ
ヤルカンド＝タリム	カラコルム山脈	ロブノル	?	カシガル ホタン
ヘルメンド	ヒンヅークシ山脈	ハムウン沼	二〇〇〇	ムサバタラ アルハンタブ
ヨルダン	アンチリバノン山脈	死海	二五	

本洲の河流に就き現下の情況に基づきて吾人を稗益するの程度如何を

考査すれば先づ指を揚子江に屈す、之に次げるはガンガにして所謂無用の長物たるの嘆あるべきオブ、イェニセイ、レナを措き、利害相半する黄河、便益を供するに充分ならざる黒龍江、インドス河、等を擧ぐるよりも寧ろ西江、イラワヂ、エウフラト、メナム、等を推すの至當なるを觀るべし。

オブ河

オブ(オビ)河の源流にカツン(六七二)、ビヤ(二三五)の二あり、相合して數水を容れ北西、北、等に向ひオブ灣を形成して北極洋に趨くが、支流のイルチシ河はウルンケの名を以てエクタハアルタイの南面に起りイシム、トボルの二河と會し、トボルスクの以下に於ては方向を北に轉じてオブに會す、流域は三百五十萬方粁にしてウルンケ=イルチシ=オブの長さは五千七百粁に近し。

アムル河

アムル河即ち黒龍江はシルカ(什勒喀)河とオルクナ(額爾古納)河とを以て源流とす、二流の相合するや始めてアムル又は黒龍江と稱せられ、ブレヤを受け、松花江を容るる頃より次第に北東に轉じ、烏蘇里江と合してより全く清國の地を離れ、サハリン灣に注ぐ、長さは四千四百八十粁ありて約二百萬方粁の流域を有す。

黄河

黄河はバヤンハラ山脈の北東面に起り、上流をアルタン(阿爾坦)河と云ひ、東流してチアリン(札陵)、オリン(鄂陵)の二小湖を過ぎ、屈折して甘肅省に入り、黄河と稱せられ、長城を横ぎりて北に出で、東に轉じ、一大彎曲を描きて長城の南に下りて渭水を合はせ、之より漸次北東に趨きて渤海灣に入る、本河は約四千二百粁の長さと九十八萬方粁の流域とを有せるが、水勢急にして水淺く河道一定せざるを以て便益を供すること少なき河流なり、支流も亦著しきものに乏し。

揚子江

揚子江は本洲第一の大河なり、上流をムルイウス(木魯伊烏蘇)と云ひ、バヤンハラ山脈の南西面に發するナムチツ(那木齊圖)、トクトナイ(托克托乃)、カチ(哈齊)、等の數烏蘭木倫(蒙古語にて烏蘭はウルンケ)河流の合流より成れり、而して四川省に入りて金沙江、白水江と稱せられ、雅龍江を容れたる後、長江又は大江の名を得、南京以下を揚子江と云ふ、其の流向は洱海の北東までは略ぼ南南東なるも之より次第に北東、東、南東、等に屈曲し、崇明島の南を過ぎりて海に入る、本流の全長約五千一百粁、流域百八十萬方粁あり、大汽船と雖も二千二百餘粁の上流なる宜昌に溯ることを得、湖沼交通の便を與ふること實に大なり、支流には雅龍江の外、岷江、嘉陵江、烏江、湘江、等ありて、洞庭、鄱陽二湖の水も亦本江に入る。

メコン河

メコン河はチベット高原のタンラ山脈の東端に發し、上流をルンモンチウ、ツアチウ、チアムドチウ、ナムチウと云ひ雲南省に入りて瀾滄江と云ふ、峽谷を南流して印度支那半島に來るやナムコンと稱せられ、メコンと成る、流向に屈折多く水勢穏ならざるもコン湄流以下に至れば佳良の航路を與へプノムペン附近に於てトンレサプ湖の水を受け、前河、後河を派して所謂四肢流を爲し、三角洲を抱きて海に入る、長さは四千五百乃至四千八百粁と計上せらるるも、流域は一百萬方粁を超過せざるべし、支流にナムブ、セムン、セコン、等あり。

ガンガ河

インドス河

ガンガ(恒)河はイブンガモンの嶺、直立四千二百米突以上の地に發す、ブラクナンダ、バギラチ、ゲアナビの三源流は相合して南西に流れ、バルドワルに至れば水源を距ること二百三十七粁に過ぎざるに海拔は僅に三百十一米突に降れり、之よりヒマラヤ山地とデカン高原との間を流れ、方向を南に轉じブラマプトラと共に廣大なる三角洲を爲してベンガル海に注ぐ、河長は二千七百粁に餘り、九十三萬方粁の流域には無双の良耕地あり、灌漑交通の便や絶大なり、支流はジアムナ、ソン、ゲムチ、ゴグラ、ガンダク等を著しとす。

インドス河即ちシンド河は一に印度河と云ふ、水源をチベット高原に於ける海拔六千七百餘米突の地に發してシンガバー河と稱せられ、シアエーク河を容れてインドス河と成り、ギルギット附近に於て方向を南西に轉じスアール沙原を左岸に控え下流は十一派に分かれて三角洲を爲し途にアラビア海に注ぐ、長さ三千粁以上に達し流域は百十萬方粁に及べども、効用はガンガ河に及ばざること遠し支流の著しきものはパンジアブなりとす。

沼湖 本洲は著大なる湖沼に乏しからずして中には海と云ふ名稱を附するの穩當なるものあり、然れども多くは閉塞地若しくは凹窪地に水の溜溜せしに外ならざれば、水底の深きものは甚だ多からず、特にロブノル、ハムウンの如きは乾涸、濕潤常ならずして廣袤の一定せざる沼地なり、又バイカル湖の如く山間湖にして重厚なる水層を湛えたるものも亦少なからざるが廣袤は甚だ顯著ならず、左に本洲の主要なる湖沼を列擧せり。

湖沼	面積	長	濶	高度	水深	水質	排水口
カスピ海	四三、八六九〇方粁	一二六〇粁	四五〇粁(二)	二六米突	九四六米突	鹹	無
アラル海	六、七九六〇	三五〇	二八〇	四八	六七	鹹	無
バイカル湖	三、四九七五	六七二	一〇〇	四七〇	一二四八	淡	有
バルハシ湖	二、〇六〇〇	五四七	八五	二七五	一五〇	鹹	無
イシククル	五七八〇	二〇〇	五三	一五五四	?	淡	有
ココノル	五二〇〇	一〇七	六三	三〇五〇	?	鹹	無
洞庭湖	五〇〇〇	一二〇	六〇	?	三	淡	有
鄱陽湖	四五〇〇	一三〇	五〇	?	四	淡	有
ウルミア湖	四四二〇	一三五	四六	一六九	一四	鹹	無
ハンカ湖	四三八二	九六	八五	四九	一一	淡	有
バン湖	三六九〇	一二五	四五	一六二五	一〇〇	鹹	無

クスクル	三三〇〇	一三〇	四八	一六二二	?	淡	有
ロブノル	二二〇〇	一〇七	二一	七九〇		淡	無
トンレサプ湖	一六〇〇	一二〇	四〇	?	一五	淡	有
ゴクチア湖	一三九九	七一	二七	一九三二	一一〇	淡	有
死海	九一五	七六	一七	(二)三九四	四〇〇	鹹	無

カスピ海　カスピ海は世界第一の大湖にして西、北、東の三面はロシアの地、南の一面はペルシアの地に依りて圍まるる無口湖なり、面積は約四十四萬方粁ありて長さは一千二百粁を超え濶は四百五十粁あり、其の水面は黑海面に比すれば二十六米突低下し、水深は九百米突以上に達する處あるが中部は淺きものの如し、ボルガ、ウラル、等の諸河此處に注ぐ。

地勢　本洲は高嶺秀嶺に富むを以て、五大洲中、地勢最も高く大陸の平均高度は九百五十米突なり、而して高地と低地との配置に就きても一種特別の狀態を呈せり、アフリカ及びオーストラリアに於ては周圍に山脈を繞らし、中央に低處を包む一塊の臺地なるが、之に反してヨーロッパに於ては、山地は半島狀を爲し凹處は海水の浸す所と成り、平野、臺地の如きは其の廣袤甚だ大ならず、然るにアジアの地貌を觀るに高原は殆んど皆相連續し、其の主要なるものに至りては廣袤殆てオーストラリアに讓らざるが如し、而して小アジアの三面とイランの南面とを除けば、其の他の高原は直接に海洋に接すること なくして、廣漠たる平野は高原の周邊を圍繞するか或は其の間に侵入せり、此の特異の地貌は本洲をして風俗を同じうせざる數個の別世界の集合地たらしめたる所以にして、メソポタミア、印度及び支那の三世界相互の關係が疎なりしは實に本洲がヨーロッパ、アフリカ等の大洲に對すると一般なりき。

山地　山地は本洲の中央に横たはれるパミル、チベット、イランの高原を始めとし東は天山山系、アルタイ山系、カムチアツカ山脈等に存し、西はアルメニア、アナトリア(小アジア)の高原、カフカズ山脈等にありて海拔は二千米突以上に達し、面積は七八百萬方粁を占む。

パミル高原　パミル(キルギス語寂寥の義)高原は天山、崑崙、カラコルム、ヒンヅークシ、等の諸山系山脈の會合する處にしてバムイヅニアー(Bam-i-Duniah)(世界の屋棟)と稱せられ、北にカウフマン山(七〇一〇)、キジルアルト峠(四四四〇)、東にムスタハアー

タ(七八六〇)、ウスベル峠(四、六三〇)、南にチラチミル山(七七五〇)、バロギル峠(三七〇八)等を控え、西に向ひて谿谷を開けり、面積は僅に十萬乃至十八萬方粁に止まるも、平均海拔は四千乃至四千五百米突に達し、若干の湖沼を抱けるが此の地に發源する河流少なからず、冬季は積雪多く夏季には雜草の繁茂稍盛なるも樹木は稀にして野獸に乏し。

高地

高地は海拔二千米突以下五百米突以上の地にして沿海シベリア、モンゴリア、カシガリアを始めとし、漠土の北西部并に南部、印度支那、マライ群島、デカンとアラビアとの二半島等に亘り、乾燥に失する砂礫の地たるダーナ、ルート、ククラマカン、ゴビ等の如き沙漠を抱括せるが、面積は本洲の半を超過すべしと云ふ。

低地

低地は海拔五百米突以下の地にして、本洲の三分の一を占むるが、北西シベリア、トルキスタン、メソポタミア、ヒンヅースタン、シャム、漠土の北東部、滿洲等に存在し、地味肥沃にして吾人の生存に最適當する平野多からざるに非ざるも、亦氣温極めて低く生物稀なるツンドラ(凍土)あり、乾濕常なく樹木の繁茂を許さざるキルギス、パラパ等のステップ(草原)あり、濕氣缺乏して砂礫に蔽はるるスァール、カラクム、キジルクム、アククム等の沙漠あり。

窪地

窪地は死海の沿岸、カスピ海の近傍に存するが、蒙古に於けるツルファン附近にも海面下五十米突に位するの地あるが如し。

此の如く本洲には山地、高地、低地、窪地の四種備はり、最高の山岳、最低の窪地ありて肥沃なる平野、磽确なる沙漠、大高原、大低地と共に趣味ある反對を現出せり。

氣温

氣候　本洲は概して温帶に屬し、南の方、熱帶にあるもの并に北の方、寒帶にあるものは實に一小部分に過ぎず、大陸は極南の地たるブル岬と雖、赤道に達することなく、唯、ツンダ列島の中央に於て此の線の通過するあるのみ、然れども本洲が宏大なる陸地を爲すと高低二地に特種の配置あるとに基づきて氣候は概ね大陸的と成り、寒暑の差激烈なるを免れず、即ち南東の地方及び小アジアの沿岸地方を除けば本洲は一般に海洋の温和なる影響を蒙らずして氣温變化の烈しきは實に他に其の比を見ず、ベルシア灣沿岸の地の如

きは北回歸線の北にあれども炎熱の酷烈なる點より云へば稀有の地と稱すべく、シベリアのベルホヤンスクに於ける寒暑の差は六十六度餘に達し、最低、最高兩溫度の差は八十五度に及ぶと云ふ、然るにヨーロッパのスエリゲにある同緯度の海岸にては寒暑の差の平均は十五度乃至二十度なり、要するに年同溫線圖の示す所に據れば本洲の東部は西部より氣溫稍〻低く、南部は北部に比し概ね高溫なれども極寒極暑は極北、極南と符合せず。

次に氣壓に就きて一言せんに、夏季に於ける最低氣壓(七百四十八粍)はイラン、チベットの兩高原地方にあればアジアの北部及び中部の最多風は北東又は北の方向を呈し、西アジアにては北西、印度幷に南支那にては南西又は南なり、而して此等の風向中、南西若しくは南の風は濕風にして所謂季候風なるが其の他の風は乾風なり、又冬季にありては最高氣壓(七百七十八粍)は東シベリアに存在するを以て東部に北西又は北の風多く、南部に北東の季候風吹き荒む、其の他にありては風向區々たり、而して冬季の風は概して乾燥なりとす。

空氣乾燥に失し降雨の稀なるは西方地中海、紅海より、東方殆ど太平洋に達し、南はヒマラヤ山系に界せらるる北地にして、南西部は冬季、北東部は夏季に降雨期の存するあれども、其の間至りて短く、冬季と雖雪線は五千五百米突を下る能はず、此の一帶の地は草原(スチップ)若しくは沙漠にして地味磽确なれば牧畜を以て最適せりと云ふべく住民は甚だ稀薄なり、而して耕作は絶對に行ふこと能はざるに非ざれども、非常なる勞力に依るに非ざれば効果を奏し難し、若し人力の退くことあらんか國土は一朝にして沙漠沼澤の地と成ること、西アジアの歷史の明示する所なり。

然れども眼を轉じて南東アジアの季候風地方を見よ、何ぞ情態の相反するの甚しきや、此の地方は夏秋に降雨多く年雨量の平均は四米突に達し、中にはチェラプンジの如く十五米突以上に達する處あり、此の如く降雨多量なるのみならず、氣溫は炎熱に過ぐる嫌あれども激變の憂少なくして印度、ソンダ列島より南東支那幷に日本の南部に至るまでの地に熱帶的植物の繁茂を來たし、又降水の多量なる爲め大河巨流多く、此等の河流は肥沃なる壤土

を輸送し來りて豊富なる平野を成生し以て全世界中人口の最も稠密なる地方たらしめたり、然るに時として此の地方に猛烈なる饑饉の現出するあるは何の故ぞ、蓋し此の貴重なる降雨は毎年夏季の季候風が勢力を逞しうする場合に降下するものなるが、風向の變化、濕候の到來に多少の遲速ありて、温熱と降雨との關係即ち降雨の多寡と時機との適合ならざるが爲なり。

天産　生物即ち動植物の分布上、本洲の大部は舊北區に、アラビアの南部はエシオピア區に屬せるが、印度半島、漢土の南部、印度支那半島及び附近の島嶼等は東洋區の中にありて、バリ、ロンボク及びボルネオ、セレベスの間を通過するワレース線はアジア、オセアニア兩洲の生物的境界線なり、而して生物の分布は氣候、地味等に關すること極めて大なるが故に、本洲に於ける動植物の配布は均等を缺きて偏重偏輕最も著し、されば亞細亞洲全洲が人類の棲息地として均しく開明の恩澤に浴するの日は蓋し得難かるべし。

植物　植物の分布に就きて本洲をヨーロッパ洲に比較せば多少退縮せるものあるを觀るが、本洲は六個の植物帶に分屬せしむるを得。

洲	類	葡萄	椰樹
アジア	穀	六二度北緯	四二度北緯
ヨーロッパ	北緯	六八	五二
	同	同	同
			四二

北極帶は地衣、蘚苔の生存を觀るに過ぎざるツンドラ(凍土)地方なり、森林帶は「シベリアマツ」(Larix sibirica)「グイマツ」(Larix Dahurica)其の他の樹種より成りて概ね北極圏以南に位し、草原帶は本大陸の中央に於けるステップを總括し「サクサウル」(Haloxylon ammodendron)「チリスン」(Lasigrotis sprendens)の特産あり、而して地中海沿岸帶の果樹に富める、東方帶の耕種的植物に豊富なるは言を要せず、殊に印度季候風帶は「ベニヤン」(Ficus indica)「チーク」(Tectona grandis)「マングローブ」(Rhizophora mangle)或は香料植物「ココヤシ」、藤、竹類を始めとし植物の繁茂は盛を極む。

動物　動物に就きては哺乳類に猩々(Pithecus satyrus)、青狐(Canis lagopus)、銀狐(Vulpes album)、獅子、虎、豹、銀鼠(Putorius erminens)、黑貂(Mustela zibelina)、熊、象、犀、馴鹿(Tarandus randifera)、海獸等あり、鳥類に鸚鵡、金鷄(Phasianus picta)、銀雉(Gallophasis nycthemeros)

rus)、孔雀、丹頂、鴛鴦、等あり、此の他に鰐魚(Crocodilus biporcatus)Tプラ(Naja tripudians)及び蟒蛇(Python tigris)等あり、魚鼈の類も亦多し。

鑛物の藏蓄は、未だ充分に豫察し難けれども頗る種類に富めるのみならず、數量に於ても多く他洲に讓らざるが如し、今主要なるもの二三を擧げんに、金銀、鉛、銅、等はシベリアの山岳帶、其の他、各地に產し、錫はマラッカ半島、マライ群島に多く、金剛石を始めとし其の他の寶石、玉類は印度、印度支那、等に出で、石炭は日本、印度、清國、印度支那、等に、石油はコーカシア地方を始めとし、バルマ、スマトラ、等に多し、而して鐵に富めるは清國なるに似たり。

人口　人口は八億二千萬乃至八億五千萬と概算せられ、世界の人口の過半に相當すれども、密度に於ては本洲(一九)のヨーロッパ洲(四〇)に及ばざること遠しとす、然れども人口の配布は山脈、河流、氣候、天產、等の狀態に依るものなれば、場處に依りて粗密に非常の懸隔を生じ、南東諸國の住人はアジア全洲に於ける人口の百分の八十五に當りて、日本、清國の南東部、印度、等は地球上、人口の最も稠密なる地方とす、從ひて此の地方に於ける一方粁の住民の夥しきは他に多く比類を見ずして、東京、北京、カルカッタ、天津、漢口、廣州、ボンベー、杭州、上海、等は其の一斑を表示するに足れり、而して他の部に於ては人口非常に稀薄にして一方粁に就き數人に過ぎざる處あり、殊にシベリアに於ては一人にも達せざる程なり。

人種　バミル高原は地勢上、東西アジアの境界を爲すのみならず、人類の繁殖上より見るも亦黃色人種とアーリア人種との境界たりしなり、然れども人類の發達は斯る天然の分界線を破りて互に侵入し、黃色人種の西アジアヨーロッパに往住するあり、アーリア人種の東アジアに來住するありて、世界が開明に趣くに從ひ、各種民族の雜居する處と成れるは何れの地も同じきが如し、現今本洲には三種、一亞種の住民あり。

黃色人種は太平洋沿岸の全部を占め、其の境域は西方に趣くに從ひて狹窄し、以て本人種の居住區域を二部に分割せり、其の北部はツングス、東シベリア、西シベリア、等の數群を包括し、其の南部幷に中部にあるものはモンゴル、トルコ、日韓、漢、チベット、印度支那、等數群に分かるるが、黃色人種の一部はカ

スピ海の西なるコーカシア又は小アジアの地に於て他の人種と共に雜居せり、黃種に屬するものの總計は五億七千五百萬にして居住區域は本洲の三分の二に達すと云ふ。

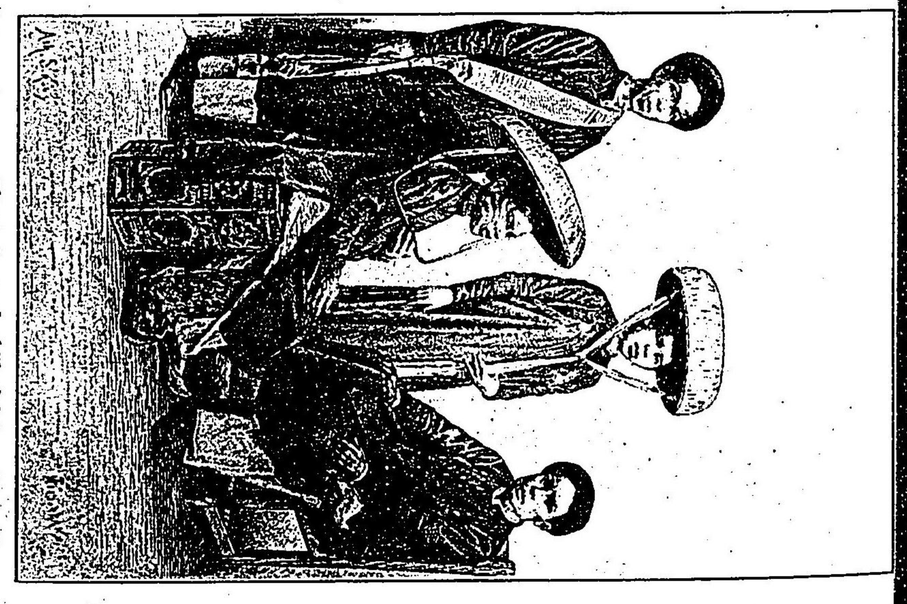
白種

白色人種には二派あり、アーリア派は南部に多くしてセンド群、イラン群は印度の平野よりイラン高原、アルメニア高原に至るまでの地を占む、而して印度に居住するものは他人種の混化を受けたるが爲めに極めて不純粹なる種族を爲す、又スラブ群はシベリアの中部幷に中央アジアに侵入し來りて狹長なる一帶の地を占め、以て二派の黃色人種の間に棲息せるが、其の數は五百萬以上に達すべし、此の外、小アジアには少なからざるギリシア人、レバント人あり、各地にイギリス人、フランス人、ドイツ人等あり、又シリア、アラビア幷にエウフラトの流域にはセム派のアラビア人、ユダヤ人ありて白人に屬する住民の總數は二億五百萬とす。

黑種

黑色人種はネグリト、パプアの二群に分かれ甲者はアンダマン列島、マラッカ半島、フィリッピン群島等に居り乙者はマライ群島に住す。

シア人



アンナム人(男女)

マライ亞種は マラッカ半島及び マライ群島に住して インドネシア、マライの二群を爲せり。

人種	派	群	種	族
黄	モンゴリア	モンゴル	モンゴル	
			ハルハ	
			チャメッド	
			チャハル	
			カルムク	
			ブリアト	
			ヘザレー	
		トルコ	ヤクート	
			タランチ	
			マチン	
			ボルー	
			ウイグル	…
			キルギス	
			バシキル	
			チャウファーシャ	
			ウズベク	
			トルコマン	
			コーカシア	
			タタル	
		ツングス	ラムート	
			オルチャ	
			オロク	
			オロチョン	
			マネグル	
			ビラル	
			ゴルド	
			オロチャ	
			ソロヨ	
			ダウル	
			滿洲	
	支那	日韓	日本	
			朝鮮	
		漢	漢	
			福老	
			客家	

色	北方	チベット
		印度支那
	東シベリア	チベット ドラービダ
		アンナム
		チウクチ
		ナムオロ
		タイ フメル バルマ ラハイン
		コリアク ユカギル ギリアク
		カムチャカダル
	フイン	
	西シベリア	ザモイエド イウラク ソイオト ウリアンハイ
	フイン	オスチアク ボグル
白	ヒンド	ヒンヅー ラヂプト カシミル カフィル
	イラン	タジック クルド アフガン バルチ オセト アルメニア
	ヘレン	ギリシア
	ラテン	フランス イスパニア ポルトガル
	ツートン	ドイツ オランダ アングロサクソン
	スラブ	大ロシア 小ロシア
	アラビア	アラビア
色	セム	

黒色	パプア	パプア(テニムベル セラム ブル チモル フロレス)
	ネグリト	ミンコピー(アンダマン) アエタス(フィリッピン)
		サマング(マラッカ)
マライ	インドネシア	バッタス(スマトラ) ダヤック(ボルネオ) ブギ(セレベス)
		チングイアヌ(ルソン) マノボ(ミンダナオ) 蕃人(臺灣)
	マライ	マライ タガル ビサヤ ビコル

シリア	シリア ユダヤ
パプア	パプア
ネグリト	ネグリト
インドネシア	佛教
マライ	ヒンド教
	ユダヤ教

宗教 本洲は優等なる宗教の淵源地なり、現今行はるる主要なるものは佛教、ヒンド教、マホメット教、キリスト教、ユダヤ教の五とす、佛教は釋迦牟尼を以て教祖とし東部幷に中部の黄色人種は概して之を信奉し、教徒の數は五億と計上せらるるが、或は二億五千萬なりとも稱せらるヒンド教即ち新バラモン教は往古のバラモン教を改造せしものにして印度の住民の大多數(一億九千萬人)の歸依する所たり、ユダヤ教はモセスの遺訓を傳ふるものなる

キリスト教
マホメット教
シアマン教

が教徒は五十萬に過ぎずして各地に散在す、キリスト教はヤソキリストの起せし教なるが其の信者五百萬は各地に散居せり、マホメット教即ちイスラム教はマホメットに始まりアジアの西部幷に中部を占領して尙ほ印度地方及び支那の北部に侵入し、マラッカ半島、マライ群島にも行はれ、教徒(一億三千萬)は佛教、ヒンド教に次ぎて多し、以上の外に北部に於ける黄色人種中にはシアマン教を迷信するもの少なからず、上記の諸教に就きて佛教と云ひキリスト教と稱するも幾多の宗派に分かるるは人の能く知る所なるが、マホメット教と雖も四派に分かれ、其の一派にして三十餘門に分かるるものあり。

分國表

分國 本洲に於て獨立國と稱すべきは我が日本の外、清國、シアム、アフガニスタン、ペルシア、オマーン、ネパール、ブータンの七國に過ぎずして、其の他はイギリス、ロシア、トルコ、フランス、オランダ、ポルトガル、ドイツの如きヨーロッパ諸國及びアメリカ合衆國の領する處なり。

邦土	地積	人口	方付	都邑
日本帝國	六七、三五一八	五七三三、四六〇〇	八五	東京
日本	四五、一〇一二	四九五八、四六〇〇	一一〇	東京
關東州	三八五六	二五、〇〇〇〇	六四	旅順
韓國	二一、八六五〇	七五〇、〇〇〇〇	三四	京城
清國	一一一三、八八八〇	三、三〇一三、〇〇〇〇	三〇	北京
シアム國	六三、三〇〇〇	六〇〇、〇〇〇〇	九	バンコク
ブータン	三、四〇〇〇	二五、〇〇〇〇	七	タシスードン
ネパール	一五、四〇〇〇	三〇〇、〇〇〇〇	一九	カトマンヅー
アフガニスタン	五五、八〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇	九	カブール
ペルシア	一六四、五〇〇〇	九〇〇、〇〇〇〇	六	テヘラン
オマーン	一九、四二〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	五	マスカット
無所屬アラビア	二四七、二九〇〇	一九五、〇〇〇〇	〇、八	
アジアトルコ	一七六、六八〇〇	一六八九、八七〇〇	九	スミルナ
※サモス	四六八	五、四八三四	一一七	ワチー
※キプロス	九六〇一	二三、七〇二二	二五	ニコシア

ロシア	一七三三、三七五四〇	二四八一、六七八二	一
ロシア。	四七、三〇二六	九二八、九三六四	二〇 ナフツス
中央アジア。	三六四、七〇五七	七七四、六七一八	二 タシカンド
シベリア、	二二四、六〇〇〇	五七三、〇七〇〇	〇、五
アムール	二〇、〇〇五、〇二	二二五、〇〇〇〇	六 アムール
ヒバ	六、〇〇〇〇	八〇、〇〇〇〇	一三 ヒバ
カスピ海	四三、八六八八	一	一
アラル海	六、七七六九	一	一
イギリス領	五一九、一七〇〇	三、〇二〇二、五〇〇〇	五八
印度帝國。	四八二、六〇〇	二、九五二、〇〇〇	六四 カルカタ
セイロン。	六、五九九三	三八一、二九三	五八 コロンボ
マルタバ。	三〇〇	三、〇〇〇〇	一〇〇
海峡植民地。	二九五二	五九、六四八六	一五一 シンガポール
マライ保護國。	七、〇〇〇〇	八三、八一五一	二二
ジョホル。	一、八〇〇〇	二〇、〇〇〇〇	一一
北ボルネオ。	八、〇五六一	一六、〇〇〇〇	二 サンダカン
ブルネイ。	七八	八四一一	一〇八 ブルネイ

アジア			
印度	三六五八	五三、一七九八	一四五 ゴア
チモール	一、六二四八	二〇、〇〇〇〇	一二
カンボジヤ	二二	七、八六二七	一
マカオ。	一、九九一八	八一、〇〇〇〇	四〇
ポルトガル領	五、九〇〇〇	九二〇〇	〇、一
コンゴ領	二九、六三一〇	七六二、五四二六	二七 マニラ
アメリカ領	九、〇五一〇	二七、三一八五	五四五 ボンガシネー
印度。	六六、三七〇〇	一八九二、五九八九	二九 ハノイ
印度支那	四二〇〇	一九一九、九一七三	二九
フランス領	一五二、〇六二八	三七四九、四〇〇〇	二四 バタビア
オランダ領	……	……	……
其他島嶼。	七三八	二三、〇七九二	一七八
威海衛租借地。	九七四	一〇、二二五四	一〇三
香港租借地。	三六四、七〇五七	三六、五〇〇〇	一 ビクトリア
香港。	七九	五〇、〇〇〇〇	五 クチン
サラワク保護國	一〇、三二二一	一、〇〇〇〇	〇、五
アルキイ保護國。	二、一〇〇〇		

ドイツ領（膠州灣租借地）	五〇二	一二、〇〇四	二一七	青島
合計	四四三七、〇一六四	八、二二九七、四八七八	一八	

⑦ 清國

位置 清國。國人は中華、華國、中國と云ふ、は支那と通稱せらるゝアジア洲の東部より起りて中央部に達する一大帝國なり、其の極南の地は海南島の南端にして北緯十八度十三分に當り、其の極北の地は蒙古のイルキクタルカツグ山脈の北端北緯五十六度四十分なり、又極西は新疆の西端、東經凡そ七十三度にありて極東は黑龍江とウスリ江との相會する點、東經百三十五度なり。

境域 清國の形狀。は東部の海岸線を底としパミル高原の東邊ムスタハアタ山を頂點とする所の一の孤狀線三角形なり、北西及び北は天山、アルタイ等の山系幷に黑龍江に依りてロシアのシベリアに境し、東はウスリ江、不咸山脈、鴨綠江、等を挾みてロシアの沿海州及び我が保護を受くる韓國に隣り、黃

形狀

面積

海岸線

海、東海に瀕す、又南は南支那海を受けフランス領印度支那幷に印度帝國のバルマに連なり、南西はヒマラヤ山系、カラコルム山脈、パミル高原等を隔てイギリス領印度、ブータン、ネパールに接し、西はロシアの中央アジアに限らる、廣袤は南北凡そ三千五百粁、東西凡そ五千二百粁あり、面積は其の計數を一にせざるも約一千百十四萬方粁とすればイギリス、ロシア、フランスに次げる大國にして、アジア洲の四分の一に當れり。

海岸 清國は邦土の廣大なるに拘らず、海洋を控ゆる處は、東部のみにして、港灣、海峽、等は悉く太平洋に屬せり、而して沿海には北海、黃海、東海、南海、等の名稱あり、其の海岸は概して屈曲に乏しきを以て海岸線の發達は充分なりと云ふを得ざるが延長は三千五百粁に過ぎざるべし、彎曲の大なるものは北部に存すれども良港と稱すべきものに乏しく、中部の東海幷に福建海峽に瀕する海岸には顯著なる出入を見ざるも亦佳良なる港形を呈せざるに非ず、又南部の南海に接する海岸にありては廣東灣、其の他、二三の小灣を見るのみなりとす。

海灣
- 北海(渤海)
  - 遼東灣
  - 直隸灣
  - 萊州灣
- 黃海
  - 烟臺灣
  - 威海衛灣
  - 榮城灣
  - 膠州灣
- 東支那海(東海)
  - 揚子江口
  - 杭州灣
  - 寧波灣
  - 三門灣
  - 臺州灣
  - 温州灣
  - 南關灣
  - 三沙灣
  - 福州灣
  - 福建(臺灣)海峽
  - 興化灣
  - 湄州灣
  - 泉州灣
  - 廈門灣
- 南支那海(南海)
  - 詔安灣
  - 海門灣
  - 廣東灣
  - 廣州灣
  - 東京灣

海峽(廟列島海峽)
- 福建(臺灣)海峽
- 海南(瓊州)海峽

半島(遼東半島)
- 山東半島
- 雷州半島

地角(旅順角)
- 長山角
- 山東(成山)角
- 揚子角
- 寧波角
- 冠頭角

島嶼
- 桃花島
- 光祿島
- 長山列島
- 廟列島
- 崇明島
- 舟山列島(舟山普陀山)
- 金門島
- 海壇島
- 厦門島
- 南澳島
- 東海島
- 海南島
- 海南島

山誌　世界の屋棟と稱せらるるパミル高原幷にカラコルム山脈より起る數條の大山脈は開きたる扇の骨の如く或は北東に行き或は東に向ひ又南東に走り、以て此の廣大なる支那の國土を抱括せるが、其の北東に行くものは天山山系、アルタイ山系の一派にして、其の中部に於けるものは崑崙山系に屬し、其の南東に走れるものはヒマラヤ山系なり、今左に一表を作りて主要なる山脈と顯著なる山岳とを列記せり。

- パミル(巴密爾)高原
  - ウスベル越(四六三〇)
  - ムスタハアタ(タガルマ山)(七八六〇)
- 天山山系
  - 天山山脈 ハンテンリ(七三四〇)
  - ボロホロ山脈 デスメゲンツラ(六〇〇〇)
  - エデメク山脈 ボゲドツラ(六〇〇〇)
- アルタイ山系
  - アルタイ山脈
    - エクタハアルタイ山脈(ツアサクツボグド四三〇〇)
    - タンヌ(唐努)山脈
    - ハンタイ山脈
    - ハンアイ(杭愛)山脈
    - ケンテイ(肯特)山脈
  - サヤン(塞楊)山脈
  - イルキグタルカック(噎爾奇克達爾嘎克)山脈
- 崑崙山脈
  - キリア山脈
    - アクメジッド越(三一七〇)
    - ヤンヒ越(四八八〇)
  - 崑崙山脈
    - ナイケハン峠(五九六一)
    - サンヒダバン峠(六七〇〇)
    - ツグスダバンタハ山脈
    - アルチンタハ山脈
    - アッカタハ山脈

崑崙山系
- 中崑崙
  - 北脈　南山山脈　ブルハンブッダ（トライ峠）（四七六六）　西傾山脈
  - 中脈　積雪山脈　マルコポロ山脈
  - 南脈　バヤンハラ（巴顏哈喇）山脈・ダンラ（當拉）山脈
- 東崑崙
  - 北脈　大行山脈　恒山山脈（恒山）　燕山山脈　七老圖山脈
  - 南脈　岷山山脈（秦嶺山脈（太平山（三三五〇）寧山）　伏牛山脈（嵩山（三五〇））　嶓山山脈　大巴山脈
- 陰山山脈（ハラガロイ山（二六〇〇））
- 興安山脈　大（西）興安山脈　伊勒呼里山脈　小（東）興安山脈
- 長白山系　山東山脈（泰山（一五四〇））　遼東山脈　不咸（長白）山脈
- 横斷山脈
  - 雪山山脈　他念他翁山脈　雪嶺山脈
  - 素龍山脈　大雪山脈

支那山系
- 苗嶺山脈（霧露結山脈　鳳嶺山脈　牛塘山脈
- 大度嶺山脈（八十里山脈衡山　萬洋山脈
- 仙霞嶺山脈（天台山

ヒマラヤ山系（コベレスー山（八八四〇）　チアマラリ山（七九〇〇））

支那山系は一に南山山系と云ふ、淡土の南東部、八十萬方粁の地に亘る山岳、丘陵の總稱にして、地殼の方向は大體に於て南西より北東に走れるも、宏大なる山脈、山嶺の存するなく、起伏凡庸にして海拔は五百乃至七百米突に過ぎず、最高峯と雖ども千米突に達するものなく、各處に於ける峠の如きも概ね交通に困難を來たすに至らず、又東海の沿岸は鋸齒狀を呈して數多の港灣を抱けるが、本山系は海を隔てて遙に日本群島の中央に達すと云ふ。

水誌　清國は土地廣大にして高巒秀峯に富めるを以て長流巨河に乏しからず、特に降雨積雪の多量なる地方に發する江河は多量の水を輸送するを以て灌漑の利と交通の便とを與ふるもの甚だ多し、而して山脈の趨勢と流域の狀態とに依りて江河を類別するときは北極洋、太平洋、印度洋の三斜面と閉塞地とに屬し、北極洋斜面、印度洋斜面に屬するものは概ね其の上流のみ清國内にあるを見る。

北極洋斜面
- ウルング河（ツルンガ（薛靈哥）河）
- ファケム河（ペイケム河）
- 黑イルチシ（也兒的石）河
- イヒニセイ（葉尼塞）河
- セレンガ（エテル河、エケゴル河、オルホン河）

太平洋斜面

黑龍江（松花江、烏蘇里江）　豆滿江　鴨綠江　遼河（東遼河、渾河）　欒河

白河（潮河、永定河、滹沱河、衛河）　黃河（洮河、清水河、烏蘭木倫河、無定河、汾水、渭水、洛水）

淮河（沙河、渦河）　揚子江（無量河、雅龍江、泯江、沱江、赤水河、嘉陵江、烏江、瀘江、沅江、湘江、漢江、贛江）

錢塘江　甌江　閩江　韓江　珠江（西江、北江、東江）

紅河　瀾滄江（メコンの上流）

印度洋斜面

怒江（サルウイン）の上流　龍川江（イラワヂ）の支流　ザンボ（藏布）河

サトレヂ河（上流）　インドス河（上流）

閉塞地

タリム（塔里木）河（ホタン（和闐）河、カシガル（喀什噶爾）河、ヤルカンド（葉爾羌）河）　イリ（伊犂）河

黑龍江滿名をサハリンウラ、蒙古は一にアムル（蒙古語のムレンと稱す、源流の一名をカワムレンと云ふ（江を訛れるなり）

なるシルカ（什勒喀）河はシベリアのソホンド山より發するインゴダ河と蒙古のケンテイ山脈より出づるオノン（敖嫩）河との合流より成る、第二の源流はケンテイ山脈の南面に發してケルレン（克魯倫）河と稱し、ハルハゴル井にブイノルの水を提げ來るウルスン（額爾順）河とフロン（呼倫）湖に於て相會しダライゴルと成りて流出し、大興安山脈よりクルヅルの名を以て出でたるハイラル（海拉爾）河を合はするオルグナ（額爾古納）河なり、支流の中、最著しきは松花江、土門河、伊通河、嫩江、拉林とウスリ

（烏蘇里）江、松阿禪河、大穆稜河、訥羅河なりとす。

遼河は滿洲第二の河流たり、上流をシラムレン（西喇木倫）と云ひ、ロハムレン（老哈木倫）を合はせて西遼河と成り、東遼河を容れ、沙漠の地を去り南東流して柵內滿洲沃野の地に入り始めて遼河と稱す、錦嶺の附近に於て哈達河を拉へ來る葉赫河に會し流向を南西に轉じ、太子河を伴ひ來る渾河、蓋息牧河（サルム）等を合はせたる後、數回の屈曲を爲して遼東灣に趨けり、三米突半に昇る潮汐を利用すれば四遼河以上にも溯航し得ると云ふ。

白河は陰山山脈の南方に起る獨石水を源流とす、通州附近を過ぎたる後、潞河、北運河、北河の名を得、天津の近傍よりは更に海河と成り遂に直隸灣に趨く、下流の地勢たるや平坦にして傾斜極めて緩なれば流向に屈曲多く排水に欠くる所ありて河水の氾濫を免れず、本流は源委通じて四百五十乃至五百粁と概測せられ、河幅は天津に於て一百米突內外にして下流百三十粁は通舟の便あり。

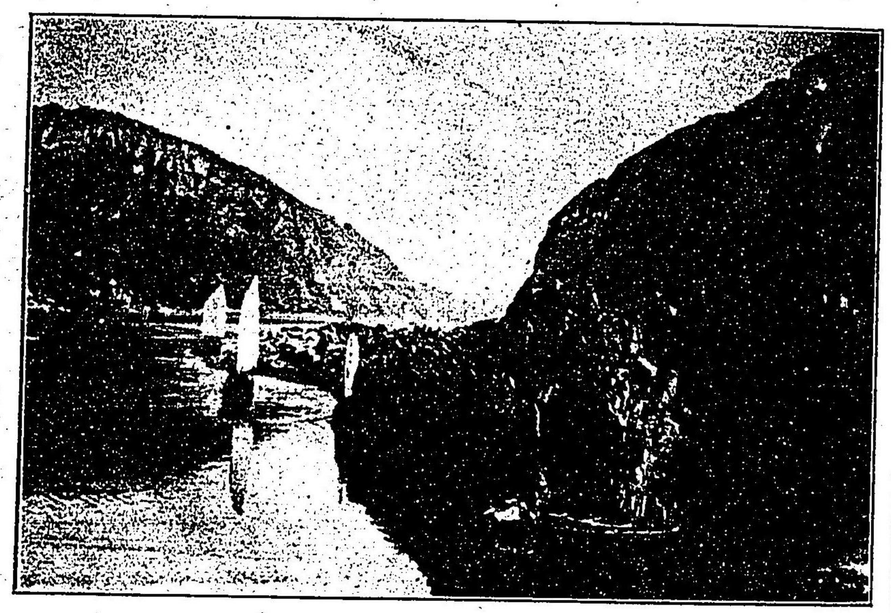
黃河は「レース」（黃土）の堆積せる地方を流れ河水濁濁なるが故に此の名あり、一大彎曲を爲して河套を繞り平坦なる沙原を流るるや水勢漸く散漫し河水愈黃濁を加ふ、本河は瀦流上又は交通上に多少の利便を與へざるに非ざれとも、水勢の急激なると河道の一定せざるとに依り大害小害の河流たるを免れず、實に黃河の河道は二十五世紀間に十數回の變更を爲したる後、開封を經て南東に流れ、一派の水は數湖を出入して揚子江に達せしが、一八五一年の洪水の際、流向に變移を生じ數年を

揚子江

揚子江は單に江と稱せらる、世界屈指の巨流にして水源より河口に至る距離は五千粁に達するも、其の流域九百八十萬乃至百四萬方粁は全然清國に屬すること黄河の如し、然れども遠く青海地方に發源し西藏の東部を經て漢土に入り八省の地を流過するが故に源委に通ずる一定の名稱なく、ムルイウス、ブリチウ、金沙江、白水江、大江、長江、揚子江、等枚擧するに遑あらず、河幅は重慶に於て七百米突、漢江との會點一千百粁に二千四百米突あり、水深は江寧附近に四十米突内外なるが江口に近づくに從ひて江床は少しく隆起して沙洲の成生を促すが如し、水量は漢口に於て年平均一萬八千四百五十八立方米突なり、而して一二月の頃に最低く七八の兩月を最高とし、潮汐は大潮に際して河口を距る八百五十粁の鄱陽湖に達す、又江水は毎年全流域より一米突の萬分の一の地を削り來りて河口に於ける一百平方米突の面積に厚二米突の泥土を敷く割合なりと云ふ。

西江

西江は雲南府の北東百三十粁の地に發して八達河と稱せらる、次に南盤江、紅水と呼ばれ廣東省に入りて始めて西江の名あり、三水附近にて運河に依りて北江に通じ三角洲に入る、本江は南流して最西の派流大西江を爲し、右岸より來る新會江と共に數派を爲して更に別個の三角洲を爲す、而して北江は南東に流れ廣州府の前を過ぎ東江に會し南流して珠江と成り仔伶灣に趨き西江と共に幾多の島嶼を挾みて南支那海に通ず、本江は源委通じて一千八百粁なりと云ひ流域の如きは四



揚子江（平善霸附近）［湖北省］

山岳と針葉樹林［雲南省］

十萬方粁と概算せらる。

沼湖　清國は邦土の廣濶なるに拘らず、著大なる湖澤を有せず、然れども其の數は少なからずして淡水なるあり、鹹水なるあり、或は無口のものあり。

北東部　ハンカ(興凱湖(四九米突))　フロン(呼倫)池　ベイル(貝爾)池

北西部　クスクル(庫蘇庫兒)湖(一六二二)　ウブサ(烏布薩)湖(八一〇)　カラノル(哈拉泊)　イクアラク湖(伊克阿拉古泊)(一一七〇)　バグラチゥクル(九〇〇)　ロブノル(羅布泊)(七九〇)

南東部　洪澤湖　高郵湖　寶應湖　太湖　鄱陽湖　洞庭湖

南西部　ココノル(庫々諾兒)(三〇五〇)　テンリノル(騰里泊)(四六三〇)　パルチ(巴爾齊)湖(四二一〇)　マナサラワル湖(四六〇〇)

洞庭湖は清國第一の大湖にして長さ百二十粁、幅六十粁あり五千方粁の面積を以て湘江、沅江、資水、澧水、微水、等を容れ湖口に依りて揚子江に通じ、相關連して交通潤滌の便を與ふること甚だ多し、湖中には看篭山、石門山、明山、君山、等の島嶼の出現せるあり、殊に君山は著名にして高さ六百米突乃至九百米突に達し冬季巻初、揚子江の水涸るるに當りては陸地に接續するに至る。

洞庭湖

鄱陽湖

ココノル

鄱陽湖は四千五百方粁の面積を有す、長さは百七十餘粁にして幅は九粁乃至三十五粁、周圍は三百二十粁と概測せらる、湖中島嶼多く北部は風景絶佳なり、湖上は風波の変少なからずして漁舟、運船は沖合に出づること稀なりと云ひ又冬季には湖水乾涸して泥土を露出するに至ると云ふ、

ココノル(庫々諾兒)即ち青海は海拔三〇五〇米突の地にあり、プハイインゴル、其の他の河流を受くれども出水口なきが故に鹹湖を爲し、水深一八米突に過ぎざれども水色青綠を呈するが、湖の周圍には峰巒蟠亘して風色明媚なり、湖上に二小島あり。

地勢　西部幷に北西部は七百五十萬方粁の面積を有して帝國全土の五分の三に當り、一大高原を爲して周圍には高山秀嶺に富める山脈を繞らせり、ヒマラヤ山系の北面にありては平均四千米突以上の高臺を爲せるが、數個の階段を爲して漸次に低下し、戈壁の沙漠(瀚海)蒙古の草原と成れば一千一百乃至九百米突に下れり、殊に天山山系の北方なるゾンガル盆地の如きは六百米突に達せざるなり、又北東部幷に南東部にありては中央の臺地より分派せる數多の並行山脈は高地より流れ來る諸水の灌域、谷地を形成し、黃河と大江との流域は殊に廣大なりとす、而して南東部は殆ど漢土の全部に當りて黃河の流域に當れる北漢(俗に北清と云ふ)は當らざるなりは一般に黃土即ち「レース」に

蔽はれ肥沃の地に乏しからず、中漢(南清と稱するは當らず)は揚子江の勢力を逞しうする處にして山岳谿谷多く、平地廣からず、地貌極めて錯綜せり、南漢(廣東地方とも稱す)は起伏に富み平地少なし、

氣候　當國の境域甚だ廣大なれば其の氣候の一樣ならざるは勿論なれども、元來海洋に瀕すること多からざるのみならず、又中央アジアの高地に關連せるを以て、自然の結果として大陸的ならざるを得ず、されば氣候は概してシベリア的の凜烈候に非ざれば、熱帶的の炎暑候にして中和を得たる好氣候の地は殆ど缺乏せるに似たり、而して本帝國の外藩部幷に黃河以北の地は溫度の變化も亦甚だ急激なるが、空氣は乾燥にして降雨は春夏の候に多からずと雖も冬季の降雪は少なからずして河水は凍結するを常とす、又此の地方は風多くして風力强く戈壁沙漠にては殊に甚しく、烈風屢〻起りて砂礫を飛ばし白晝爲めに咫尺を辨せざるに至る、大江幷に南部河江の流域は熱帶或は亞熱帶に屬するを以て夏季には酷暑を覺ゆれども冬季は溫暖にして氷雪に苦めらるることなく春季は降雨多けれども秋季は無上の好氣候なり、

然れども立春、立秋の頃に於て季候風が方向を變ずる際には大風と稱する旋風の起ることありて國土に損害を與ふること少なからずと云ふ。

天産　清國は土地廣大にして山岳多く河流少なからず、高原あり沙漠あり、草原、森林あり、嚴寒の土、炎暑の地の存するあり、是れ各種の生物をして此の地に現出せしめたる所以なり、植物に就きては北部并に西部の地には松柏科に屬するものあれども概して草木に豐富ならず、之に反して南部、東部は濕潤にして温暖なる天候の下にあれば植物は大に繁茂して其の種類も亦極めて多きが如し、されば單に著名なるもののみを擧ぐるも、紫檀、黑檀桑樹、漆樹、竹類、籐、沈香、丁香、龍眼、柑類、橄欖、甘蔗、芭蕉、鳳梨、蕃薯等あり、其の他、米、麥、高粱、玉蜀黍等の穀物并に綿、茶等の產多し。動物は北部に熊、虎、豹、駱駝、四不像(Cervus davidianus)、騾、驢等あり、南部に猿、犀の類あり、西部には麝、羚羊あり、其の他、牛、馬、水牛、山羊、綿羊、豚等は中央并に北西の臺地に產す、又鳥類は南部に多くして殊に彩鷄(Phasianus picta)、銀雉(Gallophasis nycthemerus)、鸚鵡、孔雀、鴛鴦等を以て顯著なりとす。鑛物には金、銀、鐵、銅、錫、鉛あり、石炭、陶土、石材、石油あり、特に水晶、翡翠、玉、其の他、數種の玉類の產出するありて古來有名なり。

植物

動物

鑛物

沿革　太古漢族は黃河の流域に來りて繁殖し漸次に國を組成せしが、其の領する處は未だ廣からず、秦(西紀前二五一—二〇六)に至りて漢土の大部より滿洲、印度支那に至る地を領し、前漢(前二〇二—後八)は四川省の南西部、雲南等をも從へ、後漢(二五—二〇)の代には國威は遠くパミルの西に及べることあり、降りて唐(六一〇—九〇七)の世には版圖擴張して北はシベリアのイエニセイスクに達し、東は朝鮮半島に跨り、南は印度支那に及び、西はチベット、カシミル、ペルシアの北東部、中央アジアに至る地を含むに至れり、而して匈奴の衰へし後は鮮卑、柔然、突厥等の諸夷著はれしが、唐末の頃より契丹即ち後の遼(九一六—一一二五)隆盛に趨きて日本海より天山山系に達するの地を占め、南下して五代(九七〇—九六〇)、北宋(九六〇—一一二七)を苦めたり、遼亡びて金(一一一五—一二三四)、南宋(一一二七—一二七九)は畧、淮水を境として南北に相對し西には西遼(一一一二—一二一五)ありしが、成吉思汗出でしより蒙古は切に征伐に從事したり、されば蒙古人の威令はアジア大陸の大部及びヨーロッパの南部に及びて元(一二〇六—一三六八)は其の四汗國と共に空前の境土を有せり、然るに元も漸く瓦解して漢土に明(一三六八—一六四四)興り、滿洲、蒙古、青海、新疆等をも從へ、安南の事に干涉し、ネパールのグルハを伐ちて其の極盛に達せり、然れども乾隆の後、內亂外患屢生じ阿片戰爭(一八四〇—四二)に依りて香港をイギリスに割き、愛琿條約(一八五八)に依りて黑龍江以北の地を失ひ、北京條約を結びて九龍半島の一部をイギリスに讓り又烏蘇里江右岸の土をロシアに與

へ、後、フランスに破られて安南を放棄し、明治二十七八年の役(一八九四—九五)には臺灣を日本に割讓し、戰後列强に威嚇せられて數區の租貸を許諾し、事實上、其の領土の幾部を失ひたり、其の後義和團の亂(一九〇〇)に際してロシアは清國祖宗の起れる滿洲を占領したるも日露戰爭(一九〇四—〇五)の結果、關東租借地が日本の手に移りたるの外、滿洲に於ける鐵道の敷設、鑛山採掘、等の利權が日露の間に分たれしのみにて清の邦土は安全に保持せらるるに至れり。

人口 清國は土地の廣漠なるのみならず、人口も亦極めて多し、然れども其の計數は甚だ不正確にして或は三億三千餘萬に過ぎずと云ひ又は四億二千餘萬と稱せらるるが世界總人口の五分の一以上に達せりと爲すは妨なきに似たり、而して本帝國を組織する各部に就きて住人の配布を考査せんか、非常なる差異の存するあるを見るべし、或は稠密にして一方粁に就き二百人以上を有するあり、或は十方粁に就き僅に六七人を有するに過ぎざる部分あり、殊に戈壁沙漠若しくは西部の山地は殆と無人の地たり。

清國全部	一一三、八八八〇方粁	三、三〇一三、〇〇〇〇人	三〇方粁二付	
漢土(十八省)	三八七、〇〇〇〇	三、一九五〇、〇〇〇〇	八二	
直隸	三一、四八〇〇	一八六〇、〇〇〇〇	五九	
山東	一四、九六〇〇	三三一〇、〇〇〇〇	二二一	
山西	二〇、七三〇〇	九九〇、〇〇〇〇	四八	
河南	一七、三五〇〇	二〇一〇、〇〇〇〇	一一六	
陝西	一九、九三〇〇	七九〇、〇〇〇〇	四〇	
甘肅	三五、一四〇〇	一〇五〇、〇〇〇〇	三〇	
四川	四六、一〇〇〇	四五二〇、〇〇〇〇	九八	
貴州	一五、七二〇〇	三四〇、〇〇〇〇	二二	
湖南	二〇、〇五〇〇	一五二〇、〇〇〇〇	七六	
湖北	一八、一四〇〇	二八三〇、〇〇〇〇	一五六	
江西	一七、九五〇〇	二〇五〇、〇〇〇〇	一一四	
安徽	一四、二八〇〇	一八五〇、〇〇〇〇	一二九	
江蘇	九、九三〇〇	一八三〇、〇〇〇〇	一八四	
浙江	九、一二〇〇	一一三〇、〇〇〇〇	一二四	
福建	一、一二〇〇	一九六〇、〇〇〇〇	一七六	
廣東	二四、三〇〇〇	二二二〇、〇〇〇〇	九一	
廣西	二、一、七三〇〇	五二〇、〇〇〇〇	二四	
雲南	三九、六七〇〇	一一七〇、〇〇〇〇	二九	

滿洲(東三省)	九三、九二八、〇〇〇	五五三、〇〇〇〇	六
蒙古	二七八、七六〇〇	一八五、〇〇〇〇	〇、六
新疆	一四二、六〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	〇、七
圖伯特	二一〇、九〇〇〇	二二五、〇〇〇〇	一

前表中、漢土の人口は最近の調査に從へば四億七百七十三萬七千三百五人なりと稱せられ、山東の方粁の人口は百七十人を以て事實とすべしと云ふ、而して一九〇五年に於ける開港在留外人の數は三萬八千一人にして日本人(一、六九一〇)、イギリス人(八四九三)、アメリカ人(三三八〇)、ポルトガル人(二四六二)、フランス人(二一四三)、ドイツ人(一八五〇)を主なるものとす。

種族 國土の廣大なる人口の饒多なる支那の如き國にありては住民は勢單一の人種なる能はず、而してカシガリア、ヅンガリア、其の他開港、開市の地には少數の白色人種ありと雖も大體に於ては黃色人種に屬し支那とモンゴリアとの二派に分かれ更に漢土、チベット、印度支那、モンゴル、トルコ、ツングスの六群と成るを見るなり。

- 支那派
  - 漢土群 — 漢 福老 客家
  - チベット群 — チベット(ボド) ブシア タンゲト シーファン(西藩)等
  - 印度支那群 — タイ(チベット) ミアオ(苗子) バルマ(ルツエ) ペイ(リス) パペ
  - ツングス群 — オロチオン マネグル ピラル 滿洲
  - モンゴリア派
    - モンゴル群 — モンゴル ハルハ(喀爾喀) チャメヅ チャハル(察哈爾)
    - カルムク(加爾瑪克)(ホジオト(和碩特) トルゴット(土爾扈特)) ヅンガル(準噶爾) アルペード
  - トルコ群 — キルギス ウイグル、

漢族は清國の住民中にて最優等に位し智力に富み着實にして堅忍なる勤勉にして儉嗇なる實に天下無比なり、然れども有爲高尚なる理想に乏しく、家あるを知りて國あるを知らず、安逸の中に死を俟つも有事の際に命を捨つる能はず、徒に祖先の遺蹟を重んじて眞に子孫の繁榮を計らず、娯樂を熱望して止まざるも苦境に沈淪するを厭はず、要するに古來の慣習を保守し、又進化發明せんとするの念慮殆となきが如し、而して其の特質、技能の如きも地方に依りて差違あるを免れざるなり。

ツングス

ツングス(通古斯)群は其の性概して驍勇にして騎射を好み、古より女眞、渤海、金、清、等の名の下に近隣の諸國を征服したり、然れども漁獵と牧畜とに從事するの外、殆ど他の生業を營まざるが如し、此の種の人民中には移住して漢土に駐在するものあれども概ね東三省に住し其の數は一百餘萬に過ぎざるべし、本群中の最も進歩せるものは滿洲人なるが漢人の同化する所と成れり。

モンゴル

モンゴル(蒙古)群は其の性概ね勇悍にして能く勞に堪え猜疑の念少なく極めて質朴なり、主として遊牧を好み、居住地は甚だ廣けれども人口寡少にして總數は四百萬に達せざるべし。

苗族

苗族は一に南蠻子と云ひ又苗子と云ふ、漢人の所謂化外の民にして漢土の南西に於ける蕃民の總稱なるが、最も多く住するは廣西、貴州の境界たる南山山系地方なり、性質慓悍にして掠奪殺戮を事とし屢、附近の漢人を苦しましむと稱すれども誇大に失するの疑あり、此の種族は漢族に先ちて漢土に住せしが生存競爭の結果今の地に退けられしものにして人類學上は確說なきもタイ族に屬すと認めらる。

前記の外にヤオ(猺)、ロロ(猓猓)、モソ(磨些)、リス(力些)、ルッェ(潞子)等文化の低き住民の存するあり。

言語　言語は種族に依りて差異の存すべきは勿論なり、而して漢族の言語は所謂單音語にして一聞單簡なるが如きも、實際に使用するに當りては極めて不便にして明瞭を缺き、漢族の多數なると國土の廣大なるとの爲めに言語に著しく異同を生じ遂に主要なるもののみを擧ぐるも五十餘種あるを致せり、其の北京語は直隸、山東、山西、陝西、等の地方に行はれ、南京語は江蘇、安徽、江西、等の地方に、湖廣語は湖南、湖北の二省に用ひらる、獨、官話と稱するものは帝國一般に通ずる普通語なれども、官吏、文人、富裕者の如き中等以上に位する人士に非ざれば此の種の言語を知らざるなり、又言語を代表する文字は所謂變體象形文字にして一見利あるが如しと雖、之を習得するには至大の困難あり。

宗教　現今清國にて行はるる宗教には祭天教、風水教、儒教、大成門、道教、佛教、白蓮教、喇嘛教、回教、基督教等あり、而して信徒に就きて考査するときは或

は一教を確信するものあるべきも、多くは數教を併信若しくは濫信するが故に各教に屬する信者の多少は到底知悉すること能はざるなり。

祭天教　祭天教は天即ち上帝を禮拜し君主は天子として之に仕へ、毎年冬至に際し北京に於ける祭天壇に於て犧牲を備へて之を祭り五風十雨の恩賜を祈る、一種の自然教と云ふべきか。

風水教　風水教は陰陽の理、木火風水、等の現象に依りて吉凶を判斷する一種の宗教にして易經之が基を爲し、迷信之が大成を幇助せしものの如し、宗教としては價値なきも之を信ずるものは意外に多數なるべし。

儒教　儒教即ち孔孟の教は他教と同日に語るべきものに非ざるは勿論なれども事實上、國教視せられ、各種の宗教中にて最も勢力を有し、中等以上の人士は概ね之を信ずるを以て天下に普しと云ひて可なり、大成門は儒教の變派にして大學中庸の理を附會せし嫌あるも弊害多からざるが如し、政府は之を厭ひて禁遏を勤むるも人民は却て信奉し廣く各地に行はる。

道教　道教は老子の道德教に出でしが後世に至りて佛教に擬して偶像を設け修養、仙丹、符籙、等の術を設けたり信徒の數は少なしとせず。

佛教　佛教は教理の深遠、儀式の莊嚴、慈悲の功德に依りて社會各階級の同情を得て一時は盛を極めしが、元明に至りて漸々衰へ、清朝に至りては壞敗の極に達し、僅に形骸を有するに過ぎず、白蓮教は佛教の一派にして在理教とも云はるるが、民心を惑亂するの恐あるが故に政府は之を禁ぜんと欲すれども教徒は死を恐れずして其の數は漸次增加するの傾向あり、目下盛に行はるる地方は北漢なりとす、喇嘛教も亦佛教の一派なるがチベットに起りて紅教、黃教の二派あり、黃教は最も勢力を有せるが清朝も政略上、之を庇護するを以てチベットを始めとし、蒙古、滿洲、漢土の北西部等に行はる。

回教　回教即ちマホメット教は帝國の西部、北部に行はれ教徒の數は三千萬に過ぎざれども、不穩の民にして屢〻亂を起し害毒を流すが故に、清國政府の深く嫌忌する所なり。

基督教　基督教は天主教、希臘教、其の他、數派に分かれ宣教師は各地にありて漸次に隆昌に趨き、天主教に百萬人、新教に十五萬人あるも、希臘教は北西部に多少の信者を有するに過ぎず。

教育　漢人は古來文字を好み學問に熱中せし人民なるが、保守的思想は一變して往古を追慕して止まざるの念慮と成り、毫も進步發達を意とせず、教育の如きも時世に應ずることなく亦極めて不振にして普通の教育を以て目すべきは義學、家塾、等の塾舍にて讀書、習字を修得せしむるに止まり、中等以上の教育を受くるは仕官を求むる徒或は富豪の子弟に限られ其の學校には府、州、縣の三學及び國子監と稱する大學、等ありたるも、修むる所の課業は

經書、史類の講讀、詩文の製作、文字の書方、等に過ぎざりき、然るに成豐以來泰西の文物學術を輸入せざるを得ざる機運に會ひて西洋式の學校次第に起り、近年に至りては管學大臣を置き北京大學、天津學堂、等を設けしのみならず、學部の設置せらるるあり、外人の經營する學校も少なからずして海外殊に我が國に留學するもの頗る多し。

滿洲人は漢人と雜居するもの多きが故に其の風に習ひて文書を修おれども漢人に比すれば拙劣なるが如し、蒙古人は學術を修め知識を研き又は子弟を敎育する等の念少なく、チベット地方にありては宗敎的學校以外には見るべきものなし。

風俗　漢人と滿人とは元來種族を異にせるものなれば言語を始めとし氣質、風俗、等も勿論、同じからざりしが、清朝の滿洲より起りて漢土を席捲したりしより以來、滿人は權威を逞しうせしと雖も敗者の多數なる爲めに實際勝者は壓倒せられて其の言語風俗を一變し、遂に滿漢二種族の混淆を來たし殆と差異なきに至れり、衣服は官服、便服、總て滿制を用ひ一般に上衣と下衣との二に分つ、男子は頭髮を辮して之を背に垂れ、手爪と共に其の長きを以て美とす、女子の頭髮は各地其の風を異にして、漢土の女子は小足を尊び歩行し能はざるの奇風あり、服には靴、鞋、の兩樣あり、飲食は頗る發達して東南各地にては稻米を主とし、西北各地にては粟、燕麥、蕎麥、高粱の類を食す、又蔬菜、肉類、等を用ひ、熊掌、燕窩、魚鰭、海參、海帶、等山海の珍味を食し、調理極めて精妙にして一般に油脂多きものを好む、而して阿片を喫するの惡風あり、家屋は地方と貧富とに依りて差異あれども構造は瓦屋、木屋、土屋の三種にして瓦屋、木屋は富豪のもの之を造り、土屋は最も北方に多し、而して孰れも親族の一家内に聚居團樂するには頗る適當せり、此の外山西、陝西地方には穴居し、南方には舟居するものあり、要するに滿漢人の衣食住は甚だ進歩して娛樂と便利とを併有する生活を爲し物質的開化は案外に發達せるが如し。

蒙古人の衣服は漢族と略ぼ同じ、食物は獸肉、麵粉、酥酪、磚茶、燒酎、等を普通とし魚肉、鳥肉の如きは汚物として排斥せらる、家屋は土屋、帳屋の二種あり、帳幕は圓形を呈するが若干の支柱を基礎として圓屋を形成し厚布の類を以て之を蔽ひ馬尾繩を以て之を結束す、入口は南面に設けられ烟突は幕上の中央にあり、其の構造遷移の民には最も便なり。

チベット人は亦上下の二衣を用ふ、食物は乳、「バタ」、麥焙を以て主とし磚茶を飲み嗅煙草を用ふれども阿片は之を嗜むものなし、家屋に就きて北部の遊牧人は長方形の天幕に住するが定住者は石造の家を構ゆ。

政體　君主專政に基づき祖宗の遺法に遵ひ、皇帝は萬機を獨裁して廣大なる帝國を統治す、政府は京官と外官とより成れるが、別に宗人、內務の二府

を置きて皇族幷に帝室に關する庶務を監理せしむ。

京官に就きては軍機處(樞密院)に軍機大臣五名以内を置きて法律、勅令の立案を爲さしめ又軍事、民事に關する意見を述べしめ、政務處(内閣)に政務大臣五名、參務大臣二名を置きて内外に關する重要の政務を督辨せしめ、練兵處(軍事顧問院)をして軍事に關することを司らしめ、内閣(秘書院)に大學士四名滿漢各一名、協辨大學士二名滿漢各一名、内閣學士十名等を置きて詔諭の頒布を掌らしめ又帝國の行政に關する事項を審議し恒例の政務を處理せしむ。

外務部は總理事務大臣一名、會辨大臣二名、左右侍郎等より成りて外交の事を掌り、商部尚書一人侍郎各一人左右は鐵道、輪船、鑛山、電信、郵便、等各課の事務を統轄し、六部は國政を分掌し每部に管理事務一名、尚書滿漢各一名、左右侍郎滿漢各一名等を置く、其の吏部は職官の詮叙黜陟を掌り、其の戶部は土田、戶口、財穀、等の事を掌り、其の禮部は禮樂、敎育、朝貢國の事を掌り、兵部は武職、驛傳の事を、刑部は法律、刑名を、工部は土木、建築、兵船、軍器の製造、等を扱ふ、而して新設の學部は敎育に關することを掌理す。

以上の外に三法司あり、其の都察院は官常に察覈し綱紀を整飾し、其の通政司は章奏を達し寃民の越訴を理め、其の大理寺は重辟を平反し刑事を肅立す、其の他に太常寺、太僕寺、光祿寺、鴻臚寺ありて之に前記の大理寺を加へて五寺と稱す、又理藩院管理事務一名、尚書二名は蒙古、青海、西藏、回部、遊牧、等の政令、刑賞を掌り、翰林院は編史、講經、制誥、文章、等の事を司る、國子監は一に大學と稱せられ文武官を養成す。

近時の改革として傳へらるるものに從へば外務、吏、民、政、度支、禮、學、陸軍、法、大理、農商工、郵便、理藩の十二部を置き、軍機處、政務會議處、内閣、宗人府、都察院、翰林院を存續し資政、審計の二院を新設せられたるが如し。

次に外官即ち地方官の主要なるものを擧げんに第一を總督とす、一省或は數省より成る管轄地の民治軍務を節制し、直隸、兩江の二總督は北洋或は南洋通商大臣を兼ぬ、總督に次ぎたる重官は巡撫にして省務を節制し四民を撫養し民治を督す、又順天、奉天の二府に府尹を置き各省の道、府、州、縣に道臺知府、知縣を置き、廣西、雲南、四川、等に於ける蠻地には土官を置けり、而して通

商事務を總理する北洋（芝罘、牛莊、天津の三開港）南洋前三港以外の開港の通商衙門あり。

行政區劃　漢土を分ちて十八省と爲し一省若しくは數省に就きて總督（八名）を置き各省に巡撫（十一名）を置く、但し河南、山東、山西の三省には總督なく直隷四川甘肅、湖北、雲南、福建、廣東には巡撫を置かず、而して省内を分ちて府、廳、州、縣とし、府に知府、廳に同知、州に知州、縣に知縣を置く。

	漢土						
總督	直隸	兩江（江南）	閩浙	兩湖（湖廣）			
總督衙門所在地	保定	江寧	福州	武昌			
省名	直隸	江蘇	福建	湖北	湖南	河南	山東
巡撫衙門所在地	—	江寧	江安	長沙	—	開封	濟南
地積	三一、四八〇〇	四二、一六〇〇	二〇、二四〇〇	三八、一九〇〇	五五、三九〇〇	一七、三五〇〇	一四、九六〇〇
人口	一八六〇、〇〇〇〇	五七三〇、〇〇〇〇	三〇九〇、〇〇〇〇	四三五〇、〇〇〇〇	一五一〇、〇〇〇〇	二〇一〇、〇〇〇〇	三三一〇、〇〇〇〇
方粁ニ付	五九	一三六	一五三	一一四	二九	一一六	二二一

	十八省					
	陝西	四川	兩廣（廣東）	雲貴（雲南）		
	甘肅	成都	廣州	雲南	貴州	
	陝西	四川	廣東	廣西	貴陽	
	太原	—	桂林	—	—	
	二〇、七三〇〇	五五、〇七〇〇	四六、〇三〇〇	四六、一〇〇〇	五五、三九〇〇	
	九九〇、〇〇〇〇	一八四〇、〇〇〇〇	二七四〇、〇〇〇〇	四五二一、〇〇〇〇	一五一〇、〇〇〇〇	
	四八	三三	六〇	九八	二九	

滿洲は之を分ちて奉天、吉林、黑龍江の三省を設けたるが故に東三省と稱す、各省に將軍一人を置きて旗人を統轄せしむるも、奉天將軍は民人の事を兼轄するを以て其の權限恰漢土の總督の如し、奉天府尹は巡撫に相當するものなるが三省に於ける府、州、縣、等を管轄して民人の事を司る、其の他、奉天府に戶、禮、兵、刑、工の五部衙門あり。

世界地理提要　あじあ洲　清國

東三省	将軍	駐在地	省	地積	人口	方付
	奉天	奉天	奉天	一四、五〇〇〇	四二四、〇〇〇〇	二九
	吉林	吉林	吉林	二七、二〇〇〇	三七〇、〇〇〇〇	一三
	黑龍江	齊々哈爾	黑龍江	五二、五〇〇〇	一〇六、〇〇〇〇	二

新疆省

新疆省は陝甘總督の配下にありて、迪化府駐劄の新疆巡撫の所管に屬し、カシガル、アクス、ウルムチの三區に分たれ、區は州に、州は縣廳に細分せらる而して口外甘肅に安西州、沙州等あり又曲城即ち伊犂を兼轄す。

蒙古

蒙古は理藩部の管理する所にして二部に分かる、內蒙古二十四部は六盟に分かれ、各盟に札薩克を置き、兵事上は四十九旗に分たる、外蒙古は四汗の分領に屬し八十三旗に分かる、北部及び東部はウルガに住する喇嘛僧侯哲布尊丹巴胡圖克圖の下に屬し支那の駐在官の之に參加するあるが、西部はウリアスタイに於ける將軍に支配せらる。

青海

青海も亦理藩部の管理に屬し二十九旗より成れるが、其の中、五旗はアムバンに、殘餘は大酋長に支配せられ、共に西寧辦事大臣の統轄する所なり。

西藏

西藏は同じく理藩部の支配の下にあるが清國の主權は軍事、外交に關して監督の位置に立つ二人の特派大臣に依りて代表せらる、內政は達賴喇嘛を以て國君とするも、實際は「デヴァボ」と稱する首相即ち俗王ありて國政を執り、地方はハム(康)、ウイ(衛)、ツァン(藏)、ニァリホル、スム(阿里)、の四區に分たる。

兵備　一千九百一年の上諭に基づきて發せられたる條例は新設せらるべき軍隊の基礎たらしめんが爲に各州內に於ける募兵を要求したり、然れども特別の理由よりして一層多數の軍兵を一團とせられたる直隸、湖北の如き省に於ては隣接せる諸省に兵丁を募ることを得、兵役には常備兵、豫備兵(各、三年)、後備兵(四年)の三種あり而して一千九百二十二年までに三十六師團の陸軍を有すべく、各師團は步兵二旅團(一旅團は二聯隊、一聯隊は三大隊、一大隊は四中隊)騎兵一聯隊(三大隊より成れり)砲兵一聯隊(三隊に分かれ更に各、三大隊と成る)工兵並に輜重兵一大隊より成れり。

各省の舊兵殊に八旗兵、綠旗兵及び總督、巡撫の支持に係る練軍、防軍、勇、等は漸次解散せらるべく、中に就きて適當なるものは新隊(陸軍)幷に新設の營

東(巡鎮軍)に編入せらるべし。

左表は新軍のみに關する一千九百六年の統計なり、蓋し該軍を除けば軍事的價値を有するものなければなり

(一)北洋軍　直隸、山東、河南、山西を加ふる豫定)より召集せらる

		兵士	砲門
第一、第二、第三、第四、第六師團(直隸)		五、四〇〇〇	三二四
第五師團	(山東)		
一混成旅團	(河南)		
河南義團(北京附近)		四〇〇〇	一二
湖北軍(通州に分遣せらる)		二五〇〇	一二
		二〇〇〇	一
合計		六、二五〇〇	三四八

(二)南洋軍　江蘇、安徽、江西より召集せらる

第九師團	(南京)	九〇〇〇	五四
一混成旅團	(蘇州)	三五〇〇	六
第十三混成旅團(後の第七師團)	(鎮江)	三五〇〇	一八
一混成旅團	(安慶)	三五〇〇	六
一混成旅團	(江西)	三〇〇〇	
合計		二、二五〇〇	八四

(三)湖軍　湖北、湖南より召集せらる

第八師團		九〇〇〇	五四
第二十一混成旅團(後の第十一師團)	湖北	四〇〇〇	一八
一混成旅團	(湖南)	四〇〇〇	一八
		一、七〇〇〇	九〇
合計			

此の外

一混成旅團	(福建)	三五〇〇	一八
一混成旅團	(浙江)	三〇〇〇	六
一混成旅團	(廣東)	四〇〇〇	二四
合計		一、〇五〇〇	四八
總計		一一、二五〇〇	五七〇

右の外滿洲(奉天、吉林)に二師團、四川に一師團及び山西、陝西、雲南の各省に混成旅團を新設せんとす。

萬里長城

萬里長城は清國に於ける二大工事の一なり、戰國の時、北狄防禦の爲め北邊の諸國長城を築きしが秦の始皇に至りて之を增築し西は甘肅寧夏府より起り東の方遼東に至りしが故に此の名あり、其の後歷代補、增築あり、現今の長城は一千七百六十里の延長を有し甘肅の嘉峪關より東の方臨榆縣に達し內城を有する部分あり、構造は一樣ならざるも東部は密にして西部は粗く、土と石塊より成れる城壁は四米

突乃至九米突の高さを有し厚さは四米突半より八米突足らずの間にあり。

海軍は日清戰爭以來著しく減退し今日に於ては十六隻三萬七千噸の軍艦を有するに過ぎずして之を南北の二艦隊に分てり、又海岸の防備としては長江、閩江、等の緊要の地に砲臺を築き、馬尾、江南、等に造船所あり、各地に兵器の製造せらるるあり、天津、南京、上海、福州には海陸軍の專門學校、水雷學校、等を置き芝罘には海軍專門學校を設くるの令出でたり。

財政　清國は邦土廣く人口多きに拘らず、稅源は至つて乏しく戶部の所報に依れば歲入は比較的に僅少なり、其の額は八千八百二十萬海關兩にして地租(二六五〇)、海關稅(二三八〇)、厘金稅(一六〇)、鹽稅(一三五〇)、等より成れり、而して歲出の一億百十二萬海關兩は國債費(二四〇)、軍事費(三五〇〇)、地方費(二〇〇〇)、首府費(一〇〇〇)、其の他より成れり、而して一九〇四年の關稅收入は約三千五百十一萬海關兩なりき、國債は從來其の額甚だ大ならざりしが、西曆一八九四年以後增加し殊に一九〇〇年の北清事件に關する償金四億五千萬兩を一九四一年までに支拂ふべきことを約せるが故に國債の總額は

二億二千五百萬「ポンド」に達せんとす、又清國には本位貨幣なるものなかりしが近時の上諭は庫平銀一兩の銀貨を鑄造して本位貨とすべきことを定めたり。

生業　當國は創立以來四千餘年を經過したる舊邦にして、夙に開明の域に進み、百般の業務に就きては大に見るべきものありしなるべきも、爾後徒に往昔の遺風を固守して更に新意改良を加ふることを勉めざりしを以て、遂に今日の如き不振を來たせり、然れども國內には各處に肥土沃地あり、住民饒多にして殆ど三分の二は農業、四分の一弱は商工業、十分の一は漁業、其の他は庶業に從事し能く勤むるの風あるを以て、往古の盛況を目擊し得ざるも尙ほ多少の留意を促すものあり。

漁業は古來行はるるものなれども、此の國が比較上、魚類に乏しきと漁法の極めて拙劣なるとに依りて著しき生產力を有する能はず、本業の稍盛なるは福建、廣東、浙江、江蘇、等にして魚翅、海參、鮑、鰕、鰕、等の外に、淡菜、蠣、等數種の貝類を與ふ。

林業

林業は漢人の最も不得意とする所なるか又は嫌忌する所なるか濫伐したる結果殆ど森林は跡を絶たんとせり、現時にありて森林の存する地方は漢土に於ては貴州、湖南、福建等の諸省に限れるが、蒙古の東部、滿洲の北部には稍多くして松、柏、杉、楊、柳、梧桐、梓、桐、椿等の木材を與へ又藥品としては樟腦、桂皮の産あり。

牧業

牧業は清國の生業としては重要なるものの一なり、然れども漢人は農事を偏重し尺地寸土をも之に充つるの傾あるが故に放牧的家畜は漢土に少なし、之に反して滿洲人、蒙古人は遊牧を好みて牛、馬、羊等を飼養す、豚の飼養は極めて盛にして到る處豚肉を用ふるが如し、馬に二種あり、其の張家口(直隸)幷に殺虎口(山西)の地方に産するを口馬と稱し、四川地方に産するを川馬と云ふ、而して馬の主産地は漢土の北部と西部とにして滿洲、蒙古も良馬を産す、羊には四種あり、其の綿羊、山羊は蒙古と漢土の北部とに産し、其の中古羊、羚羊は蒙古に産す、牛には黄牛、水牛の二種ありて各地に産すれども農獸として力役するに止まり食用に供することなし、而して黄牛は蒙古地方と北漢とに産し水牛は漢土の南部にあり、又西藏、青海、蒙古地方には犛牛を産す、此の外、陝西、甘肅、河南、四川に驢、馬あり、北漢に騾馬あり、蒙古には駱駝の産あり、家禽の中、鷄は盛に各地に飼養せらるるが如し。

農業

農業は清國人が生業中にて最も得意とする所にして亦貴重視する所なり、山隈、水涯、處として開墾耕作せられざるはなきも、栽培は舊慣を墨守して宜しきを得ざるもの多く、農具も亦甚だ便ならざるが如し、米は漢土の中部、東部殊に江蘇、安徽、湖南、湖北、江西(五倍の總産額三億五千萬增)等の水田耕地の七分の一に産し、麥は北部の諸省の乾田に生ず、高粱幷に豆類は各地に多少の産あれども滿洲の奉天省地方を以て最とす、其の他落花生、甘藷等の産も少なからず、甘蔗は兩廣、江西、四川を主産地とし、福建も亦其の産少なからず、棉花は中部の各地殊に江蘇、湖北の地方に良種を産す、其の江南地方に産するものを紫花と云ふ、麻は滿洲、兩湖、四川地方より出で、桑樹は到る處に栽植せられ、茶樹は漢土の南部と東部とに培養せらるるが、就中浙江、安徽、福建の地方を以て最も盛なりとす、人參は有名なる藥品にして滿洲地方に良種あり、阿片の原料を供

すべき罌粟の栽培は各地に行はるるが殊に南西部に盛なり、楮は浙江、貴州、四川等に產す、此の外、南漢に茜草あり、四川に白蠟、陝西に黃蠟の產あり、又園藝の發達頗る著しく果樹には橙、柑、甘蔗、荔枝、棗、梨、杏、桃、李、等ありて產地は廣東、福建等なり。

鑛業

鑛業は未だ盛ならざれども頗る有望の業なりとす、金は雲南、直隸、甘肅、四川、兩廣滿洲、新疆等に產し、銀は雲南、兩廣、四川等に產す、又鐵は湖北、山西、福建、廣東、雲南、四川等に產し湖北の大冶鐵山は殊に名高し、右の外、銅、鉛、錫、水銀等は各處より產出し、石炭は直隸、山東、甘肅、山西、河南、福建、江西、滿洲、等の各地にあれども目下盛に採掘せらるるは直隸の開平、房山、山東の博山、江西の萍鄉、等とす、又鹽は山西、河南、雲南、蒙古、等より出づ。

工業

工業は甚だ盛なるに非ざるも亦多少の製作品は各地に產す、蠶絲は廣東四川、浙江、江蘇、等の諸省に多く其の產額は一萬二千擔以上に達するが、製絲の方法にも見るべきものあり、柞蠶絲は山東に於て盛に製出せらる、又綿絲の紡績に就きては十七ヶ處の紡績所ありて錘數は約六十三萬に達し產額は六千餘萬「ポンド」を下らず、絹布の產地は江蘇省の震澤縣、蘇州大儀鎭、幷に浙江省の湖州府、杭州府、紹興府、寧波府、等を以て主要なるものとす而して種類は繻子、緞子、綢、紗、羅を多しとす、繭綢は山東省の名產たり、紫花布は江蘇、湖北、浙江、福建、廣東の各地に產す、紙類は兩湖、江西、四川の各處に產し、磁器は江西の景德鎭より出で、瓦器は江蘇、廣東、福建、等の各省に產す、漆器は蘇州、福州、廣州、等の各地に、角器、骨器は江蘇、廣東に產し、籐器は廣東の特產たり、銅器は江蘇、福建、廣東に產し、錫器は汕頭より出で、銀器は廣東の名產たり、皮槓は江蘇、廣東に產し、地蓆は廣東省の東莞縣、蓮塘縣、羅定州に於て製作せらる、墨は徽州府最も著はれ、廣東の密錢、浙江の紹興酒、は著名の產物たり、扇子は江蘇、浙江、廣東の各地より製出せらる。

商業

商業に就きては清國內のものの情況は記すに由なしと雖も、外國貿易は漸次に隆盛に趣くものの如し、但し左記の表は清國貿易の全體を表出せず、蓋し海關の管理に屬せざる船舶にて百貨の輸出入に從事するものあればなり。

貿易高

年次	輸入	輸出	合計

一九〇五	四、四七一〇、〇七九一 海關兩	二、二七八八、八一九七	六、七四九八、八九八八
一九〇四	三、四四〇六、〇六〇八	二、三九四八、六六八三	五、八三五四、七二九一
一九〇三	三、二六七三、九一三三	二、一四三五、二四六七	五、四一〇九、一六〇〇
一九〇二	三、一五三六、三九〇五	二、一四一八、一五八四	五、二九五四、四五四八

今茲に一九〇五年の貿易高を國別にして著しきもの(万海關兩を單位とす)を示さんに

貿易高國別

國名	輸入	輸出	合計	國名	輸入	輸出	合計
香港	一、四八〇七	八一四五	二、二九五二	東印度	三四七九	二七二	三七五二
イギリス	八六四七	一八〇六	一、〇四五三	フランス	三八一	一八八七	二二六八
アメリカ	七六九二	二七〇三	一、〇三九五	ドイツ	一四八五	五三七	二〇二二
日本	六一三二	三五四六	九六七八	ベルジック	九五五	二二七	一一八二

重要貿易品

次に重要貿易品に就きて萬海關兩を單位として記せば、輸入に綿布(一、一四二四)、綿絲(六七二一)、阿片(三四〇七)、銅(三一一九)、砂糖(二二六二)、石油(二〇二九)、あり、魚類(八八三)、米(八五四)、鐵(八〇〇)、鐵道材料(七三五)、石炭(七一二)、染料(六四五)、煙草(六三五)、摺付木(五五九)、器械(五三四)、等あり、而して輸出に蠶絲(五九六一)、茶(二五四五)、皮革(一四六三)、豆類及び豆餅(一三一二)、棉花(一二〇三)、絹織物(一〇七八)あり、又生毛(六七五)、籐器(六二一)、等あり。

開港開市

清國に於ける開港、開市に就きて一表を作れば(*を附したるは準埠頭)

北京　天津　秦皇島　濟南　濰縣　周村　芝罘　膠州灣
上海　吳淞　黃埔　蘇州　鎮江　江寧　蕪湖　*大通　安慶
湖口　九江　*武穴　漢口　武昌　*陸溪口　沙市　宜昌　岳州
漢土　長沙　常德　萬縣　重慶　叙州　杭州　寧波　温州　福寧
三沙澳　福州　厦門　汕頭　惠州　九龍　刺巴　江門　甘竹
廣東　*三水　*肇慶　*德慶　崖州　港門　廣州灣　瓊州　北海
梧州　龍州　南寧　蒙自　河口　思茅　騰越　*永昌
營口　大東溝　奉天　鐵嶺　昌圖　開原　伯都訥　鳳凰城
滿洲　遼陽　新民屯　通江子　法庫門　長春(寬城子)　吉林　哈爾賓
寧古塔　琿春　三姓　齊々哈爾　海拉爾　愛琿　滿洲里
蒙古　買賣城

西藏(榮楚(亞東)

右の外に四川の王縣、湖南の城州、江蘇の海州、直隸の張家口、蒙古の庫倫、等も開放せらるるに至らんか。

前記諸港中主要なるものの貿易高(一九〇四年)を記せば

港名	輸入	輸出	全計	港名	輸入	輸出	全計
上海	一九五〇二、五	一、三〇〇六四	三、二五〇八、九	梧州	七四八、七	三〇一、六	一〇五〇、三
廣東	二九九六、四	三九六九、〇	六五六五、四	牛莊	四三三、一	一五七、一	五八〇、二
九龍	一七八〇、三	一五八九、〇	三三六九、三	鎮江	三五二、四	二〇九、〇	五六一、四
汕頭	一四一〇、五	六七三、一	二〇八三、六	瓊州	二四六、二	二三八、三	四七四、五
天津	一六三五、六	四三五、九	二〇五一、五	膠州	三四三、七	八四、五	四二八、二
漢口	一二八一、五	七一四、三	一九九五、八	三水	二六四、七	一二四、二	三八八、九
厦門	一三八九、二	二一八、三	一六〇七、五	北海	一八七、一	一一三、二	二九九、三
福州	七五四、九	五二七、四	一二八二、三	寧波	二七三、九	二、五	二七六、四
芝罘	八二九、三	三九四、六	一二三三、九	江門	一六〇、四	九三、四	二五三、八
刺巴	五〇八、七	一〇九三、七	腾越	一七四、七	三三、七	二〇八四、
蒙自	六〇六、三	四六八、三	一〇七四、六	秦皇島	八八、三	七、九	九六、三

清路

交通。清國の交通上の發達は概して不充分なれども地方に依りて大に其の趣を異にせり、東部の沿海の地并に長江一帶の地にありては水運の便あれども、北部の臺地并に西部の山地にありては水脈に乏しうして、勢。車馬の力を借らざるを得ず、是。漢土に就きては俗に南船北馬と稱する所以なり。

道。路。は十八省を始。とし滿洲、蒙古の邊境に至るまで通せざるはなく、省城所在地は勿論、各地の間を連絡せり、然れども其の建造は不完全にして修繕は不整備なれば車馬の往來、旅人の通行には極めて不便なるが如し、殊に夏季を以て然りとす、而して山東、甘肅、四川東部、河南一部并に開港開市附近に於ては道路稍。優良なるが、現存の官道(二十一線)には規模の宏大なるものありて往古の盛況を追懐せしむるに足るものあり。

鐵道

鐵。道。の發達は從來極めて遲々たりしが、近時に至り外國の資本に依りて經營せられしもの多くして一九〇四年末に於ける既設線は五千五百二十

八粁に達し、北京漢口線、北京天津牛莊線、青島濟南線、或は旅順ハルビン滿洲里線、ハルビンウラヂヨストク線、雲南老開線、等の外に大小若干の既設線、未設線あり。

水路

水路に就きて記さんに此の國は東に海を控ゆるのみならず、內部には大河、巨流に富めると航行し得べき沼湖の少なからざるとに據り地方に依りては水運の便大に發達せる處あり、特に大江の流域に當れる江蘇、安徽、江西等の地方を以て然りとす、又有名なる大運河のあるあり、海路は沿岸の要港を連絡するに止まり汽船會社の如きも大なるものは一の招商局ありて上海より南は寧波、厦門、福州、溫州、汕頭等を經て廣東に通じ、北は芝罘、天津、營口に至る航路を開けるに過ぎずして、海外との交通はイギリス、日本、ドイツ、等の船舶に依賴すと云ふ、而して船籍を當國に置くものの積載噸數は汽船に八六四〇四、帆船に九二五あるが古式の構造に係る蓬船即ち「ジャンク」は其の數極めて多しとす。

一九〇五年に於ける各港の出入船舶は次表の如し。

旗章	隻數	噸數	船種	隻數	噸數
イギリス	三、〇四四二	三五〇九、五六五八	汽船	八、八三六二	六六三七、二六二四
清國	一四、八七五五	一六四〇、七三五二	帆船	一三、五五九七	六三八、二九二三
ドイツ	七三三七	八一八、七八七一	計 一九〇五	二二、三九五九	七二七五、五五四七
日本	二、五八五〇	六二三、八九一八	計 一九〇四	二二、三八三五	六三七七、四七〇六
其他	一、一五七五	六八二、五七四八	計 一九〇三	七、七〇一二	五七二九、〇三八九

運槽河

運槽河は當國の二大工事の一たり、本運河は隋の代に起工せられ元の世に至りて竣工したりと云ひ或は二千餘年を費したりとも稱せらるるが、長さは一千三百粁に達し北京廣東間に於ける一大縱貫水路の主要部に當れり、深淺は常なく河幅に廣狹あり屈折極めて多く近時は維持保存に缺くる所あるを以て通舟の便、昔日の如くならず而して沿海航路の發達の爲めに本河の効用は一大打擊を蒙れり。

郵便

郵便に就きて述べんに驛、站、即ち官設郵便は軍部の所轄にして專ら官信を遞送し帝國內主要の地に設けらる、其の數は二千四十ヶ處あり、漕運局は十八省の各地に設けられて各種公用貨物の輸送を司り、其の箇所は八千に達すと稱せらるるも、業務は專ら地方官に委ねらる、此の他に私設の信局ありて公用

以外の信書を發送す而して新式の郵政局ありて其の數は一千を超ゆるが、北京及び重要なる開港には日本、其の他の郵便局あり。

電信は中央局を上海に設け北京天津線、滿洲線、遼東線、閩州線、蒙古線は北部に、東岸線、揚子江線、雲南線は南部にありて一九〇五年に於ける電線の延長は五萬四千七百粁、電信局は三百五十九ヶ處あり、又沿岸の海底電線は大北電信會社、東方電信會社に屬せり。

處誌　世界屈指の大國たる清國の處誌を記すに當りては其の行政區劃に從ひ漢土、滿洲、蒙古、新疆、青海、西藏の六部に分つこととせり。

◎漢土

漢土即ち十八省（支那本部と稱することあるも面白からず）は清國の南東部を占む、極南は海南島の南端、北緯十八度十三分、極北は直隸省の北境凡そ北緯四十四度にして極西は雲南省の西境凡そ東經九十七度三十分、極東は山東角の東經百二十二度四十分なり、境界は概ね自然的にして北は耕種地と荒蕪地との分界線に據り、東及び南東は太平洋に枕み、南は山岳、臺地、沼地等に限られ、西はチベット高原に依

りて劃せらる、然れども地勢的に基づかずして歴史的若しくは規約的に過ぎざる處も少なからず、面積は清國全土の三分の一以上に當り、清國の人口の九割六分は此の地にあり、山脈の趨勢、河流の灌域等に基づきて更に漢土を分ちて北、中、南の三部とす。

北部即ち北漢は直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅の六省より成れるが、黄河の流域を主とし之に白河、其の他の沿海流、揚子江の支流たる嘉陵江、漢水、遼河の上流たる西喇木倫に屬する地幷に山東半島を加へたり。地勢は北西に高く南東に低く、山岳と高地とを合はすれば當部の三分の二以上に達すべきも低地は直隸、山東、河南の三省に亘りて一大平野を爲せり、而して優良なる土壌として名高き黄土は風力に依りて吹送せられたる細微の粘土が堆積せしに因るものにして、山岳幷に冲積平野以外の地を蔽ひ、北漢の各地に亘りて約六十萬方粁の面積を有し、層厚の平均は四百米突に達すと云ふ、水脈は其の數少なからずして巨大なるものあるも實益には缺くる所あり。

直隸省　直隸省は沿海六省の一にして海岸は約五百粁に達するも佳

良なる錨地に乏し、西邊幷に北西部に山脈(燕山、七老圖等)、高地(察哈爾)を控ゆるも、南東部は平低なり、河湖は甚だ多く白河、灤河あり又遼河、大凌河等の源流あり、三角淀、白洋淀、洋東淀、寧普澤、大陸澤等あり、氣候は純然たる大陸候にして氣溫の年平均は北部の六度、南部の十四度なるが降雨の年平均は六十乃至百三十糎にして七八の二ヶ月に多く、結氷期は十一月以後四五ヶ月に亘れり、住人の大多數は農業に從事す。

京師順天府即北京(北緯三九度五四分東經一一六度二七分)は一に燕京と云ふ、皇城の所在地にして清國の帝都たり、海拔三七米突の地に位し、氣溫の年平均は十一度七、最低は零下十五度二、最高は三十六度三なるが最低零下二十一度、最高四十度に依れば其の差實に六十度を超ゆるあり、空氣は乾燥にして年雨量は六百五十二粍に過ぎず、六七八の三ヶ月には雷雨多く秋雨冬雪、孰れも少なく、春は稍降雨多く、風は其の力强し、氣候は概して惡しきに非ざるも土地平坦にして排水の便なく、住人の無頓着なる衛生の道更に發達せずして人生を害すること少なからず、住民は五十萬に過ぎずと云ひ或は百六十五萬ありと稱し確數を知る能はず、帝居を大內、又は紫禁城と云ひ幾多の宮殿あり繞らすに城壁を以てし四面に各一門を設く、大內の外を包むを皇城と稱し、城垣の周圍凡そ十粁、大小六門を設く、城內に大廟あり社稷壇あり景山あり西苑あり、皇城は九門を有する內城に依りて包まれ內城の內には數多の官衙公署建ち訂盟諸國の公使館の存するあり、旗兵の駐在するあり、內城の南に於ける外城は一に南城と云ひ七門を有す、市街の地にして商估は軒を列ねて百貨を賣買し、正陽門大街殊に繁華なり、南部には天壇、先農壇、祈年壇等あり、北京の街衢は規模大なりと雖も道路整はず而して此の地より起る道路の中、主要なるもの五條あり、一は天津を經て太沽、北塘、開平、永平、秦皇島、山海關に通じ二は通州、遊化を過ぎて平泉に至り、三は古北口を經て承德、赤峯或は多倫諾兒に趣き、四は昌平、南口(關口)、宣化を經過して張家口に達し、五は保定、正定、趙州、順德、廣平、等の諸地方を連絡す、又外城永定門外の馬家堡に車站あり、鐵路に依りて天津、保定等に通せり、製造工藝に就きては更に見るべきものなく、順天は單に一大消費地たるに止まるが如し、府の近郊には南海子、暢春園、圓

天津

明園あり、萬壽山、崑明湖と共に名勝の地として著はれ、天寧寺の塔、白雲觀亦著名の建造物たり。

天津(ティエンチン)(七五、〇〇〇)(北緯三九度一七分東經一一九度一二分)は本省夏季の首府と稱せられ北漢最要の通商港なるが、此の地は北京を距ること南東鐵路百二十九粁にして白河と運河との會する處にあり、水陸の要衝に位して魚鹽の利を有し、百貨輻輳して市街極めて殷賑なり、北部は省城地即ち支那街にして南部は海河に跨り、右岸に日、法、英、得の租界むりて左岸に以、墺、露、白の租界あり、殊に其の紫竹林は家屋の構造、街路の整備等を以て名を知らる、本港は主として豆餅油、敷物等を輸出し、船舶の出入頗る多きも、冬季は氷結して航通の便なきこと三ヶ月に及ぶ、而して氣候は不良なるが主として沼地にあるが爲めならん。

塘沽(日、英、法の租界あり)は白河の口を距ること遠からず、交通の要地にして鐵路は天津、北京幷に山海關、營口に通じ船舶の出入甚だ盛なり、太沽(日、英の租界を有す)は海河の口頭右岸にあり、塘沽と唇齒相依るの地として砲臺の設ありし處なり、北塘は蔬運河の口にありて交通の利を有す、通州は北京の東に位し稍、名を知

宣化

張家口

保定

正定

秦皇島

山海關

らる、天壽山は北京の北四十粁にあり、明の十三陵の地として名高し、宣化(九〇〇〇〇)は蒙古の舊都の一なるが要地たるを失はず、張家口(一六、〇〇〇)は一にカルガンと稱せられ海拔八三〇米突の地にあり、ロシアに向ひて磚茶を輸出しシベリア地方に產する各種の毛皮を輸入す、保定(八、〇〇〇)は省城の地、學藝の淵叢たり、鐵道の開通以來市況稍、恢復せり、正定(五、〇〇〇)は清水河に瀕し鑄鐵の業行はる、多倫諾兒は灤河に沿ふ、市中に喇嘛の大寺あるが故に喇嘛廟とも稱せられ、佛像の鑄造行はる、承德は熱河、又はヂェホルと、唱へらる、清帝蒙塵の地として名あり、開平は白河、灤河の兩下流間に位し唐山、林西等と共に炭坑を有す、其の產額百十萬噸(一八九七年)なり又四通の地として商業盛なり、秦皇島(チンワンタウ)は一小半島にして渤海に臨み一港を抱き開港として地方の鑛產、畜產を集散するのみならず、不凍港として冬季には天津、北京等に關する交通を獨占す、山海關は滿漢兩地の境にありて長城が海に臨む處に位す、市街は臨榆と云ひて海岸を距ること四粁の地にあり。

山東省

山東省は沿海六省の一なり、其の山岳部(五割六分)は前世紀の

島、現世紀の半島に當りて省の中央幷に東部を占め、其の低地部(四割四分)は北西より南西に亘り前世紀に於ては恐らくは海峽を爲せし處なるべし、山東半島は遼東半島と相對して直隷海峽を挾めるが、海岸は屈曲甚しく北西部を除く外、概ね高隆にして絶崖に富み暗礁群礁少なからず、河流は乏しからざれども黄河の外に顯著なるものなく、沼湖は清水泊、蜀山湖、昭陽湖、白花湖等あり、氣溫は一月の平均零度乃至零下四度にして七月に二十六七度なるが、降雨は適度にして夏季には年雨量の六割五分を受くと云ふ。

濟南　濟南は省城の地にして黄河を距る七粁の地に位す、住民は二十萬内外と算せられ絹布、擬寶石等を製す、附庸港を濼口と云ふ、泰安は泰山の麓にあり、

兗州　東岳廟を以て名を知られ、鐵、石炭の集散行はる、兗州(六、〇〇〇〇)は泰安の南西に當り名市の一たるも往昔の繁華を有せず、曲阜は兗州の東に位し尼山の麓に宣聖廟あり、周村は濟南の東方に於ける開市なり、博山は泰山の東に當り、窯業品、鍛鐵等を産す、青州(七、〇〇〇〇)は博山の北東にありて柞蠶業の中心たるべき望みあり、濰縣(二五、〇〇〇〇)は萊州灣に近くして交通の要衝

青州

濰縣

登州　に當り絹布、煙草、石炭、硝石等を集散し山東第一の都會なるが、開市に加へられたること青州と同じ、登州(二三、〇〇〇〇)は海峽に面し廟島と相對し居民多けれども港は便ならず、芝罘(六、〇〇〇〇)(北緯三七度三二分東經一二一度二二分)は一に烟臺と呼ばれ同名の灣に瀕して風景佳なり、港は碇繫に便なるが開港として麥稈紐、柞蚕絲、絹綢、豆、豆油、豆餅等を輸出す、威海衛、膠州灣に外國の租借地あり。

芝罘

山西省

山西省内には恒山、五台山等の如き山脈南西より北東に走れるも、汾水其の他の水流の存するあれば沃土の地に農牧の發達するは自然の結果なるが、山西人は山間の地に生長するに拘らず、商業に特殊の技能を有し遠く鄉土を去るもの少なからず。

太原　太原(二〇、〇〇〇〇)は汾水の滸、海拔七九〇米突に位し省城のある處なり、兵器、砲銃の製作は往時の如く盛ならざるも四近の農産を集散す、汾州は首府の南西に當り酒を製す、平陽は汾水の一支に浴ひ海拔四八〇米突にあり堯の古都にして産炭の望みあり、潞安は平陽の東にあり酒を産す、蒲州は省の南西隅にあり、舜の舊都と稱せらる、歸化城(二〇、〇〇〇〇)は一に|ククホト|

歸化城

と云ふ、殺虎口外、八十五粁、海拔一〇八〇米突に於ける商業地にして家畜、皮革、織物、磚茶、等を集散す。

河南省　河南省の西部には山岳蟠踞し、地味も稍〻磽确なれども、東部には平地多く地味極めて佳良なり、伏牛山脈は北西より南東に走れるが衡河、膽河の流域を除けば省地は黃河、淮河、揚子江の三流域に屬し、地味に流水に氣候に於て無比の優勢にあるのみならず所謂四通八達の域にして古來中華の花、北漢の鎖鑰と稱せらるるも理ありと云ふべし。

開封(一〇、〇〇〇〇)は省城の所在地なり、黃河を距ること十五粁の地にありて洪水の害を蒙むること屢〻なれども黃土地方の中心として農產に豊なり、鳳港を柳園口と云ふ、周家口は沙河に瀕し本省屈指の商業地として名を知らる、衛輝は衛河に沿ふ商業地なり、河南は洛水の陽海拔一五〇米突にあり、周の洛邑、後漢、魏、西晉、後魏、唐、等の洛陽なるが、近郊には天津橋、白馬寺、等の古蹟少なからず、嵩山の南に於ける臥龍岡は諸葛亮の草廬のありし處なり。

陝西省　陝西省の北部は臺地を成し烏蘭木倫河、西拉烏蘇河、秀延河等

あり、中部は秦嶺の北にありて渭水の流域に含まれ涇河、洛水、等を有す、南部は秦嶺の南にありて漢水の上流に當り水脈多し、省內地味の膏腴なる處に乏しからず、氣溫は甚しく低下することなきが、濕氣には缺くることなしと、せず、而して秦嶺に跨れる地方は漢族文化の源と稱せらる。

西安(北緯三四度一七分、東經一〇八度五五分)は渭水の南、海拔四六〇米突に位し北京を距ること一千二百二十粁乃至一千三百粁の地にあり、住民は四十萬乃至百萬と算せられ、其の三割は回教信者、一割はタタル人なりと稱せらる、此の府は漢唐の故都長安にして少なからざる遺蹟を有し目下は省城の地なるが、市街は純然たる支那的狀態を呈し、山丘高地の圍繞あるも容易に黃河、渭水、大江、等に通ずるを得、實に交通上の要區と云ふべく、古來第一流の商業地たり、毛皮、生毛、阿片、麝香、藥草、砂糖、絹布、茶、等を集散す、咸陽は首府の北西に當り秦の舊都なりし處にして阿房宮の跡あり、臨潼は首府の東方に位し坑儒谷あり、潼關(七、〇〇〇〇)は省の東境に於ける要地にして商業盛なり、漢中は漢江の上流に沿ひ昔時は天下の要區たりし處なり。

蘭州　西寧　平涼　秦州　中漢

甘肅省

甘肅省は地勢上、二部に分かる、其の漢土部は省の東、中、南の三地方を占め、山地に乏しからざるも流水に事を缺かずして沃土少なからず、其の蒙古部は省の北西部を占め土質佳ならず。

蘭州(五〇、〇〇〇)北緯三六度八分東經一〇三度五五分は黄河の畔、海拔一四七〇米突の地にありて總督の駐在地なるが、交通上の要地たり、兵器、毛織物を産す、河州は首府の南西に當るが、ズンガリア人の根據地たりし處なり、西寧(六、〇〇〇〇)は黄河の一支を帶し海拔二二五〇米突にありて青海地方の管理官駐在するが、交通上及び軍事上の要區にして商業行はる、涼州は長城を西に距ること七十粁、海拔一五六五米突の地にあり、殷賑の地にして産炭の望みあり、嘉谷關は肅州の西に位し邊要の門口なり、寧夏は黄河を距る七粁にありて商業に從事す、平涼(六、〇〇〇〇)は涇河の上流に近き商業地なり、海面上一三九〇米突の地に位す、秦州(一六、〇〇〇〇)は海拔一一八〇米突の地にあり、渭水の岸に建ちて絹布、金屬器を製す。

中部即ち中漢は四川、貴州、湖南、湖北、江西、安徽、江蘇、浙江の八省より成りて專ら大江の流域に當れども淮江、浙江、甌江、其の他沿海の數流幷に西江に屬する地方に亘れり。

成都　邛州　雅州

四川省

四川省は十八省中面積最大なり、岷江に依りて二部に分かれ、其の山地は西部にありて地味概ね磽确、氣候寒冷に過ぎ、其の臺地は東部にありて東に趣くに從ひて漸く低下す、山岳は四條の山脈に屬し、ネンダ(六二五〇)、素龍、峨眉山(三三五〇)等殊に名あり、河流は甚だ多く大江、雅礱江、岷江、嘉陵江、等は何れも有益なる水脈なり、住民に就きては東部の赤土地方は漢族の獨占に歸し、西部の山岳地方には先代以來の居民たるボドシーファン(西藩)、マンツェ(蠻子)、ロロ(猓玀)の四種甚だ多し。

成都(四〇、〇〇〇〇)即ち錦城は蜀漢の舊都にして今は總督衙門の所在地なるが、岷江の上流、海拔四六〇米突に位し、商工業共に盛にして市況殷賑なり、市街の整備せることは清國第一と稱せらる、邛州(五、〇〇〇〇)は首府の西方にありて佳良の紙を製す、雅州(五、〇〇〇〇)は岷江の支流に瀕し海拔五一〇米突の地にあるが磚茶、生絲等を製し繁華の地なり、嘉定(三、〇〇〇〇)は岷江

叙州　重慶　萬縣

の畔にある商業地なり、叙州(六、〇〇〇)は岷江と大江との合流地に位し亦商業の一中心なり、瀘州は大江と沱江との相會する處にありて食鹽を輸出す、重慶(三五、〇〇〇)は嘉陵江と大江と相會する處、海拔二六〇米突にありて上海よりの航程凡そ一千六百浬なり、此の府は農産饒多にして庶民殷富なる地方の中心なれば工藝も多少進歩せるが如し、且又水運の便多く物貨の集散に適するが故に通商碼頭として頗る有望なり、萬縣(一五、〇〇〇)は涪州の下流にある開港なるが民船の製造甚だ多し、巴塘は金沙江の東、海拔二四八〇米突に於ける小村なるが漢土よりラッサに趣く路に當り物貨の交換に從事す、裏塘(一、〇〇〇)は金沙江の支流たる無量河の畔、海拔四六八〇米突の地にありて、成都、ラッサ間の名邑と稱せらる、打箭爐は岷江の岸海拔二〇五〇にありて三萬乃至四萬の住民を有し生毛、磚茶、麝香等の賣買行はれ、附近の地は鑛産に富めり。

貴州省　貴州省は苗嶺、其の他數派の山脈縱横に連亘し地域の三分の二は大江に屬し殘餘は西江に屬せり、而して大江に會するものに烏江、赤水、

貴陽　長沙　湘潭　岳州

等あり、西江に會するものに北盤江あり、漢人來りて平野を侵し苗子は山地に退きて鬪爭今に絶えず。

貴陽(五、〇〇〇)は當省の首府なり、烏江の上流海拔一〇七五米突に位す、安順(四、〇〇〇)は北盤江の支流に瀕す、苗界の巨鎮なり、鎮寧(二、〇〇〇)は漢苗二族激爭の地にあり。

湖南省　湖南省の南及東の二境は南山山系幷に其の支脈萬洋山脈に據れども北、西の二界は自然ならず、省地は擧げて洞庭湖の灌域に屬し南西より北東に傾斜して起伏に乏しからず、河は湘江、資江、沅江最著し、地味は概佳良にして灌漑に不足を感せざれども氣候は大陸的なれば夏季には炎暑を覺え乾燥することあり、省内石炭に豐富なり。

長沙(二三、〇〇〇)は湘江の下流に於ける省城地にして商業の要區たり、附近の地は石灰、土器等を産す、湘潭(七、〇〇〇)は湘江の上流にありて交通の要衝に當り有望の地なり、岳州(二、〇〇〇)は洞庭湖の北東岸にある開港なるが商業未だ盛ならず、此の邊名勝の地多く瀟湘八景世に名あり、常德は沅

武昌　漢陽　漢口

江の下流に瀕し洞庭湖を距る六十粁の地にあり、西部湖南幷に苗疆の商業を專にす。

湖北省　湖北省は漢土の中央にあり、伏牛山脈を北と東との境とし小山脈を以て南界とし洞庭湖幷に揚子江の峽谷は西を限れども大江は彎曲して東西に貫流し漢土は北西より來りて省の南西端に達せんとするあり、一百内外の湖澤は省の南部に點在す、地味優良、氣候好適、農鑛工商の諸業共に盛なり。

武昌(二五、〇〇〇〇)は長江の畔に位し總督衙門のある處にして製絲、紡績織物等の諸業行はれ商業上の要區なり、漢陽(一五、〇〇〇〇)は大江と長江との間に挾まれ鐵政局、機器局を有す、漢口即ち夏口(八五、〇〇〇〇)(北緯三〇度一六分東經一二〇度一五分)は漢江と長江との相會する處、海拔四九米突に位し、江口を距る六百浬にありて武昌、漢陽と鼎立す、此の三市は相接するを以て大江と漢江の合流に跨る一市即ち大漢口を形成すとせば人口百二十五萬の大都會と成るべし、實に中漢第一の都會たり、此の地は支那内部貿易の大中心を爲し、交通の便に富み、通商碼頭として盛に茶を輸出す、赤壁山は漢口の下流黃州内にあり、天下第一の勝地と稱せらる、大冶は黃州の南方に當り著名なる鐵山を有す、沙市(八、〇〇〇〇)は沙頭又は荆沙と呼ばれ貿易港なれども商況未だ振はず、宜昌(四、〇〇〇〇)は沙市の上流八十三浬に於ける通商港なり、襄陽、老河口は漢江に沿へる商業地なり。

沙市　宜昌

江西省　江西省は地勢北に向ひて緩斜し雨水は殆んど一の贛江に集中せられて鄱陽湖に趣くが錦江、鄱江は直接に該湖に入る、省内山岳丘陵多きが特に南部を以て然りとす、氣候は寒暑共に甚し。

南昌

南昌は贛江に沿ひ省城を有するも繁華の地に非ず、萍鄉は石炭を產す、贛州は南部にありて墨漆器を產す、饒州は鄱陽湖の南東、高岸上に位し其の麓に於ける港は蓬船の出入少なからず、景德鎭は饒州の東、六十粁に位し清國第一の磁器產地たり、九江(三、六〇〇〇)は揚子江に瀕する開港なり、茶、磁器、紙、等を輸出す、湖口は九江に近くして商業に從事す。

九江

安徽省　安徽省は揚子江の爲めに二部に區分せられ、北部は概ね平低なる

も南部は山岳、丘陵に富み、河流に淮河あり、沼湖は其の數甚だ多く、洪澤湖、巢湖最、著し、氣候は佳良にして農産、畜産多し。

安慶（一三、〇〇〇）は長江に瀕し省城の地なり、芝罘條約に依りて湖江船舶の繫留處たり、池州は首府の下流産茶地にあり、大通は大江を控え鹽、石炭茶、大麻、米、等を集散す、蕪湖（一三、七〇〇）は東部の通商港なるが米、豆、生絲、絹織、等を輸出す、烏江浦は項羽の敗跡にして東境に近し、宣城は蕪湖の南方にあり佳良なる炭田を有す、徽州は南部にありて墨を製す。

安慶

蕪湖

江蘇省

江蘇省は沿海六省の一にして土地概ね平低なるも南部に多少の山岳あり、省内水脈夥しく揚子江は省の中部を横斷し運河は北西より南東に縱斷す、湖澤には洪澤、高郵、太湖、等あり、氣候の温和なる他省の比に非ずして沼池の多きに拘らず健康を害することなし、土壤は肥えて農業、漁業、製鹽業大に行はる、殊に工藝最、發達して住民の稠密なる十八省の第二に位す。

江寧（二七、〇〇〇）北緯三二度五〇分東經一一八度五〇分は一に南京と云ふ、吳の建業、明の應天府なり、北京を距ること一千七十五粁、廣東を距る一千二百二十粁、長江の右岸に建つ、省城の地にして內廓は四十二粁に亘りて九門を備へ、八十粁に亘れる外廓には十三門の設けあり、規模の大なる想ふべきなり、然れども城中の滿街は寂寞を極め、漢街は獨り繁榮を回復して稍、熱鬧するも、往古の盛況に遠し、文華風流の點に於ては清國第一と稱せられしが嘗てイギリス軍の占領（一八四二）を被り、太平王の亂に遇ひ城中大に景致を失ひたり、目下開港の一として綢緞、天鵞絨、藥材、等を輸出す、鎮江（一六、〇〇〇）は江口を溯ること百七十浬、大江と運河との會點にありて絹布を産し通商に從事す、江陰、通州は揚子江に瀕し、錨地を有す、無錫（一〇、〇〇〇）は繭、生絲、米の取引甚だ盛なり、蘇州（五〇、〇〇〇）は吳の舊都、開港の一なり、風景の美を備へ絹織物の産多く市況繁盛なり、運河は無錫を經て鎮江に至り又杭州に通ず、府の近傍に楓橋、寒山寺、姑蘇山、等の舊蹟あり、罰山及鼎山の兩鎮には磁器の産あり、世に宜興窯と云ふ。

鎮江

無錫

蘇州

上海（六二、〇〇〇）北緯三一度一五分東經一二一度二九分は蘇州江と黃浦江との相會する處に位し、我が長崎より四百六十三浬にあり、舊と一小縣に過ぎざりしが、道光

上海

二十二年(一八四二年)の南京條約に依りて通商地と成りしより以來、人口日に月に加はり、百貨輻湊して繁昌を極め、阿片、綿絲の輸入あり、絹絲、製茶の輸出あり、實に清國第一の貿易港、交通の大中心なり、加ふるに紡績、製絲、造船、等の工業の行はるるあり、市街は支那街と居留地とより成り、支那街は滬城と東家渡とに分かれ、對岸の地に浦東鄉あり、居留地は各國租界と法租界とより成り、繁榮にして壯麗なる各國租界は更に東、中、西の三區に分かる、街衢には整然として觀るべきものあり、江岸には碼頭、棧橋、船渠、等の設備あり、實に清國内に於ける別天地と云ふべし、市の南端に江南機器局あり、吳淞は上海の下流十四浬、黃浦江と長江との會する處にあり、鐵路に依りて上海に通じ開港の一なり、近時南北兩洋の鎭守府と定められしものの如し。

浙江省　浙江省も沿海六省の一にして海岸は屈曲に富み、省内山岳、丘陵多く、南西より北東に走る仙霞山脈は南北の二部を與へ、北に太湖、浙江、甬江、等に屬する地あり、南に靈江、甌江、等の流域あり、南部は地勢上南漢に屬す、氣候は温暖にして極めて健康に適し、温度の年平均は十五度乃至十七度なるも寒暑の差は稍、烈し。

杭州　杭州(ハンチエウ)(七〇、〇〇〇)は錢塘江口、運河の南口に瀕せる省城地にして南宋の舊都臨安なり、近く西湖を控え、南東に吳山、南西に武林山あり、頗る風色に富む、往昔は殷賑を極めし地なるが太平王の亂後未だ衰勢を挽回するに至らず、開港として茶、絹織物、繭、生絲、等を輸出す、日本居留地あり、湖州は太湖の南岸にありて水運の便に富む、生絲、絹布を產し商業行はる、

紹興　紹興(二〇、〇〇〇)は沃野の中にあり、人口稠密、生產饒多の商業地にして酒の產あり、

寧波　寧波(二五、五〇〇)(北緯二九度五一分東經一二一度三二分)は甬江の右岸にあり、上海を距ること百六十粁、古來軍事上の要域たりしのみならず、外舶の來往繁く頗る殷賑を極めしが目下開港の一として棉花、蓆、明礬、茶、等を輸出す、鎭海は甬江の口に位し寧波の附庸港なり、

温州　温州(エーンチエウ)(八、〇〇〇)は運河に富める開港にして茶類、蜜柑等を集散す、舟山列島は杭州灣の南東にありて舟山を始めとし、秀山、普陀山、其の他若干の島嶼岩礁より成り揚子江流域の鎖鑰、東支那海の樞要の地たり。

三門灣は優良の港灣なり、昔てイタリアが此の地を租借せんと試みし結果にや、一八九八年の上諭は開港に加ふと宣言したり。

南部即ち南漢は南山山系以南の地にして福建、廣東、廣西、雲南の四省に當り西江の灌域を主とすれども亦金沙江、江河、黑江、瀾滄江等に屬する地を含む。

福建省　福建省は沿海六省の一にして仙霞嶺は西界を爲し、梅嶺は北境を爲し、南方の境界は自然的ならざるも、省地は漢土内に一區域を形成して山岳多く江河(閩江、五龍江等)に富めるが平坦の地は乏し、然れども谿谷には灌漑の便ありて耕種盛に行はれ養豚、養雞、養蠶は當省の主産業たり。

福州(フクチウ)(六二、〇〇〇〇)(北緯二六度五分東經一一九度二〇分)は閩江を溯ること三十四浬にあり、總督の駐在地にして馬尾船政局あり、市街は内街、南街より成りて居留地は南臺島にあり、萬壽橋は南街を中洲に連ね、鳳山橋は中洲と居留地との間にあり、此の地は開港の一なるが、茶、木材、紙等を輸出す、連江は福州の北東に當る商港にして蓬船の出入少なからず、延平、建寧は各閩江に臨み、茶、木材を集散す、三都即ち三沙は三沙灣中の小島にして良港を有し通商碼頭たり、福寧は省の北部産茶地に於ける開港なり、興化(五、〇〇〇〇)は中部の海岸に位せる商業地なり、泉州(一五、〇〇〇〇)は同名の灣を控ゆるが今日に於ては往昔

の盛況を呈せず、厦門(一一、四〇〇〇)(北緯二四度二七分東經一一八度四分)は土音に因みてアモイと稱せらる、同名の小島(周囲四四粁)の西端にありて臺灣の安平と相距ること百六十一浬に過ぎず、鼓浪島との間に良好なる碇泊地あり、開港として茶、砂糖、紙等を輸出す、漳州(一〇、〇〇〇)は厦門の西方にありて砂糖を産す、汀州(二〇、〇〇〇)は汀江に沿ひ煙草、木材、竹細工等の産あり。

廣東省　廣東省も沿海六省の一にして海岸は屈曲に富み、其の延長は一千三百五十粁に達するが南支那海に詔安、海門、崎石、廣東(伶仃)、廣州等の諸灣ありて、東京灣に暗鋪、北海、大觀等の諸港あり、島嶼には海南、南澳、大濠幷にイギリス領の香港等あり、省内平地多からざるも水系の發達は顯著にして河流には西江、北江、東江の外に韓江、化貨江、廉江、安南江等あり、谿谷及平野には沃土少なからず、氣候に就きて年平均は約二十三度なるが寒暑の差は十五度を超ゆることあり、住民は複雜にして北西に苗子、猺等の蕃族あるのみならず、漢族にも根地、客家、福老、疍家等の數派あり、農業、牧業、漁業、工業等には見るべきものあり。

廣州(九〇、〇〇〇〇)北緯二三度一三分東經一一七度六分は一に廣東と稱せらる、省城の地にして總督の駐在處なるが水路の集合點に位し大船巨舶も容易に出入す、殊に一八五九年以來通商港と成り百貨の集散頗る盛にして生絲、絹布、砂糖、藺席、陶器等の輸出多く、加ふるに各種工藝の盛なるあれば市況熱鬧なり、市街は狹隘にして屈曲常なきも殷賑を極め實に純然たる支那街なり、市内に聖廟、羅漢寺、觀音閣等堂宇の觀るべきものあり、附近に蓆帽山、浮丘山等の賞すべきあり、其の他廓外に東街、南街、西街あり、對岸の地に河南あり、住民は多きは百八十萬と算し少なきは五十萬と算す、而して河上の浮屋(屋筏)に居住するものを六萬乃至二萬とす、黄浦は廣東の屬港にして珠江に瀕す、佛山は廣州の南西に當り絹布、地蓆、紙類等を製出す、三水は西江と北江との間に於ける開港なり、肇慶(六、〇〇〇〇)は西江に瀕し茶、陶器、大理石等を輸出す、德慶(四、〇〇〇〇)は肇啓の上流にありて錨地を有す、江門、甘竹は西江の末流に沿ひ貿易に從事す、剌巴は甘竹の末流に於ける開港なり。

惠州は九龍の北東に當りて開市の一たり。汕頭(六、〇〇〇〇)は俗にスワタオと唱へらる、韓江の口頭にありて優勝の地を占むる開港なり、取引は未だ盛ならざるも砂糖、落花生、木具、漆器等を輸出す、北海(二、〇〇〇〇)は東京灣に沿ひ廉江に瀕する開港たり、マライ群島幷にマラッカ半島に苦力を發送す。

海南島

海南島は漢人の瓊州府にして東京灣の東方を限り幅二十八粁の海峽を隔てて雷州半島に對す、面積は三萬六千二百方粁ありて長さは二百八十粁、幅は百六十粁なり、海岸は多少の屈曲を呈するも良港に乏し、瓊州(三、五〇〇〇)は島の北部にありて白山河に瀕し、海口を距ること我が一里内外なり、附庸港たる海口(一、二〇〇〇)は船舶の出入少なからず。

廣西省

廣西省の七分の五は山岳に蔽はれ北西部は全然山地を爲せり、南西より北東に走る數多の並行山脈は南山山系に屬し、中には四時雪を戴くものありと云ふ、河流には西江、柳江、鬱江、桂江等あり、氣温は高く濕氣多く地味佳良ならずして生産に乏し、住民の七割は蕃族なるが浮浪の徒、土匪の多き地方なり。

桂林

桂林(八、〇〇〇〇)は桂江の畔、海拔二〇〇米突に位して省城の地なり、極州

(五、二〇〇〇)は西江に沿ひ廣西の咽喉に當れる開港なり、砂糖、牛皮、鹽を輸出す、潯川(三、〇〇〇〇)は西江と南江との合流地にありて商業稍盛なり、南寧は鬱江に枕める四通の地にして當省南西部の物産を集散し開市の一たり、龍州(二、〇〇〇〇)は麗江に瀕する開市にして東京に通ずる邊要の地なり。

雲南省

雲南省の高處は北西にありて雪山、他念他翁、雲嶺等の名の下に三千乃至四千米突に達するが南東に傾斜して狹隘なる縱谷を形成せり、土地の一部は金沙江に屬すれども西半は潞江(サルウイン)(の上流)瀾滄江(メコン)(の上流)及びイラワヂの支流に屬し、南には西江、紅河等の流るるあり、滇池、江海、其の他多くの湖沼を有す、氣溫は概ね高からずして寒暑の變差著しく季節に依りては乾燥に失することあり、住民は支那的文化に浴すること少なく山岳多き地方には猓玀、花苗、白苗、蠻子を始めとし數多の蕃族の居住するあり。

雲南(四、五〇〇〇)は北京の南西、二千百粁、海拔一九六〇米突に於ける省城地なり、市街は城内と城外とに分かれ、銅、敗物、琵類を製し商業稍盛なり、昭通(三、五〇〇〇)は省の北東隅、山間の平野にありて鉛、銀、錫、亞鉛、鹽、綿、阿片等を集散す、蒙自(一、二〇〇〇)は海拔一三五〇米突に位する開市なり錫を集散す、河口は水運の便を有し開市に敞へらる、大理は江海を距ること三粁、海拔二千米突に位す、交通の要區にして有望の處とす、思茅(一、五〇〇〇)、騰越(一、〇〇〇〇)は孰れも開市場なり。

◎滿洲

滿洲即ち東三省は清國の北東部を占む、極南は北緯三十八度四十分の旅順角にして極北は北緯五十三度三十分に至り、極西は東經百十六度四十分、極東は黑龍江とウスリ江との會點たる東經約百三十五度なり、北はオルクナ河、黑龍江等を以てアジアロシアの外バイカル州、アムル州と境し、東はシベリアの沿海州とウスリ江を以て境し、南は豆滿江、鴨綠江等を以て韓國との境とし且つ黃海、渤海に瀕せるが、西は蒙古及び漢土の直隸省に連なれり。

鐵道は凡そ一千九百六十哩ありて日本、ロシア、イギリスの三國に分管せられ、東清、南滿、榆營の三線は主要部を爲せり而して東清鐵道はカイダロボにてシベリア鐵道と連絡しハルビンに於て分岐し、其の東するものはウラヂ

ヲストクに赴き其の南するものは我が南滿鐵道に連なれり、また楡營鐵道は山海關より營口に達するものなり。

奉天省

奉天省は一に盛京省と云ふ、東三省の南部に位し滿洲唯一の沿海州なり、海岸線は約五百八十浬に過ぎずして其の多くは遼東半島に屬し、該半島は更に關東半島を爲す、今港灣に就て記さんに渤海に錦州灣、復州灣、金州灣、洋頭凹(鳩灣)あり、黃海に旅順口、大連、大窰口、小窰口、深灣、鹽大澳、皮子窩港あり、地角に沙角、廟角、蓋州角、砲臺角、旅順角、鮮生角あり、島嶼には桃花列島、長興島、花椒島、南關島、三山島、光祿島、裏長山列島、外長山列島、海洋島、鹿島、小獐島、大獐島等あり、本省の面積は大ならざれども拓殖よく行はれ西部の遼河流域には沃野あり、東部の山岳地方には大森林あり、之に加ふるに鑛物の埋藏少なからずして盛京省は實に滿洲の最要區たり。

奉天(二五、〇〇〇〇)北緯一四一度五〇分東經一二三度三五分は一に盛京、或は穆克德、音と稱し又遼河の支流なる瀋河の陽に位するを以て古來瀋陽と唱へらる、沼澤多き平野の中に位し海拔僅に四九米突にあり、此の地は清朝の舊都、滿洲第一の都會にして省城を有するが、內城は方形にして周圍約七粁あり、四面に各二門を設け、城內に天壇、太廟、諸種の官衙等あり、外廓は長六粁餘の方形にして全府を包めり、市街は城內にありては四條の大街を爲し、城外にあるものは外關市街と稱せられ一般に稍清潔なり、本府は開市の一に數へられて物貨の集散盛に行はれ大豆、豆餅、雜穀、獸皮、獸毛等を輸出す、近傍の地は三十七八年の役激戰ありし處なり、北西十清里に昭陵あり太宗の廟とす、又北東二十清里の處に福陵あり太祖の廟地なり。

遼陽(七、〇〇〇〇)は太子河の左岸にあり、州城は長方形にして六門を有す、酒、家具を產し交通の要地なり、其の南に首山、堡あり、三十七八年の役、激戰ありし處なり、海城(一、五〇〇〇)は商業地にして農產、柞蠶絲を集散す、廿七八年の役、我が軍が數度勝戰せし處なるが商業稍盛なり、田庄臺(二、五〇〇〇)は遼河の畔にあり、二十七八年の役、我が軍が大捷を得たる地にして、商業稍繁榮す、營口(五、〇〇〇〇)即ち營子口は遼河の口を溯ること約十三浬半、牛莊城の南西六粁に位するが俗に牛莊と云ふ、開港として豆類、豆餅、豆油等を輸出し商

業上の樞區たるのみならず交通上の要地なり、市街は東西の二部に分かれ二十七八年及び卅七八年の役、我が軍の占領せし處なり、大石橋は鐵道の分岐點にして三十七八年の役、ロシア軍の敗走せし地なり、鐵嶺(三、二〇〇〇)は開市の一にして奉天の北東、遼河に近き處にあり、馬蜂溝に依りて盛に大豆を集散す、開原(三、五〇〇〇)は近く遼河を控え蒙古街道に當れり、有望の地とす、昌圖(五、〇〇〇)は一に楡樹城と云ふ、商業稍盛なり、通江子は東西遼河の會點に位する開市にして水運の終點たるが豆類の一大市場たり、奉化(二、五〇〇〇)は一に買賣街と稱せられ蒙古産の毛皮、牛馬類並に雜穀、藍靛、燒酎等を集散す、法庫門は邊墻十二門の一にして蒙古との貿易に關し樞要の地なるが近時開市に加へられたり、新民屯(三、〇〇〇〇)は奉天、北京間の街道に當る開市なり、畜産に富めり、廣寧(二、五〇〇〇)、義州(三、〇〇〇〇)、錦州(五、〇〇〇〇)は商業に從事す、蓋平(三、〇〇〇〇)は一に蓋州と呼ばれ柞蠶絲の取引盛なり、日清兩軍の激戰地なり、復州(二、五〇〇〇)は同名の河を控え近傍に食鹽、石炭の産あり、得利寺は復州の東方に位しロシア兵の大敗地なり、普蘭店も亦戰地

なり、金州(二、〇〇〇〇)は關東半島の頸部に位す、西は二杆ならずして海に達し南は三杆强にして大連灣に出づべし、往時の盛況を觀ざるも製鹽、漁業の一小中心たるを失はず、近傍の南山は三十七八年の役に於ける激戰地なり。

鹽大澳は卅七八年の役、我が日本軍が上陸せし處なり、皮子窩は滿洲屈指の不凍港なり、山繭を集散す、花園口は二十七八年の役、日本軍の上陸せし地なり、大孤山(三、五〇〇〇)は大洋河を溯ること約六浬に位し木材、豆類、柞蠶繭を集散し商業盛なり、卅七八年の役に於ける上陸地なりとす、岫巖(一、〇〇〇〇)は大洋河に近く位する一小市城たり、附近に石玉の産あり、鳳凰城(二、〇〇〇〇)は廣濶なる平地に位し柞蠶絲繭紬を集散す、開市たるべき處なりとす、摩天嶺は卅七八年の役、ロシア軍が數回逆襲して成功せざりし處なり、賽馬集、甕陽門は交通の要扼たり、高麗門は柵門地の一たり、九連城は鴨綠江と甕河との相會する地にありて其の名、戰史に著はれ、近傍の蛤蟆塘はロシア兵大敗の地なり、安東(三、〇〇〇〇)流は鴨綠江の下に瀕する開港にして木材柞蠶絲、豆類を集散す、邦人の在住する者少なからず、大東溝(五、〇〇〇〇)は鴨綠

江の江口にある港にして木材、豆類の集散大に行はれ、夏季の住民は十萬餘に達すと云ふ開港の一たり、寬甸(一、〇〇〇〇)は九連城の北方に於ける一要地なり、通化は奉天北東部の小都會にして高粱、豆類、木材を出だす、興京は通化の西に當り清朝始祖の創業地なり。

海洋島

海洋島は皮子窩の南東、沖合に於ける小島にして錨地を有せり、二十七八年の役、本島の附近に大海戰ありしが、日露戰爭の際には我が海軍の占據せし處なり。

吉林

吉林省

吉林省は位置、面積共に東三省の中位にあり、松花江の西に於ける平地は本省中最も農業に適せるの沃野とす、其の他にありては未だ開發の運に向はざる處多きも山林蒭蕘として鳥獸の棲所たらしめ河流には魚族多く、三姓附近には金鑛あり、南部には銀鑛あり。

吉林(一五、〇〇〇〇)は本省の首府にして一に船廠と云ふ、松花江に沿ひ水陸の要衝に當りて商業盛に行はれ、煙草、麻、人參、皮革、木材等の集散地にして、船廠、造兵廠、火藥廠等を有せり、官衙、商舗、等は概ね城内にあり、城は橢圓形にして周圍六粁に餘り八門を有す、長春(七、〇〇〇〇)は伊通河に沿ふ、四通八達の要地にして豆類、豆油、獸皮、雜穀、等を集散す、滿洲屈指の市場たり、伯都訥(二、五〇〇〇)は松花江を控え開市場たり、拉林(二、〇〇〇〇)は同名の河に瀕する市場たり、哈爾賓(三、〇〇〇〇)は松花江に瀕し鐵道の交叉點に當りて最も重要の地位を占む、市街は一八九九年の創建に係り舊街、新街、港街より成りて工場、倉庫、停車場、埠頭、鐵橋(九四九米突)等あり、阿勒楚喀(四、〇〇〇〇)即ち阿什河は盛に農産物を集散す、寧古塔(二、〇〇〇〇)は瑚爾哈河の東、海拔四二〇米突に位し豆餅、麥粉、等の産あり、開市場の一なり、琿春は圖們江の支流に沿ひ亦開市なり、三姓(二、〇〇〇〇)は一に伊蘭、哈拉と云ふ、瑚爾哈河と松花江との相會する處、海拔一三二米突の地にありて毛皮を集散するが、貿易の爲に開放せらるべき地なり。

ハルビン

齊々哈爾

黑龍江省

黑龍江省は東三省の北部にあり、面積最大にして豐沃なる地は嫩江、呼蘭河の流域に存するが住民少なくして開墾を經ざるの地多し。

齊々哈爾(三、五〇〇〇)は本省の首府にして平坦なる沙原、海拔一五八米突の地に建ち西に嫩江を控え北京とアムル河岸とを連結する王路に當れり、

城壁は二重に搆へられ、外廓の周圍約七粁ありて五門を備ふ、馬鞍、飾具、穀粉等を產し百貨輻湊するが故に開市に加へられたり、呼蘭(三、五〇〇〇)は呼蘭河の東に位し、釀酒、製油の業行はる、白彥蘇蘇(三、〇〇〇〇)は松花江の北、約二十粁にあり、酒、油類を產す、海拉爾は一に呼倫貝爾と云ふ、海拔六三〇米突に位する開市なり、愛琿)一、〇〇〇〇)は一に黑龍江城と云ひ、同江の沿岸十粁の地に亘り滿洲里と共に開市に列せり。

◎蒙古

蒙古は西人のモンゴリアにして清國の北部を占む、極南は黃河の沿岸凡そ北緯三十七度に起り、極北はイルキクタルカク山脈の北端、北緯五十六度四十分に至り、極西は凡そ東經八十度にありて極東は凡そ百二十七度に達す、北はシベリアに接し、東は滿洲に連なり、南は漢土と境を交え、西は新疆に隣す、地形東西に長く南北に短し。

庫倫即ウルガ(北緯四七度五五分東經一〇六度四一分)はツチェツ(土謝圖)にありて蒙古の最大都會なり、人口は一萬五千乃至七萬と稱す、キャフタより二百八十粁、北京より一千二百粁に當りてトラ河畔にあり、喇嘛教の中心にして市街は二部に分かれ、其の喇嘛部は三十の寺院を有し、其の買賣街には商賣群集す、買賣城は北境に近き貿易場なり、カラコルム(和林)はウルガの南西四十粁にありて元の舊都の地なり、ウリアスタイ(烏里雅蘇臺)は庫倫を距る七百五十粁、北京より一千八百粁にありて海拔一六五〇米突に位す、氣候凜烈なれども交通上の要衝、行政上の一中心にして二千人の住民あり、コブト(科布多)は西蒙古の要地にして城塞あり城外の商區を買賣城と云ふ。

◎新疆

新疆省は光緒十一年(一八八五)の新設に係りて、清國の西部を占む、西人の所謂東トルキスタンにして天山北路、天山南路、タリム地方、ロブノル地方、ロ外甘肅等より成れり、極南は北緯凡そ三十五度、極北は北緯凡そ四十五度四十分に近く、極西は東經凡そ七十三度三十分に起り、極東は東經凡そ九十八度四十分に終る、西より北西はアフガニスタン、中央アジアと境し、北より北東は蒙古に隣し、南は甘肅省、青海、西藏、イギリス領印度と境を交ゆ。

廸化即ちウルムチ(烏魯木齊)(一、五〇〇〇)は當省の首都なり、ヅンガル平野と東トルキスタン間の要路を扼す、ハミ(喀密)は豐沃なる泉地にありて天山南北兩路の會合點に位し、漢土、ヅンガル、トルキスタンの通商地なり、カシガル(喀什噶爾)(五、〇〇〇〇)は海拔一三八三米突に位して土壁を繞らし交通の要路に當りて盛なる商業地なり、ヤルカンド(葉爾羌)(六、〇〇〇〇)は海拔一三三六米突の地にありて市内に百六十の回教寺院を有す、ホタン(和闐)(一、五〇〇〇)も亦河に沿ひ肥沃なる泉地にありて、穀類、果物を集散す、クルヂャ(曲城)は漢名を寧遠と云ひウルムチを距ること四百九十粁、海拔六一〇米突にありて一萬三千の人口を有し地方の商區なり。

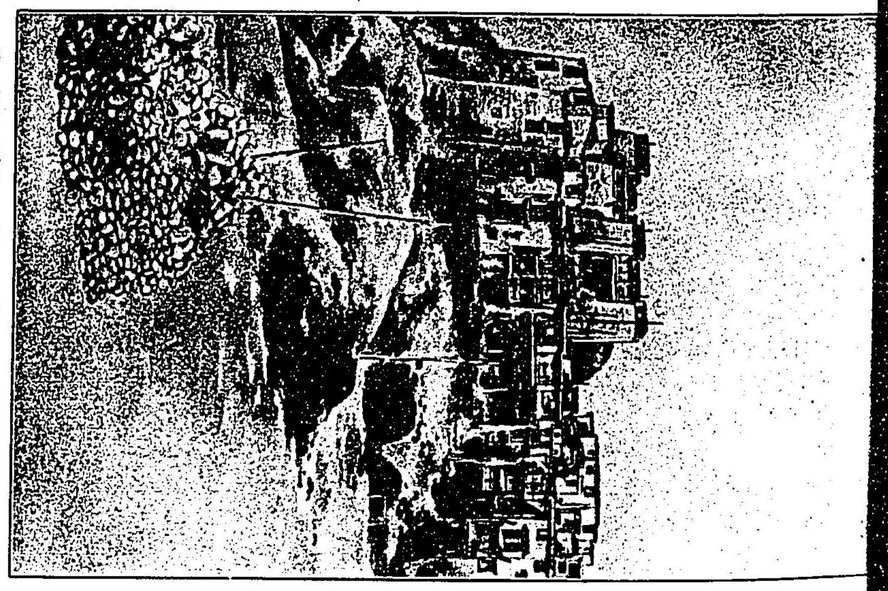
カシガル

ヤルカンド

◎青海

青海即ちココノル(庫々諾兒)は清國の中部に位して新疆、漢土、西藏の間に介在し或は西藏に屬すとせられ或は蒙古の一部と見らるることあり、南は北緯凡そ三十一度に起り、北は北緯凡そ四十度に達し、西は東經約八十七度、東は東經凡そ百三度に至る、北にツグスダバン、アルチンタ、南山等を控え、南西にコ

「ヤック」(Yak, Poeplagus grunniens)



ソーグンバ(ソーツオンに於ける喇嘛寺)[チベット]

す然れども南境をダンラ山脈とすれば南東は四川省に隣るべし地勢高降、八煙稀薄記すべき都邑なし。

◎チベット

チベットの自然的境界は北東は青海に隣し北西は新疆東は四川省に連なり南は政治的境界とは一致せざるが政治的境界に於て交る西はカシミアに接す滅人は其の南部を西藏ロンブスマ、ルコボロ、ヤンラ等の山脈を以て限り東は甘粛省に接し地勢高降、

ブータンネパールと境を交る西はカルカッタの北東八百四十五粁海拔三六千三二米突の高地にあり、〇九度五三七九分と云ふ。

ラサ（拉薩）北緯二九度五七分東經九二度

ラサは青海に隣し北西は新疆東は四川省に連なり南は政治的境界とは一致せざるが政治的境界に於て交る西はカルカッタの北東八百四十五粁海拔三六千三二米突の高地にあり、〇九度五三七九分と云ふ。

ラサ（拉薩）北緯二九度五七分東經九二度

ラサは青海に隣し北西は新疆東は四川省に連なり南は政治的境界とは一致せざるが政治的境界に於て交る西はカルカッタの北東八百四十五粁海拔三六千三二米突の高地にあり、〇九度五三七九分と云ふ。

ラサ（拉薩）北緯二九度五七分東經九二度

ラサは青海に隣し北西は新疆東は四川省に連なり南は政治的境界とは一致せざるが政治的境界に於て交る西はカルカッタの北東八百四十五粁海拔三六千三二米突の高地にあり、〇九度五三七九分と云ふ。

ラサ（拉薩）北緯二九度五七分東經九二度

殿と寺院とを以て充たされ、僧侶なり、此の河の支流なるキチュ河に瀕す人口は三萬三千あり、一小市街なり、ツンポ河に沿へる一小市街に住し參拜者頗る多し市内には毛布、器具、貝殿、ガラス類、刺繍、嘛呢車、製造行はれ商隊集合す、チベット人は、ツンポ（ブラフマプトラ）布達拉山の宗教的中心地にして市街は殆宮殿、〇〇（ツンポ）は世界地理提要

百二十五、

ヤック（Yack）［犛牛］（Bos Grunniens）［牛族］はチベット地方に飼育せらる、力役に堪え乳肉を食料に供し其質の皮革を與ふるが、毛は織物、綱具に製し殊に尾毛を排子に作り裝飾に賞用す。

ソーゾオン（Sok-Dzon）はカラウス（サリウエンの上流）の支流ソーチウ（Sö-chu）に瀕し海拔約三千米突に位す、グンバ（Gumba）（喇嘛寺）は宏大にして外觀頗る城塞に似たるが、坂路に據りて階段を爲せる普通の民家は近傍にありて恰も往古に於ける我が國の城下の如し、

に近き開市なり、シガッヱ(日喝則)(一、四〇〇〇)は海拔三六六四米突、ザンボ河の南にあり、近傍にタシルンボ(札什倫布)の僧院あり、ギアンツェ(江孜)(一、三〇〇〇)はシガッヱの南東東、海拔三九〇〇米突の地に位す。

◎租借地

清國には一定の年限を以て外國に貸與せる地域あり、關東州、威海衛、膠州灣、九龍、廣州灣之なり。

日本租借地

一八九八年に於てロシアが租借せし關東州は日露戰爭の結果、我が手に移ると成り、關東都督を置きて之を管理せしむ、地積は三千八百五十六方粁にして人口は約二十五萬人ありと算せらる、氣候は大陸的にして夏季に暑く濕潤を覺ゆれども、冬季は乾燥にして寒氣強し、土地は丘陵多く地味概ね磽确にして物産に豐ならず。

旅順は清國屈指の軍港なりしが二十七八年の役幷に三十七八年の役に於て我が軍の陷れし處にして其の名世界に著はる、港は東西約三粁、南北約一粁六にして東西の二港に分かれ一條の水道ありて南の方、外海に通ず、都

督府、鎮守府等あり、住民は三萬餘人と註せらる、鐵路に依りて大連に通ず。

大連は同名の灣(南北一六粁東西二四粁)の北西部に瀕す、南東に向へる灣口には大小の三山島を控え錨地は頗る優良なり、ロシア人の創設に係るダルニー(絶遠の義)の地にして市街の經營を始めとし、公園を設け港を築き棧橋を作りし、等大に見るべきものあり、南滿鐵道の起點にして通商上有望の地なりと認めらる、而して柳樹屯は灣の北東部に沿ふ小市街たり。

イギリス租借地

イギリス租借地は威海衛、九龍の二ヶ處にありて一千七百十二方粁の地積と二十三萬四千人足らずの人口を有す。

威海衛租借地は山東省にありて七百三十八方粁を有す、ポートエドワードは自由港にして駐在長官、駐屯兵幷に西人の居住處たる劉公島は港口を二分す、政廳は對岸の地にあり、威海衛は舊と清國の一大軍港を設けし處にして二十七八年の役、我が軍の占領せし處なり。

九龍租借地は香港防護の爲の租借せし處なるが九龍港、ミルス灣、デーブ灣ラン島等を含み地積九百七十四方粁、人口約十萬なり、九龍は從來荒蕪の地

膠州灣

なりしがイギリス領と成りしより繁盛なる港市と成りたり。

ドイツ租借地　ドイツは一八九七年十一月を以て膠州灣を占領し翌年四月之を保護地と宣言せり、租借區域は五百一方粁にして約十二萬の人口を有するが、イギリスに屬せる威海衛附近の地を除き全山東半島を以てドイツの勢力範圍と主張す、膠州灣は廣濶にして海底深く、灣口の海深は四十米突にして灣内優良なる錨處あり、風波の憂なくして船舶の停繫に便なるも、冬季(十二月より三月)に於て海岸の一部は結氷の爲め妨害せらるること

廣州灣

あり、租借地の首府たる青島(一八〇〇〇)は軍港と商港とを有す。

フランス租借地　廣州灣租借地は廣東省にあり、灣口に於ける東海、硇州の二島を合はせて八百四十二方粁の地積と十七萬九千九百人の人口とを有す、海頭(フォルバイヤール)は要塞地にして廣州(ボールツーメル)は政廳を有する市街地なり。

◎香港

香港島は廣東省の沿岸に於ける小島にして幅八百米突に過ぎざるリム

面積

人口

ピクトリア

ン海峡を挾みて九龍半島と相對し長約十八粁、幅凡そ三粁より八粁の間にありて、面積は對岸の地を合はするも七十九方粁に止まれり、島内ピクトリア峯(五四九)を始めとし丘陵多くして平地少なく、地味磽确にして樹木少なし、氣候に就きて氣温は一月の最低五度六、八月の最高三十二度八を示し、年雨量は二千百五十九粍なり、本島は舊と荒蕪の一小島なりしが阿片事件の結果イギリス領と成り、人口は一九〇四年に於て三十三萬餘人ありしが、其の大部は支那人なりとす、行政上はイギリスの直轄殖民地にして長官を知事と云ひ、行政、立法の二會議の補佐に依りて各般の政務を處斷す、首府ピクトリア市は島の北西岸にありて良港を有し船舶の出入頻繁にして盛に百貨を集散し實に東洋屈指の大貿易港なり、而して曾に商業の大中心たるのみならず、イギリス艦隊の根據地にして兵要の區たり、市街は岩山の斜面に階段的に建設せられ、最高處に住宅別莊多くして事務所は海岸にあり、ニューブレイア(New Pruya)、クヰンス街等最も殷賑を極む、水道、索綱鐵道、公園等の設備あり。

◎瑪港

瑪港(マカオ)(澳門)は往昔我が國にて天川と稱せし處なり、香港の西、四十浬餘、珠江の口に於ける半島幷に附近の小嶼を合はせ面積十二方粁、人口七萬九千人に過ぎず、此の地は一千五百五十年頃の創設に係り、爾來ポルトガルの領地なれども、香港の開けしより頓に勢力を失ひ、貿易の如きも振はずして衰運挽回の望みは殆となきに似たり。

◉印度支那

位置 印度支那はアジア洲の三大半島の一にして南東隅に位し、極南はブル岬の北緯一度十七分、極北は北緯二十七度十五分にあるが極西はブラマプトラ河の最東派バムニの河畔、東經約九十度二十分にして極東はベレラ岬の東經百九度四十五分なり。

境域 北東は清國の雲南、廣西、廣東の三省に接し、北西は印度のアッサムに隣り、東と南東とは南支那海に臨み、南西はベンガル灣、ペグー海、マラッカ海峽に瀕す、南北は二千五百粁に亘り、東西は一千六百粁に亘れるが最狹部たるクラー地峽に於ては四十餘粁に過ぎず、面積は凡そ二百十七萬方粁と概算す。

海岸 印度支那は二部より成り、其の一は北部にありて一大長方形を爲し、其の二は矩形部の中位より出でて狹長なるマラッカ半島と成る、而して大河の下流に於ける三角洲、其の他沿海流の河口附近にありては海岸平坦にして砂泥の地に屬するが、岩礁に富みて懸崖絶壁を爲せる處も亦少なからず、海岸線は六千粁以上の延長を有せるが良港に乏しく島嶼亦大ならず、灣の著しきものは南支那海にトンキン灣(アロン灣、ツラヌ灣)、ホンコヘ灣、カムラン灣、シャム灣ありて印度洋にベンガル灣、ペグー(バルマ)海あり、海峽にマラッカ、シンガポール、半島にマラッカ、地峽に兩洋連絡運河を通じ得べきクラーあり、地角にベレラ、センジャック、カマオリアント、ロマニア、ブル、ネグライスあり、島嶼にトンキン諸島、アンナム諸島、コンドル諸島、カンボヂア諸島、サムイ諸島、トンタラム島、シンガポール島、マラッカ諸島、メルギー群島あり、又アンダマン、ニコバルの列島を見る。

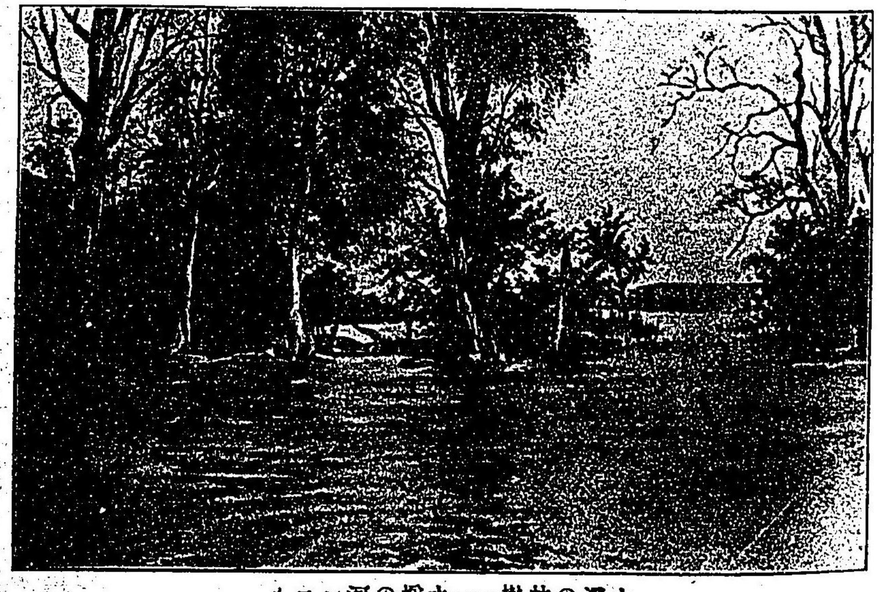
山岳 印度支那半島の山脈はチベット高原の南東に於ける横斷山脈の餘

派を受けて北西より南東に走る者多く、海拔は二千米突を超ゆるもの少なし、交趾山脈はソンコイ河幷に南海沿岸流とメコン河との分水線たり、タネンタウンギイ(Tanen-taung gyi)山脈はメコン河とサル井ン河との間より來りてメピンとサルキンとの分水山脈と成り、南走してマラッカ半島に達す、シャンヨマ山脈はサルキンとイラワヂ、シッタンとの流界を爲し、ペグーヨマ(Pegu-yoma)山脈はシッタン河とイラワヂ河の下流との分水嶺たり、此の他アラカンヨマ(Arakan yoma)山脈の噴泥山に富めるあり、マラッカ山脈のマラッカ半島を縱斷せるあり。

河湖 山脈の趨勢が單純なるは江河の流域をして單調ならしむ、即流域狹長にして南向せるの事實是なり、今主なる河流を記せば太平洋斜面にソンコイ清河、メコン(ナムハ、メホク、ナムウナ、ムカン、セムン、セコン)、メナム等あり、印度洋斜面に於てはサル井ン(ナムハ、ナムパン、ナム、ポン、スンケ、アタラン)、イラワヂ(マリ、ナムコン、ナムタピン、シオアイ、リー、ミイトニー、キエーンツエー)、ソンコイ河(紅河)(Song koi)等あり。

ソンコイ河は紅河とも呼ばる、雲南省に於ける海拔一千五百乃至

トンキン地方に於ける山岳の景



メコン河の增水——樹林の浸水

二千米突の高寒地に發し、トンキン地方に來り、ソン江(黑河)、清河を容れ沃野千里の三角洲を爲してトンキン灣に達し、長さは一千二百粁あり、國境以下を六百粁と計上す、時に沿岸の地に洪水の害を蒙らしむることあるも、亦灌漑、交通、漁獲の利を與ふることも少なしとせず。

メコン河

メコン(湄公)(Mekong)河はダンラ山脈の東方に發しルンモンチウ、ナムチウ、瀾滄江と成り、ラオスの地に來りてメコンと成り、漸次に流向を南に轉じコンに於て瀑流を爲しプノンペン附近に於てトンレサプ湖の水を受け、前河即ちメコン河と後河即ちバサック河との二派に分岐して所謂四肢流の狀勢を呈し數派に分かれ、三角洲は海に接すること六百粁以上に達す、本流の長さは四千五百粁を下らず、流域は一百萬方粁を超えざるべし、水量は四肢の附近にては七萬立方米突に達することあり、南西季候風に起因する增水は十二米突に達することあり、南西季候を聞かず、水源をチベットの西部海拔四二〇〇米突の地に發しガルチエトル、ナプチウ、ハラウス、ボルチウ(ボムチウ)、ヌチウ(怒江)、ルキアン(瀘江)、ルツェキアン(瀾子江)と呼ばれ、バルマに來りてサルヰンと成り途にマルタバン灣に注ぐが、西に往くをマルタバン派流と云ひ東に趨くをムルメイン派流と云ふ、河長、流域の如き其の計數を一にせず。

サルヰン河

イラワヂ河

イラワヂ(Irawadi)河は一にアイラバヂーと云ひ、源流ミカは北緯約二十八度に發しマンダレイ附近に至りて水勢少しく衰ふるがアラカンヨマを廻れる後にも水

勢稍、激しき處なきに非ず、本流は一千八百乃至二千粁の長さを有し下流は數派に分かれて三角洲を爲せるがランゲン、パッセインの二派は四時巨舶の出入を妨げず。

トンレサプ

湖沼の中最も著しきはトンレサプ(Tonle-Sap)即ち大湖あるのみ、該湖は瓢形を呈して北部を大湖、南部を小湖と云ふ、廣袤は季節に依りて變更するも乾燥季の面積は二百六十方粁なり、數多の河流を受けトンレサプ河と成りてメコン河に通ず、湖中漁利に富めり。

地勢　印度支那半島の地貌を案ずるに數派の江河は並行谷地の間を流れ、之を挾む山脈は概ね二千米突以下なるに拘らず、其の進歩發達の遲々たりしは山脈の趨勢之が主因たりしものの如し、蓋し氣候は緯度に於て差異を生ずるものなるが故に居民の住域を南と北とに於て限らんとするに當り、北西より南東に走れる山脈は東と西とを制し、住人をして割據孤立の中に單純なる生活を營みて進歩の母たる競爭より遠からしめたり、此の如くにして本半島の拓地殖民を企圖せるものは印度人、支那人なるとフランス人、イギリス人なるとを問はず、何れも河流を溯りたるが、現今人口蕃殖して拓地の業の進めるはソンコイ、メコンの三角洲、イラワヂ、メナムの沿岸に限り、之に次ぐるは沿海の地なりとす。

氣候　氣候は熱帶的にして濕乾の二季あり、五月より九月に至る南西風は降雨を來たし、九月より三月までの北東風は乾涼を生ず、而して三四の二月は殊に暑氣に苦む、バンコクに於ける氣溫は二十七度乃至三十度にして乾燥季には稀に十二度に降ることあり、サイゴンの最低は十八度にして年平均は二十七度强なり、又トンキンの年平均は七度六に降り、シアムの內部にても八度六を指示することあり、要するに北部にありては寒暑の差稍著しきも南部にありては其の差少なし。

氣溫

雨量　雨量は多くして其の配布一樣ならず、西部は最多量の雨水を受け、アラカンヨマの西斜面は六米突以上に達すれども、東斜面は一米突半に過ぎず、又マラッカ半島の西岸も雨量に富み、ビナンシ地方は三米突內外にしてアラカン島には八米突の降雨を見ること稀ならず、バンコクの雨量は二米突に達せずしてサイゴンは百七十四糎を示せり、而してメコンとソンコイ河との分

雨量

永山脈に於けるも亦西斜面は東斜面より多くの降水を受く。

天産　生物は支那に類するあり、印度に似たるあり、然れども之を細別すれば、トンキン、コシェンシーヌは支那的にしてカンボヂア、シァムにありては支那的と印度的との混合するを見るも、バルマ地方にありては印度的なり、而してマラッカ半島に於てはマライ群島固有の種類多きが如し、要するに印度支那半島の森林は「チーク」、椰樹の類に富み、動物には象、犀、虎、野牛、等あり、鑛物は鐵、鉛、銅、錫、銀、金、等ありて本半島の山脈に多く包藏せらるるが、マラッカ半島の錫、バルマの玉類、トンキンの石炭、アラカンヨマの石油、等は著し。

種族　アルマン氏の說に據れば印度支那の住民は數多の種族より成れるも之を五群に大別するを得、第一群はアンナム族、タイ族（シァン人、シァム人、ラオス人）、バルマ人、カレン人、プラカン人、等より成り、文化の度には懸隔ありて多少の變差を生じ、就中アンナム人は支那風を帶びバルマ人殊にアラカン人は著しく印度種族の混淆を受けたり、第二群はクメル人即ちカンボヂア人にして甚しく印度的感化を受けたるが附近の住人と異なりてジァバ人に酷

第一群

第二群

似せる所ありと云ふ、第三群は蕃族にして交趾にありてはモイ或はムンと云ひ、バルマにありてはカムチー、カキエンと稱し、カンボヂアのプノン、トラオ、クイにして支那に於ける苗族の如きものなるがボルネオ島のダヤクに似たる所多く、インドネシア派に屬すべきものと稱せらる、第四群はオランダ族にしてマライ、ビヌア、ウタン、セマン、サカイ、等に分かるるが半島の蕃民なり、中にはネグリトスに似たるものあれども多くはマライ的感化を受け居れり、第五群はマライ人なりとす、其の居住する處はマラッカ半島に限らずして大陸の地にも生存せり、占人の如きは蓋し此の種に屬すべきか、右の外、支那人殊に清國南部の廣東、福州地方の人は本半島に來住してトンキン、アンナム、コシェンシーヌ、シァム、シンガポール、等の各市街地に定居し、其の勢力侮るべからず、西洋人の數は未だ著しからず。

第三群

第四群

第五群

分國　印度支那半島はフランス、シァム、イギリス三國の分領する所にしてシァムは唯一の獨立國なるも、東西より壓迫を蒙りて境域漸く狹縮するの觀あり、若し勢力範圍を所屬に算入せば土地の四割五分はイギリス、四割四分はフ

ランス、人口の三分の二弱はフランス、三分の一弱はイギリスに屬す、以てシアム國の振はざるを知るべし。

◎フランス領印度支那

境域

フランス領印度支那は印度支那半島の東部にあつてS字形を呈せり、北は清國の雲南廣西廣東の三省に接し、東と南とは支那海を帶び、西はシアム、イギリス領のバルマと境を交え、面積は六十六萬方粁を超ゆ。

海岸

本領土はトンキン灣、南海、シアムに面すれども、海岸の屈曲は敢て多しと云ふ能はず、灣にアロン、ツラヌ、サイゴン、ハチエン等あり、半島にコシエンシーヌあり、地角にブンクィワ、ライ、バンタム、バレラ、センジアック、カマオ等あり、島嶼はケポオ、コンドル、コートロン稍著し。

山岳

交趾山脈は北西より南東に走り、ブロイ(二〇〇〇)、ブサシ(二七六〇)、アイツアト(二五六〇)、ダムホン(二一〇〇)等の諸山を戴く、

河流

印度支那半島の最長流たるメコンは本半島の最大湖たるトンレサプと共にフランス領の地を潤せり而して河流には尙ほソンコイ、ソンマ、ソンカドンナイ等あり。

地勢

フランス領印度支那は南北の兩部に平地を有せるが、一はソンコイの流域に屬して他はメコン河の下流に位す、此等孰れも地味佳良なれども中部に當れるアンナムには磽确なる處多く、土地の高低肥瘠共に一樣ならず、而して內部のラオスにありては平地は僅にメコン河の沿岸に存するのみなり。

沿革

帝堯の頃アンナム地方には羲叔なる者ありて君臨せしと云ふ、秦の始皇の兵を蒙りし南越、兩廣、トンキン、アンナム地方は趙氏の領する所と成りしも、漢の武帝に合はせられ、隋に至りては林邑、今のコシエンシーヌ地方も亦漢人に從へられ、唐の時交州今ハノイの安南都護と云ふ府は印度支那地方を統轄せり、五代の末、丁部領自立したりしが、宋は丁氏を封じて交趾郡王とす、其の後黎氏を經て李氏に至り國號を大越(西紀一〇一〇—一二二五)交趾又は安南とも云ふと稱し陳氏(一二二五—一四一四)の時は安南と云ひ、勢ひ盛にして占城を破り宋を侵せしが途に蒙古に降れり(一二五八)明の成祖に及び安南は彼に征服(一四〇七)せられ占城、カンボヂア、シアム等も亦朝貢するの止むを得ざるに至れり、清朝の黎氏兵を擧ぐるに及びて大越起り(一四二八)、明の封冊を受け占城、バルマを征服しラオス、雲南を侵し領土擴張せしが、莫氏の纂立せる後、大越二分し(一五四〇)、北部は莫氏、南部

は黎氏の有に歸せり、莫氏亡びし後に於て阮氏は順化廣南に據りて國號を廣南と云ひ、交都に據りて黎氏を奉ぜる鄭氏と相競ひしが、西山の阮文岳、文惠、等起りて(一七七三)兩國を亡ぼし後清の封冊を受けたり、此の亂に際しシアムに逃れし廣南王阮福映即嘉隆帝はフランスの宣教師の援助を得て國を一統し清より越南王に封ぜられ、同帝の沒(一八二〇)後、フランスとの關係圓滑ならざるに至りしが一八五八—六一年の役起りてサイゴン、ビエンホア、ミトーの三州、コンドル島はフランスに割讓せられ、一八六七年には井ンロン、シアウドク、ハチエンの割讓ありたり、一八七三年一時フランスはハノイを占領せしことありしが一八八二—八三年の戰役ありて一八八四年の締約と成り以て大南皇帝はフランスの保護の下に置れしが、天津條約(一八八六)に依りて清國も確認せざるべからざるに至れり、コシェンシーヌ、カンボヂア、アンナム、トンキンの聯合(一八八八)成りたる後、ラオスを併はせたり(一八九三)爾來邦内漸く治まり本國の權威行はるるや「キンルオック」大南皇帝の任命は廢止(一八九七)せられて、東京は純然たる屬地たるに至りしが、清國に於ける租借地廣州灣も亦印度支那總督府の管轄に加へられたり。

カンボヂア古代の歴史は詳細知るべからずと雖も早くより印度的文化を蒙りしことは爭ふべからず、七世紀の始め支那人來りてチエムラの名の下にフナン州アンナム邊の土地の附屬とせるも當國は全く亡びずしてアンナム人を壓倒せることあり、然るにシアムの盛大に起きし頃より漸く衰運に向ひ十八世紀の始めバッタンボンをシアムに割き

たり、一八六〇年ノロドン王位に即きし後、フランスの干渉を蒙り、一八六三年には其の保護國と成り、一八六七年の條約を以てバレンバン、アンケコルの二州はシアム領に歸したり。

人口は約一千九百萬人なれば一方粁に付き二十九人の割合なり、種族はアンナム(一千三百五十萬)其の大部を占め、此の他にクメル、ラオス、蕃種、支那人、チアム人等あり、アンナム種族は黄色人種の一派にして一に交趾種族と云ふ、トンキン人、アンナム人、コシェンシーヌ人に分かるるも此等三者の間に有する差異は僅少なり、然れども、カンボヂアのクメル人は別に一種族を爲せり、宗教に就きて居民の多數は祖先を祭り英傑の士を敬ふこと恰も神佛に事ふるが如く、中流以上の人士には孔孟の教を尊信するもの多く、普通の人民中には佛教を奉ずるもの亦少なからず而して四十二萬の天主教信者は各開市場の附近に散在せり。

宏大なる權限を有する總督はトンキンのハノイに居り、印度支那高等會議及國防會議の幇助翼贊に依りて聯合領土の施政を司り、内外に對し防禦の責に任ず、其の配下にはサイゴンに副總督を置きハノイ、フエ、プノンペン、

ピエンチアヌに統監を置きて當該地方の行政を司らしむ又廣州灣租借地は印度支那總督の管轄に屬す。

領土	地積	人口	方粁に付	行政區劃
コシエンシーヌ	五、六九〇〇方粁	二九七、三一二八人	五二人	二〇州、三市、一島
カンボヂア	九、六九〇〇	一三三、二六九一	一四	一一駐在區
アンナム	一三、五〇〇〇	七〇九、六四六五	五二	一〇州
ラオス	二五、五〇〇〇	九一、二〇七四	四	一五監督區
トンキン	一一、九二〇〇	六四三、一四七〇	五四	二市、二一民政州、四軍政區
廣州灣	七〇〇	一八、〇一六〇	二五七	
合計	六六、三七〇〇	一一九二、五九八八	二九	

兵備に就きて陸軍は西人に一萬餘、土人に一萬五千足らずありて駐軍高等司令樞は陸軍中將に委ねられ海軍には甲裝巡洋艦二隻、巡洋艦三隻、砲艦六隻、報知艦二隻ありて極東艦隊を組織し根據地をサイゴンに設け、其の支部をハイホン、廣州灣に設く。財政に就きて一九〇五年の豫算に依れば歳入は約四千八百四十萬ピアストル（總豫算三一八〇萬フランク、トンキン四九、二、五、廣州灣二五）なり。アンナム二五六、カンボヂア二五一、ラオス九

農業は稻、麻にして米、砂糖、胡椒等を產す。牧業は牛類を養ひ、漁業は雜魚を捕ふ。又林業は「チーク」其の他の木材を給す。工業は不振なれども多少の製品を興へざるに非ず。貿易は漸次に發達するものの如く、一九〇五年に於ては輸入約二億二千三百九十四萬（フランク領三二二六）フランク、輸出凡そ一億二千二百萬（フランク領一一九五）フランクにして輸出凡そ一億二千（一一三五）、胡椒（五二六）、石炭（四〇四）、皮（三四二）、綿花（二二四）、蔗（一九五）、玉蜀黍（一六五）、「ラカヂム」（一〇五）、生絲（一五九）、等あり、船舶の出入に就きては入船に凡そ百二十八萬九千噸ありて出船に百三十八萬餘噸あるが、其の第一位はフランス（入船六九出船七〇）の占むる所なり。鐵道の經營は大に注意せられ一千一粁の既設線（一九〇五年）の外に少なからざる豫定線あり、電話線の延長は一千九百粁（一九〇四年）にして電信線に二萬九百三十粁、電話線に凡そ二百六十粁あり。

トンキン

トンキン（東京、Tonkin, Teng-king）は印度支那半島の北東部を占め、南東はトンキン灣に臨み、南はアンナムに接し、南西及び西はラオスに隣し、北及び北東は清國の雲南、廣西、廣東と境を交ゆ。東西は六百五十粁に達し

幅は四百粁あるが境界明確ならず。

ハノイ　ハノイ(河内)(Hanoi)(一〇、三二三八)北緯二一度一〇分東經一〇五度四〇分は土俗にケショと云ひ、東都、交都等の名あり、紅江の右岸にありて三角洲の要處を占む、所謂四通八達の地にして交通上の要衝に當り、水脈と鐵路とに依りて百貨の集散を司るのみならず、トンキン幷にフランス領印度支那の首府なり、市街は整備せざるも雜貨、筬細工、紙等の産あり、ハイホン　ハイホン(海防)(Hai-Phong)(一、八四八〇)は首府を距ること九十三粁にしてトンキン最要の河港たり、盛に貿易に從事す、ベクニン　ナムヂン(北寧)(一、〇〇〇〇)はハノイの北東二十六粁にあり、占領史上著名の地なり、ランソン(諒山)(Lang-song)はハノイの北東百二十五粁にありて西江の支流ソンキコンに瀕し交通の要點に當り占領史に名あり、ソンタイ(山西)(Son-tay)は三角洲の頂點を占むる城塞地なり、劉永福の最終根據地として名を知らる、ラオカイ(老開)(Lao-kay)は國境に於ける城塞地にして雲南省の開市河口の對岸にあり、ナムヂン(南定)(Num-dinh)(三、五〇〇〇)はハノイを距る南西七十五粁、運河の岸にありてトンキン第二の都會なり、城塞を有し農産を集散し生絲、絹布を製す。

アンナム　アンナム(Annam)即ち安南(テンナン)は印度支那半島の極東に當る王國にして北にトンキン、西にラオス、南にコシェンシーヌを控え、東方の沿海方面を除くの外は境界自然的ならず。

フエ　フエ(化)(Hue)(五、〇〇〇〇)北緯一六度三四分東經一〇七度三五分は古の比景にして西都順化府と稱す、海を距る十二粁、フォンギアン(Huong-giang)河に跨る、大南國の首都にして王宮は左岸にあり、高等駐在官の居館は右岸にあり、チャアンアン(順安)(Thuan-an)はフエの附屬港なるが船舶の出入碇繫に便ならず、ツラーヌ(Tourane)(茶鱗)はフエ最近の良港にして當國の殖民史上著名の處なり、クイノン(歸仁)(Qui-Nhon)はピンヂンを距ること十八粁、中部アンナム最要の開港なり、キン(永)(Viuh)(一、八〇〇〇)はソンカの河口を距る十六粁、沃野の中にありて、ラオスに通ずる道路の建造以來漸次繁榮し有望の地なり。

コシェンシーヌ　コシェンシーヌ(Cochinchine)は南支那海を南東に控え、西はシャム灣に瀕し、北西はカンボヂア、北はラオス、北東はアンナムに隣接す、南

西より北東に達する長は約四百五十粁にして幅は百五十粁内外なり。

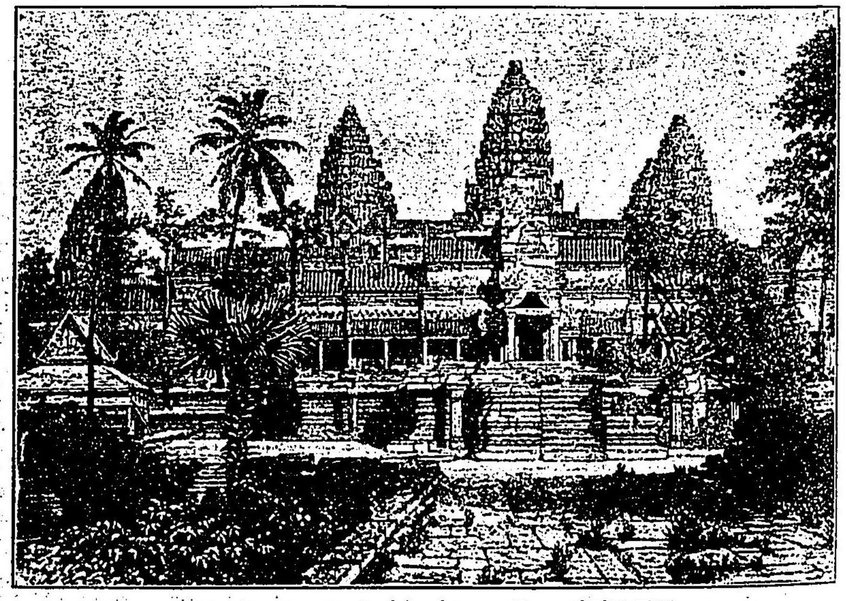
サイゴン(柴棍)(Saigon)(五、〇八七〇)(北緯一〇度四七分東經一〇六度四二分)はサイゴン河に瀕す、當殖民地の首府にして印度支那殖民地の重鎮なり、城塞造船所等は南部に、樓橋新港等は西部に、市街は中部にあり、道路は廣濶整然たり、ビエンホア(邊和)(Bien-hoa)(一、九〇〇〇)はドンナイ河に瀕し木材甘蔗を集散す、カップセンジアック(Cap St.-Jacques)はドンナイ河の主口ソイラップの左端に位して砲臺を有す、ミトー(Mytho)(一、五〇〇〇)は前河と郵便運河に沿ひ鐵路に依りてサイゴンに通じ交通上の要區たり、ショロン(Cholon)(一二、九七二一)はコシェンシーヌ最要の市街にして商工業盛なるが、殊に米穀を集散す、コンドル群島はメコン河口を距る約百八十粁の沖合にあり、要塞地たるべく計畫せらる。

ラオス

フランス領ラオス(Laos)(老過)即ち東ラオスは北西より南東に亘れる狹長の地にして北東はトンキン、アンナムに接し、南はアンナム、カンボディアに隣し、北西は清國の雲南省と境を交え、南西はメコン河に限らる。

キエンシアヌ(Vien-chan)は又キエンチアヌ(Vien-tiane)とも云ふ、メコン河の左

モイ　バーナル(Mois-Bahnars)の村落



アンゲコル　ワット(Angkor wat)——寺院の正面

ナホルヴート (Nakhorvât) は俗にアンゲコルと稱せらる、大湖の北、十八粁にありてクメル時代の遺跡を以て有名なり、ブラーマ的佛教の寺院は西紀九世期頃に創建せられ十四世期に至りて中止せられたるが如し、規模壯大にして各部の配列宜しきを得たり、實に有數の建築物と云ふべし。

40 80
50 90
60 100
70 1000
10000
100000

プノムペン

岸、支流ナムキエンの河口、北緯十七度五十七分に於ける一邑なり、ラオス統監の居る處なり、有名の地とす、ルアンプラバン (Luang-Prabang)(二、〇〇〇)はメコン河とナムカン河との相會する處にありて、交通上の要區たり。

カンボヂア

カンボヂア(東甫寨) (Cambodje) は印度支那半島の南部に於ける一小王國にして、アンナム、コシンシーヌ、シャムの間に位し南西の瀕海部の外、境界は概ね人爲的なり。

プノムペン (Pnom-Penh)(五、〇〇〇)は一にナムビアン(南旺) (Nam-Viau) と云ふ、サイゴンを距ること二百十粁、四肢流の會する處にある王都にして交通上の要區に位し漸次發達しつつあり、カンポット (Kampot) はプノムペンの南西百三十七粁、プレックドノー河口に位する港市なり、船舶の碇繫に使ならず。

◎シャム國

シャム (Siam) 國は一にサヤム (Sijam) と云ひ、漢人の暹羅國なり、印度支那半島の中部にありて、タイ部 (Thai) とマラッカ半島の一部とより成れり、其のタイ

部は東幷に南東にフランス領の地を控え、北及び西はイギリス領のバルマに隣り、南はシアム灣に沿へるが、其のマライ部は東に支那海、西に印度洋を控え、南はイギリス領のマライ保護國に接す、面積は六十三萬三千方粁ありと稱せらるるも、東部にはフランスの勢力圏に屬する處あり、西部、南部にはイギリスの勢力範圍に屬する部分ありて眞の領土と云ふべきはメナムの流域に限られんとするの恐あり。

海岸　海岸は屈曲多からずしてシアム灣は更にバンコク灣を形成せり、地角には リアント岬、北東岬、南岬あり、島嶼には コークット、ペンナン、サムイー、トンタラム、テンカキ、テルト、サランあり、地峽は クラ、リゴルを以て著しとす。

山岳　東チベットより扇骨狀を呈しつつ南走する山脈中にタネンタウンギ小山脈あり、メチアン山脈と成り、ムライキット山(一六七六)を出現せしめたるなり、ナセリム山脈に達せり、又マラッカ半島の脊骨山脈は顯著なる山岳を出現せしめ、して數ヶ處に缺陷あるが殊にクラ地峽に於ては二十五米突に降れり、而して北及び東に於てメナム河とメコン河の流域を劃する山脈には稍著しき海拔を有するものあり。

河湖　主要なる河流はタイ部の西部にメナム(一二〇〇)タチン、メクロン(Me Klong)(四〇〇)等の數流ありてバンコク灣に注ぎ、東にはナムシ、ナムムンてメコン河に入る、湖沼はトンレサブの外著しきものなし。

メナム河　メナム(濱南)(Menam)河は長さ一千二百粁に達す、水源をムオンナンの北方に發しメピン河を容れ緩流してタチン河に通じ、數派に分かれバンコク、パクナムを經てバンコク灣に入る、本河は流勢の緩なるのみならず潮汐の恩惠を蒙るが故に交通上の利便甚だ多し。

地勢　山脈は其の海拔著しからず、メナム河畔には稍廣き平野あり、土壤肥沃にして頗る稼穡に適するも拓殖に就きたるは其の中流地方と河口に於ける沖積地とに限り、國土の大半は荒蕪の地なり、是住民の怠慢無氣力なるが爲めにして現時の耕地は全國の二十分の一だにも達せざるべし。

氣候　氣候は熱帶的なるも海岸は涼風の爲め、内部は降雨の饒多なると地勢とに依り暑氣和ぎ人體を害すること少なし、氣温の年平均はバンコクにて約二十七度なるが、稀には晝間三十六度に達す、風に就きて南西季候風は雷雨を

齎らし、北東季候風は乾燥ならしむるが、九月より十二月に至る涼季は天氣晴朗にして愉快の時なり、雨量はバンコクにて一米突六七なるが其の五分の四は五月より十月に亘りて降下す。

沿革

古代にありては當國はラオス人の占居に係りしが、印度より渡來せしクメル人は優秀の文化を齎らして侵入し一時は盛を極めたるが如し、然るに西紀五六世期頃北來のタイ即ち自由の種はメナムの流域中に南漸してピツァスロク、ラヘン、ナホンサワン、アユシア等を建設したり、五世期に亘る混戰の後、タイは勝を制したるもパルマ人の爲めに二回一五五五、一七六七の大敗を取りたり、西人の始めて此の地に現出せしは第十六七世期の頃にしてポルトガル人并にフランス人は宣教を試みたり、ルイ十四世在位の頃不結果なる干渉を試みし後は西人の此の地に對する企圖殆ど其の跡を絶ちたりしが第十九世紀に至りて、イギリス人、フランス人、ドイツ人は爭ひて使節を送りたり、爾來外交漸く不穩にして一八九三年のフランスとの條約と成りて中立帶の現出を見、イギリス、フランスの協商(一八九六)、一九〇二年及び一九〇四年のフランス、シアム條約等に依りてシアムの境域を縮小せしめんとせり。

住民

人口は六百三十二萬人にしてシアム人、ラオス人、シアン人の外にカンボヂア人、バルマ人等あり、支那人の來住するものは毎年四五萬人あり、總人口の三分一内外を占むるシアム人はタイ族中にありて文化の進みたるものなるが、風俗習慣は印度的にして政治、法律等は支那風を帶べり、宗教は佛教最盛行はれ、四千七百餘の寺院に五萬八千餘の僧侶あり、教育には見るに足るものなけれども漸次好況を呈せざるに非ず。

政治

シアムアンタイ(Muang Thai)即ち自由王國は君主專政の國なるが西洋風の政體を模倣せり、内閣は外務、内務、軍務、財務、法務、警務、教育、農務、工務、宮内等の諸省の長官より成り、別に參事院を設けて法律の制定に預からしむ、地方の行政に關しては本土と屬地とに分かれ、本土即ちシアムは一府五十八郡に細分せられ、屬地はカンボヂア諸州、ラオス州邦、シアン諸邦、マライ諸邦の四に分たる、陸兵は平時に一萬二千人あるが海軍も亦振はずして二巡洋艦七砲艦は合はせて五千噸なるのみ、財政は一九〇五—〇六年の豫算に依れば歳入に約五千三百六十二萬「チカル」ありて歳出は五千二百八十七萬「チカル」餘に過ぎず。

生業

漁業の利は少なからざるも獵業は著しからず、牧業は牛、馬、象の外、豚、綿羊、山羊、鷄等を飼養し、林業は「チーク」を興ふるが、採伐未だ盛ならざるも良

材多し、農業は主として米(年平均百三十萬噸)を産し胡椒、珈琲、煙草、麻、綿等各種の農産物あり、鑛業は盛況を呈するに至らざるも砂金、錫、鐵、鉛、銅等あり、工業は數百年來進歩することなく絹綿の紡織、金屬器の製作等に從事するのみ、貿易は一九〇五年に於て輸入に六千八百七十六萬九千「チカル」、輸出に一億三百十三萬「チカル」あり、主にシンガポール、香港、イギリス等と取引し主要輸出品は米(七九〇六)、チーク(一四三七)、皮(一二一)、胡椒(九四)なりとす、而して船舶の出入の如きも六十八萬噸内外に止まり、商船は十六隻五千餘噸電信線は六百四十八粁、郵便局は百十一、電信線は五千二百九十粁にして交通機關は發達せざるなり。

バンコク

バンコク(盤谷)(Bangkok)(六〇、〇〇〇)(北緯一三度四六分東經一〇〇度二九分)は宗教名をスァナグリと云ひて西紀一八六八年以來の王都なり、市街はメナム河に跨れるが東岸にあるものを要部とす、シァム灣を距ること約三十粁にして周圍十四粁の島嶼を爲し城壁を繞らせり、廓内には王宮を始めとし官廨、公署、邸第、寺院等あり頗る壯觀なりと云ふ而して西岸に沿へる浮店は無數の河舟と共に當市の活動と富力とを表せるが普通の住屋は茅舍多し、運河堀割は縱横に通ずるも道路は甚だ少なし、船舶の出入は頗る繁にして盛に百貨の集散に從事するが商權は主として支那人の掌中にあり、住人は四十萬乃至六十萬と概算せられ支那人(三十萬)、シァム人(十八萬)、ラオス人(五萬)、ペグー人(二萬)等より成れり。

パクナム

パクナム(巴克南)(Pak nam)はメナムの河口左岸にあり、バンコクを距ること二十五粁の附屬港にして寺院多し、要塞地としては三ヶ處の砲壘を有し、王都を距る十二粁に於けるパクラト(Pak lat)と共に國都の防禦線に當れり、

クルンカオ

クルンカオ(Krung Kao)は五萬の住人ありと稱せられ商業の地なり、附近に野象多く王室の御獵地あり、ラヘン(Rahieng)(二、〇〇〇)はバンコクの北北西三百七十五粁、ナピン河畔にあり市街繁榮なり、チァンタブン(Changtabun)はタロン河の左岸に位し、河口の錨地パクナムチァンタブンを距ること二十粁にして一萬足らずの住人を有する商業地なるが一八九三年以來フランスの占領せし處なり。

ナホルワート(Nakhorvat)は俗にアングコルと稱せらる、大湖の北十八粁

キエンマイ

にありてクメル時代の遺蹟を以て名高し、コラット(科拉持)(Korat)(一〇〇〇〇)はバンコクを距る二百二十三粁、メコン地方に達する道路に當れり、城塞を有す、キエンハイ(Xieng hai)はメコンの支流メポックに瀕す、交通上の要區にして雲南とラオスとの直通路に當り商業稍盛なり、キエンマイ(Xieng-mai)(五、〇〇〇)はメピンの上流に位しシャム及びラオスとの重要商業地の一にして殊にマウルメインとの取引甚だ盛なり。

◎イギリス領

イギリス領は海峡殖民地、マライ保護國、ジョホル、バルマ、アンダマン列島、ニコバル列島等より成り、地積は七十五萬方粁に餘り、人口は一千二百萬以上に達すと云ふ。

バルマ

バルマ(Barma)即ちビルマ(Birma)は印度支那半島の北西部を占め、北西は印度のアッサム及びベンガルに隣し、北は チベット、北東は雲南省に連なり、東はフランス領及びシャム國と境を交え、南より西は海に瀕し、面積は六十一萬方粁以上あり、海岸は單純に非ざるも屈曲に富めりと稱し難し、海灣にマルタバン灣、ペグー(バルマ)海あり、岬にネグライスあり、島嶼にメルギー群島アンダマン列島、ニコバル列島等あり、山脈は其の方向簡單にして、タネンタウンギイ山脈、コカリト山脈(ムカイ山)三〇〇〇、シャンヨマ山脈、ペグーヨマ山脈、アラカンヨマ山脈の外尚ほ數脈あり、河流は北流してブラマプトラに入るものあるも、サルヰン、イラワヂ、シッタン、コラダン等概ね南流してバルマ海に注げり、地勢一般に高隆ならず、大河の三角洲は概ね平低なり、氣候は概して熱帶的なるがイラワヂ上流地方は寒暑乾燥共に一歩を進め、沿岸山脈の外面は雨量多し。

太古のことは明瞭ならざるが若干の小佛教國ありて覇權の掌握を爭ひしものの如し、一七五二年ペグー人全土を平げしに翌年アロンプラ興りて國勢振ひしがイギリスと兵を交ゆること三回、遂に一八八六年を以てバルマ王國は亡びたり。

人口は一千四十九萬餘人ありて一方粁十七人の割合なるが其の大部はバルマ人にして其の他にカキエン、ラハイン、カレン、タライン等の數種族あり而して信教上は主として佛教を奉ず、此の地は印度帝國の一部を爲し副總督の管理する所なり、生業の中最も注意すべきは農にして多量の米を出だし林業(チーク)を興へ、牧業、漁業にも見るべき者あり、又寶石類の產少なしとせず。

ラングーン

マウルメイン

マンダレイ

バモ

ラングーン(Rangoon)(蘭貢)(二三、四八八一)北緯一六度四六分東經九六度一一分はバルマの首府なり、イラワヂの分流に瀕し大船巨舶と雖も自由に出入するを得、商業上當地方の中心を爲し大に米穀を輸出す、バッセイン(Bassein)(三、〇〇〇〇)は同名の河に瀕して亦米の輸出あり、プロメ(Prome)(三、〇〇〇〇)は米產地にありて商業上、軍事上の一要地たり、マウルメイン(Maulmain)(五、八〇〇〇)はサルキン河の左岸に位し木材を輸出す、マンダレイ(Mandalay, Mandelay)(一八三八一六)はイラワヂ河を距ること四粁、ラングーンを距る六百二十一粁にあり、舊とバルマ王國の首都たりし處にして市況繁華なり、バモ(Bahmo)(五、〇〇〇〇)はイラワヂ河畔に位し支那の國境に近き交通の要地なり。

アンダマン＝ニコバル

アンダマン(Andaman)、ニコバル(Nikobar)の二列島はネグライス岬の南西に位し、地積合はせて八千百四十方粁、人口凡そ二萬五千人あり、て印度帝國の一州たり、氣候炎熱にして熱帶植物繁茂す、一八五八年以來アンダマン列島は流刑場に充てられ、南アンダマンの東岸に於けるポートブレアは廣濶なる灣を有し灣口のロッス島は知事の居住地なり。

海峽殖民地

海峽殖民地(Straits Settlements)はシンガポール島、ピナン島、マラッカ等より成りて三千九百五十二方粁の地積と約六十萬人の住民とを有し本國の直轄に屬す、農產には胡椒、「タピオカ」、米、砂糖等あり、貿易は一九〇四年に於て約三億六千八百八十二萬「ドル」の輸入と三億一千四百五十一萬「ドル」足らずの輸出とを示し、船舶の出入は一千六百七十萬噸に近く實に盛なりと云ふべし、鐵路も四百粁以上あり。

シンガポール

シンガポール(Singapore)島はスマトラ島とマラッカ半島との間に於ける海峽中にありて半島部と相距ること最も狹き處に於て約八百米突なり、島の長さ四十三粁、幅二十三粁、面積五百三十四方粁ありて最高處は一五八米突に過ぎず、本島は一八二四年ジョホールより購入せられしものなるが、島の南東端に市街あり、シンガポールと云ふ、氣候の炎熱なるに拘らず健康に適すると世界屈指の良港を有するとに依り遂に今日の盛況を呈せり、住民は二十三萬に達し其の過半は支那人にしてマライ人之に次ぎ市内には政廳、各國領事館、植物園、動物園等見るに足るものあり、港は自由貿易港として日本、支那、印度、ヨーロッパ等に對し深き關係を有するのみならず交通の要樞たり、我が

横濱を距ること二千八百七十浬なり。

マラッカ(Malakka)は海峽に面し、長さ六十八粁、幅十三粁乃至四十粁あり、海岸は低きも内部に高く米、「タピオカ」、胡椒、果物、錫の産あり、往時有名なりしマラッカ港は今は衰微を極む、ピナン(Penang)島即ちプリンスオブエールス島は半島を西に距ること三粁乃至十六粁の沖にある小島(二七七方粁)にして其の五分の三は丘陵地なり、首府ジョージタウンは交通の要地なり、對岸のエレズリー(Welleley)(六九五方粁)并に南百二十九粁に當りて半島の西岸を占むるディンディング(Dinding)も海峽殖民地の一部にして、スマトラ島の南西一千百三十粁に於けるキーリング(Keeling)諸島即ち椰樹島(二二方粁)、同島の東に於けるクリスマス(Christmas)島(一〇二方粁)も亦イギリス領なり。

マライ保護國

マライ保護國は半島の大部を占めて七萬方粁の面積を有しペラー(Perak)一、九〇〇方粁、三八、一五〇〇人、セランゴル(Selangor)二、八〇〇方粁、二一、六九二〇人、ネグリセムビラン(Negri Sembilan)及びスンゲイウジョン(Sungei Ujong)一、七〇〇方粁、七八三〇人、パハン(Pahang)三六〇方粁八、五〇〇人の諸國より成り、各邦は「ラジャー」を君主に頂けるが一八九六年以來駐在官の支配の下にありてシンガポール知事に隸し、錫を以て最要の物産とす而して珈琲胡椒、甘蔗、米、木材等も産出す、保護國最大の都會はクアラランプル(Kuala Lumpur)(三、二三八一)にしてセランゴルにあり、鐵路に依りてケラン港と通ず。

ヂョホール(Djohore)：マラッカ半島の南端に位し、面積は一萬八千方粁、住民は二十萬人と算せらる、一八八五年以來「スルタン」の外交はイギリスの代表する所にして「ガンビル」、胡椒「セゴ」、茶、珈琲等の輸出あり、首都ヂョホールバール(Johore Bahru)(一、五〇〇〇)はシンガポールの北西二十四粁に位す。

◉マライ群島

境域　マライ(馬來)群島はマライシア(Malaisia)又はインドネシア(Indonesia)と稱せらるることあり、アジア洲の南東に沿へる一大群島にして東西凡そ三十八度(東經約九十五度、同凡そ百三十三度)、南北凡そ三十度(北緯凡そ二十度、南緯凡そ十一度)に亘り、約八百萬方粁の疆域を占むるも地積は二百餘萬方粁に過ぎず。

區劃　海深、氣候、生物等の見地よりして本群島は支那馬來(Sino-malais)(一九、一四四八方粁)、印度馬來(Indo-malais)(一三四、五三二九)、南方馬來(Austro-malais)の三部に區分するを得るが支那馬來と印度馬來との二部を合はせてアジアマライ即ちマライ群島としてアジア洲に入れ、南方馬來をマライシアと稱してオセアニア洲に屬せしむるも可なり。

I、支那馬來　フィリッピン群島　スールー列島

II、印度馬來　スマトラ群島　メンタエイ列島　リウ群島　リンガ群島　バンカ島　ビリトン島　アナンバス諸島　ナツナ島　ボルネオ島　パラワン島　カラミアヌ諸島　ミンドロ島　ジアバ島　マツラ島　バリ島

III、南方馬來　セレベス島　サンギ諸島　モルッカ群島　ソンダ列島　チモル島　南西群島　南東群島　ケイ諸島

火山　本群島は世界屈指の火山地方にして島嶼の形成の如きも火山の存否に依りて大に其の趣を異にせり、而して火山質の山岳は二脈を爲すべく分布せらるるが、其の一はジアバ、スマトラ、等の諸島を貫通し其の二はモルッカ群島より起りセレベス島の北端を經てフィリッピン群島に入り、北の方、我が臺灣島に趣けり、六十有餘の活火山幷に數百に達せんとする休熄火山は合はせて八千粁の線上に亘り、地震區域は該線に跨りて其の廣袤甚だ大なり、而して火山の多きはジアバ島を第一とし、スマトラ之に次ぎ、フィリッピン群島にも數多あり、然るにボルネオ島の如きは本群島の最大島なるに拘らず殆と火山の痕跡をも認めず。

氣候　本群島が回歸帶にあるに拘らず、氣溫は常に二十六度內外を保ち最高と最低との差は僅に二度あるに過ぎず、又雨量は土地の高低に依りて著しき差異あるも概ね乾燥に失することなく到る處に森林蓊鬱たり。

住民　住民はマライ亞種に屬するマライ人、インドネシア人、黑色人種に屬するパプア、ネグリトの四群に分かる、マライ人は大多數を占め文化の度稍高く百業を務むるに適するも氣力乏しきを遺憾とす、インドネシア人之に次ぎて內部の山間に住し、未だ蕃風を脫するに至らざるネグリト及びパプアは極めて少數なり、又西洋人にして本群島に住する者は多からざるが、中に就きてオランダ人は六萬人と算せられ、アジア大陸より來住せるものの中、支那人は漸次增加して七十萬に達すべし。

沿革　マライ人が舊來の住民中にて一頭角を拔けるに實ありて殊に通商の爲の太平及び印度の兩大洋を航行し、西はマダガスカルに及び東はポリネシアに達せしが未だ嘗て一大帝國を組成せざりき西洋人の始めて當地方に現はれたるは西紀十六世期の頃にしてポルトガル人はソンダ近海に出沒し、內豈蹠の輸入を試み(一五二一年)モルッカ群島の占領に關してエスパニアとの爭議の外、結局一世期間は安穩無事